

2025（令和 7）年度 事業報告書

学校法人 湘南ふれあい学園

目 次

I	学校法人湘南ふれあい学園の概要	1
II	学校法人湘南ふれあい学園教育指針に関する報告	9
III	学校法人湘南ふれあい学園中長期計画に関する報告	18
IV	2025年度各学校の事業計画の概要に関する報告	20
V	財政報告	46
VI	施設・設備報告	55
VII	生涯学習事業報告	56
VIII	収益事業報告	56
IX	監査報告	57

I 学校法人湘南ふれあい学園の概要

■ 基本情報

名称	学校法人 湘南ふれあい学園		
理事長	大屋敷 芙志枝		
主たる事務所 住所	神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16 番 48 号		
電話番号	045-828-4322	FAX 番号	045-828-4323
ホームページ	http://www.fureai-g.ac.jp/		

■ 建学の理念

「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」

その考えのもとに 保健・医療・福祉・教育を担当し そして、社会へ奉仕する事をめざすものです。

わたしたちは、すべての人々のしあわせに、今、役立ちたいと願っています。

1 やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践

2 ^{いのち}生命を全うしていただくための知識・技術の習得

3 その人らしさと個性を尊重し敬愛す

わたしたちは、理念の実践者になります。

■ 教職員の行動基準

1 使命

ふれあいグループの理念を基本とし、地域の人々の幸せに役立つ保健・医療・福祉・教育を保障するために、専門職的で倫理的な医療と教育を行なうべく最大限の努力を尽くす。

2 地域社会への貢献

ふれあいグループの医療と教育機能を地域の医療・教育体系に連携し、効率的な地域サービスの成果を挙げることに努める。

3 研修と教育

教育者としての研修に励み、ふれあいグループとして提供できる医療教育水準の向上と後進の教育に努める。

4 記録と守秘義務

記録を完備し確実に管理するとともに、職務上知り得た個人の秘密は厳守する。

5 管理運営

学生中心の教育の心構えを堅持し、ふれあいグループが地域社会に必須の医療並びに教育施設として存続できるよう、公正で合理的な管理運営に努める。

■ 事業基本方針

- 1 私たちは、PDC 活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します。
- 2 私たちは、学生・園児に最適な教育サービスをタイムリーに提供します。
- 3 私たちはやさしさ、思いやりと気配りのある態度で仕事をします。

■ 全教職員参加

- 1 PDC 活動の推進（部門・個人 PDC の精度向上）
- 2 安全管理体制の強化（委員会活動の活性、規程類の再点検）
- 3 FD・SD 活動、研修活動の推進（授業内容、職務内容の改善による教育水準の向上）
- 4 業務改善運動の推進及び 6 S 活動の実践
- 5 時間外勤務削減及び時間の有効活用

■ 法人及び設置校の沿革

年 月		沿革
平成 6 年 (1994)	1 月	準学校法人 湘南ふれあい学園設置
	4 月	茅ヶ崎看護福祉専門学校創立
平成 10 年 (1998)	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校創立
平成 12 年 (2000)	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校社会福祉専攻科設置
平成 13 年 (2001)	1 月	学校法人横浜アカデミーより 2 幼稚園、2 専門学校、1 予備校を継承 湘南ふれあい学園を準学校法人から学校法人へ変更
平成 14 年 (2002)	4 月	専門学校横浜外語ビジネスアカデミー日本語研修科設置
平成 16 年 (2004)	4 月	下田看護専門学校創立 専門学校横浜外語ビジネスアカデミー美容学科・診療情報管理学科・臨床工学学科設置
平成 17 年 (2005)	4 月	専門学校横浜外語ビジネスアカデミーをふれあい横浜専門学校に校名変更
平成 18 年 (2006)	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校社会福祉学科を精神社会福祉学科へ名称変更 ふれあい横浜専門学校美容学科入学定員変更、総合電子専門学校学科再編（設置及び変更）
平成 20 年 (2008)	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 理学療法学科入学定員変更
平成 21 年 (2009)	4 月	総合電子専門学校 学科再編（名称変更等）
平成 22 年 (2010)	4 月	茅ヶ崎看護福祉専門学校を茅ヶ崎看護専門学校に校名変更及び看護学科入学定員変更
平成 23 年 (2011)	4 月	ふれあい横浜専門学校 観光学科入学定員変更 総合電子専門学校 研究科設置
平成 24 年 (2012)	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校言語聴覚学科（2 年制）設置及び作業療法学科入学定員変更 総合電子専門学校 医療マネジメント科設置及び情報デザイン科入学定員変更
	6 月	湘南医療大学（仮称）大学設立準備室設置
平成 26 年 (2014)	3 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 南湖校舎移転 湘南医療大学（仮称）設置認可申請書提出
	4 月	学校法人湘南ふれあい学園本部事務所移転 総合電子専門学校を医療ビジネス観光情報専門学校に校名変更及び学科再編
	10 月	湘南医療大学 設置認可 学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可
平成 27 年 (2015)	4 月	湘南医療大学開学 学校法人湘南ふれあい学園本部事務所移転
平成 28 年 (2016)	3 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修設置

平成 29 年 (2017)	2 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修 年間定員を 30 名→60 名に変更
	4 月	みどり幼稚園を幼保連携型認定こども園みどり幼稚園に改組
平成 30 年 (2018)	2 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修 年間定員を 60 名→90 名に変更
	3 月	医療ビジネス観光情報専門学校 情報システム学科 廃科 工業専門課程 廃止
	4 月	湘南医療大学 臨床医学研究所 設置
	7 月	医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科設置及びこれに伴う校名変更認可
	11 月	湘南医療大学 大学院（保健医療学研究科）設置認可及びこれに伴う学校法人湘南ふれ あい学園寄附行為変更認可 医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科新課程設置に伴う学校法人湘南ふれあい 学園寄附行為変更認可
	2 月	湘南医療大学薬学部新設のための寄附活動のための寄附行為変更認可
平成 31 年 令和元年 (2019)	4 月	湘南医療大学大学院保健医療学研究科設置 湘南医療大学認定看護研修センターを看護実践教育センターに改称 医療ビジネス観光福祉専門学校に校名変更 介護福祉学科、附帯教育事業 介護福祉士 実務者研修設置
	3 月	湘南医療大学薬学部医療薬学科設置申請 湘南医療大学薬学部設置に伴う学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可申請
令和 2 年 (2020)	4 月	下田看護専門学校を湘南医療大学附属下田看護専門学校に名称変更
	10 月	湘南医療大学薬学部医療薬学科設置認可 湘南医療大学薬学部設置に伴う学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可
令和 3 年 (2021)	4 月	湘南医療大学薬学部設置 湘南医療大学 看護実践教育センターを看護キャリア開発コアセンターに改称
	8 月	湘南医療大学収容定員（保健医療学部看護学科入学定員 80→140 名）変更認可 横浜山手キャンパス認可
	12 月	湘南医療大学専攻科（公衆衛生看護学専攻 助産学専攻） 設置認可
令和 4 年 (2022)	4 月	湘南医療大学大学院高度実践看護師（がん看護）養成課程設置 湘南医療大学専攻科（公衆衛生看護学専攻 助産学専攻） 設置
	3 月	湘南医療大学大学院保健医療学研究科博士後期課程設置申請 医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科入学定員変更計画書提出（35→60 名）
令和 5 年 (2023)	4 月	湘南医療大学大学院高度実践看護師（感染看護学）養成課程設置
	6 月	湘南医療大学大学院保健医療学研究科博士後期課程設置申請（補正）
	9 月	湘南医療大学大学院保健医療学研究科博士後期課程設置認可 医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科入学定員変更申請書提出（35→60 名）
	3 月	医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科入学定員変更認可（35→60 名） 湘南医療大学別科介護福祉別科 介護福祉士学校 計画書提出
令和 6 年 (2024)	4 月	湘南医療大学大学院保健医療学研究科博士後期課程設置
	9 月	湘南医療大学別科介護福祉別科 介護福祉士学校 指定申請
	3 月	湘南医療大学別科介護福祉別科 介護福祉士学校 認可
令和 7 年 (2025)	4 月	湘南医療大学別科介護福祉別科 設置
	6 月	湘南医療大学収容定員変更申請（保健医療学部看護学科 140→165 名、リハビリテーシ ョン学科理学療法学専攻 40→60 名、薬学部 130→100 名）
	9 月	湘南医療大学収容定員変更承認（保健医療学部看護学科 140→165 名、リハビリテーシ ョン学科理学療法学専攻 40→60 名、薬学部 130→100 名） 茅ヶ崎キャンパス認可

■【設置する学校等の概要】（2025 年 5 月 1 日現在）

大学（学校）名・住所・学長（学校長）名	学部・学科・専攻等（入学定員）		開設年度
湘南医療大学 （東戸塚キャンパス） 神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16 番 48 号 （薬学部キャンパス） 神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16 番 10 号 （山手キャンパス） 神奈川県横浜市中区山手町 27 （藤沢キャンパス） 神奈川県藤沢市藤沢 498 学長 大屋敷 英志枝	保健医療学部	看護学科（140）	平成 27 年度 （2015 年）
		リハビリテーション学科 理学療法学専攻（40）	
		リハビリテーション学科 作業療法学専攻（40）	
	薬学部	医療薬学科（130）	令和 3 年度 （2021 年）
	大学院	保健医療学研究科 修士課程（12）	平成 31 年度 （2019 年）
		博士後期課程（3）	令和 6 年度 （2024 年）
	専攻科	公衆衛生看護学専攻（20）、 助産学専攻（15）	令和 4 年 （2022 年）
	別科	介護福祉別科（40）	令和 7 年 （2025 年）
茅ヶ崎看護専門学校 神奈川県茅ヶ崎市今宿 390 番地 学校長 今田 敏夫	看護学科（80）		平成 6 年度 （1994 年）
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 神奈川県茅ヶ崎市南湖 1 丁目 6 番 11 号 学校長 大川 伸一	理学療法学科（70）		平成 10 年度 （1998 年）
	作業療法学科（30） ※募集停止中		
	言語聴覚学科（35）		
	付帯教育事業 社会福祉専攻科（80）		
湘南医療大学附属下田看護専門学校 静岡県下田市柿崎 289 番地 学校長 大石 實 （10 月 1 日より中川 隆雄学校長に交代）	看護学科（40）		平成 16 年度 （2004 年）
医療ビジネス観光福祉専門学校 神奈川県相模原市南区上鶴間本町 3 丁目 18 番 27 号 学校長 石代 欣一郎	医療ビジネス学科（40）		昭和 61 年度 （1986 年）
	観光学科（40） ※募集停止中		
	介護福祉学科（60）		平成 31 年度 （2019 年）
	付帯教育事業 介護福祉士実務者研修（30）		
幼保連携型認定こども園みどり幼稚園 神奈川県横浜市戸塚区汲沢 2 丁目 26 番 14 号 園長 入澤 登美子	認定こども園（218）		平成 29 年度 （2017 年）

【設置する学校等の在籍者数】（2025 年 5 月 1 日現在）

〔湘南医療大学〕

（単位：人）

学部・学科・専攻		入学 定員	収容 定員	入学 者数	2025 年度在籍者数					2025 年度 卒業生
					1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	
保健 医療 学部	看護学科	140	560	160	164	147	135	130		130
	リハビリテーション学科 （理学療法学専攻）	40	160	49	49	43	41	40		38
	リハビリテーション学科 （作業療法学専攻）	40	160	41	41	38	40	35		33
薬学部	医療薬学科	130	650	49	54	61	69	54	27	
大学院	保健医療学研究科（修士）	12	24	12	13	8				5
	〃（博士後期課程）	3	6	3	3	6				
専攻科	公衆衛生看護学専攻	20	20	20	20					20
	助産学専攻	15	15	15	15					15
別科	介護福祉別科	40	40	28	28					

【湘南医療大学 経年収容定員の充足率】

（単位：％）

年度 学部・学科	2016 年度	2017 年度	2018 年度 保健完成年度	2019 年度 大学院設置	2020 年度	2021 年度 薬学部設置	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
保健医療学部	108	108	105	105	101	102	99	98	100	102
看護学科	111	111	106	104	101	99	98	99	100	102
リハビリテーション学科	105	104	103	107	102	105	99	97	101	102
薬学部						26	38	46	43	40
大学院				91	71	71	95	83	77	100
専攻科							77	100	100	100
別科										70

〔茅ヶ崎看護専門学校〕

学科	定員 充足率	入学 定員	収容 定員	入学 者数	2025 年度在籍者数			2025 年度 卒業生
					1 年生	2 年生	3 年生	
看護学科	74.5%	80	240	46	49	59	71	66

〔茅ヶ崎リハビリテーション専門学校〕

学科	定員 充足率	入学 定員	収容 定員	入学 者数	2025 年度在籍者数				2025 年度 卒業生
					1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	
理学療法学科	80.0%	70	280	49	50	52	60	62	50
作業療法学科	43.3%	30	90			10	17	12	12
言語聴覚学科	77.1%	35	70	29	30	24			24
社会福祉専攻科※1		80	160	48	48	45			34

※1 社会福祉専攻科は 1 年 6 ヶ月の通信課程

[湘南医療大学附属下田看護専門学校]

学科	定員 充足率	入学 定員	収容 定員	入学者数	2025 年度在籍者数			2025 年度 卒業生
					1 年生	2 年生	3 年生	
看護学科	40.9%	30	110	7	7	16	22	20

[医療ビジネス観光福祉専門学校]

学科	定員 充足率	入学 定員	収容 定員	入学者数	2025 年度在籍者数		2025 年度 卒業生
					1 年生	2 年生	
医療ビジネス学科	72.5%	40	80	41	41	17	17
観光学科		40	—	—	—	—	—
介護福祉学科	90.8%	60	120	58	58	51	47
介護福祉士実務者研修※2		30	30	—	—		—

※2 介護福祉士実務者研修は 6 ヶ月の通信課程（2025 年度の開講無し）

[幼保連携型認定こども園みどり幼稚園]

認定	定員 充足率	収容 定員	2025 年度在籍者数					2025 年度 卒園生
			1 歳児	2 歳児	年少	年中	年長	
1～3 号	85.3%	218	10	10	45	56	65	63

【2026 年度入学生の各校状況】

2026年度学生募集

			入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員 充足率
湘南医療 大学	保健医療 学部	看護学科	165	314	302	281	178	107.9%
		リハビリテーション学科	100	137	132	128	89	89.0%
		理学療法学専攻	60	95	92	86	58	96.7%
		作業療法学専攻	40	42	40	42	31	77.5%
	薬学部	医療薬学科	100	147	143	138	70	70.0%
	大学院 保健医療学 研究科	修士課程	12	12	12	12	12	100.0%
		博士課程	3	4	4	4	4	133.3%
	専攻科	公衆衛生看護学専攻	20	62	60	20	20	100.0%
		助産学専攻	15	56	56	15	15	100.0%
	別科	介護福祉別科	40	83	79	51	44	110.0%
茅ヶ崎看護専門学校			看護学科	40	35	31	27	57.5%
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校			社会福祉専攻科(通信)	80	28	28	28	35.0%
湘南医療大学附属下田看護専門学校			看護学科	30	26	24	20	43.3%
医療ビジネス観光福祉専門学校	医療・ツーリズムビジネス学科		40	98	88	29	29	72.5%
	介護福祉学科		60	214	200	62	60	100.0%

【法人役員・評議員及び理事会・評議員会の開催状況】

1. 役員・評議員の数（2026年3月31日現在）

役員、評議員	定数	現員
理事	5～6	5
監事	2	2
評議員	6～7	6

2. 役員の概要（理事5名、監事2名 2026年3月31日現在）

役員	氏名	主な現職	就任年月日（重任日）
理事長／常勤	大屋敷 英志枝	湘南医療大学学長 医療法人社団康心会理事長	1994年3月8日（2025年6月25日）
理事／非常勤	大屋敷 幸志	社会福祉法人麗寿会理事長	2006年6月24日（2025年6月25日）
理事／常勤	熊谷 幸男	湘南ふれあい学園事務局長	2001年6月24日（2025年6月25日）
理事／非常勤	小林 暢比古	神奈川県金属プレス工業会名誉会長	2021年1月1日（2025年6月25日）
理事／非常勤	有坂 健一	税理士	2016年6月24日（2025年6月25日）
監事／非常勤	金井 清吉	弁護士	2001年4月1日（2025年6月25日）
監事／非常勤	竹俣 耕一	公認会計士 税理士	2012年6月24日（2025年6月25日）

3. 評議員の概要（評議員6名 2026年3月31日現在）

評議員	氏名	主な現職	就任年月日（重任日）
評議員／常勤	寺本 明	湘南医療大学副学長兼保健医療学部長	2018年4月1日（2025年6月25日）
評議員／常勤	加藤 修一	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校副校長 他	2005年3月30日（2025年6月25日）
評議員／非常勤	山戸 真実	（株）FMC 人事部職員	2018年4月1日（2025年6月25日）
評議員／非常勤	朝日 正俊	元 医療法人社団康心会経営企画本部医療事業部長	2025年6月25日
評議員／非常勤	小野 英生	元 学校法人大垣総合学園 副理事長	2025年6月25日
評議員／非常勤	今枝 博昭	元 ㈱東京ますいわ屋代表取締役	2025年6月25日

4. 会計監査人の概要（会計監査人1法人 2026年3月31日現在）

氏名	就任年月日
レクス監査法人	2025年6月25日

5. 責任免除・責任限定契約、補償契約及び役員賠償責任保険契約の状況

○責任免除

本学校法人寄附行為第60条において役員の実任免除を規定している。

（概要）役員又は会計監査人の損害賠償責任については、善意かつ重大な過失がなく、特に必要と認められる場合、理事会の決議により法定の最低責任限度額を超える部

分を免除することができる。

○責任限定規約

本学校法人寄附行為第61条において、役員の責任限定契約を規定している。
(概要) 非業務執行理事、監事又は会計監査人については、善意かつ重大な過失がない場合、その損害賠償責任を、予め定めた額又は私立学校法で定める最低責任限度額のいずれか高い額を上限とする責任限定契約を締結することができる。

○補償契約 該当なし

○役員賠償責任保険

契 約 者 日新火災海上保険株式会社

被保険者 学校法人湘南ふれあい学園 役員

補償内容 役員に関する補償・・・学校法人や第三者訴訟等により被保険者が負担することとなる訴訟費用、損害賠償金等の補填

契約期間/支払限度額 2025年4月～2026年4月（1年間） / 1億円

6. 2025年度 理事会・評議員会開催状況

理事会 開催回数	評議員会 開催回数
10回	5回

【設置する学校等の教職員数】（2025年5月1日現在）

学校名	教員		職員 ^{※3}
	専任 ^{※1}	兼任 ^{※2}	
湘南医療大学	126	186	49
茅ヶ崎看護専門学校	19	66	5
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	22	105	8
湘南医療大学附属下田看護専門学校	10	55	4
医療ビジネス観光福祉専門学校	14	14	5
幼保連携型認定こども園みどり幼稚園	18	7	6
学園本部（研修センター含む）	0	1	4

※1 専任には、学長、学校長、非常勤契約者を含む

※2 兼任教員は外部講師延べ数

※3 非常勤職員（守衛）、非常勤補助者の常勤換算数

[湘南医療大学 教員概要]

学部	学科・専攻	教授		准教授		講師		助教		助手		専任教員		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
保健	看護学科	3	13		9	3	5	3	6		1			9	34
医療 学部	理学療法 学専攻	7		1	1	3		1						12	1
	リハビリテー ション学科 作業療法 学専攻	3		3		1	2	1	1					8	3
薬学部	医療薬学科	15	2	6	5	7	1	3	1			1		32	9
保健医療学研究科*		1	2		2				1					1	5
専攻科					3		1		2		1			0	7
別科						1	1						1	1	2
計		29	17	10	20	15	10	8	11	0	2	1	1	63	61

*保健医療学研究科教員の保健医療学部兼任者は、学部にも再掲しない。
保健医療学部教員の保健医療学研究科兼任者は、研究科にも再掲しない。

教職員の保有学位や業績については、以下のホームページ上に公開している。

https://sums.ac.jp/html/department/nursing_teacher.html

https://sums.ac.jp/html/department/pt_teacher.html

https://sums.ac.jp/html/department/ot_teacher.html

<https://sums.ac.jp/html/department/pharmacy/teacher.html>

https://sums.ac.jp/html/graduate_school/teacher/

<https://sums.ac.jp/html/advanced-courses/teacher.html>

II 学校法人湘南ふれあい学園教育指針に関する報告

1 教育力を高める活動

教職員は、学生の学習意欲を高めるとともに、卒業認定・学位授与方針（DP）に沿った人材育成及び国家試験合格に向けた教育を実施してきました。

その取組として、授業・実習評価アンケート、GPA 評価、リフレクションシートの活用を行うとともに、各学部・学科において年 3～4 回の FD 研修を計画どおり実施しました。

なお、湘南医療大学の卒業時アンケートは、別紙のとおり報告します。

2 教員の資質を高める活動

教員の教育力及び専門性の向上を目的として、「大学部会」「教育部会（専門学校）」「保育部会（こども園）」において、全体研修会及び医療教育研究会を以下の通り開催しました。

大学部会、教育部会、保育部会 2025 年度 研修会プログラム

【大学部会】

	保健医療学部	薬学部
4	ふれあいグループがめざすもの 大屋敷理事長	
	FD/SD研修①：学部理念・教育目標・大学の理念の実践	
	PDC活動 部門PDC(3月のC 4月のPD)	
	5つの活動の実践 (朝礼・6S活動)	
5月	FD研修②：休退学者の減少	入学生を確保するための対策(学生募集)
	【看護学科】グループ施設への就職率向上のための対策 / 【作業療法学専攻】入学生を確保するための対策(学生募集)	FD研修②：学修支援プログラム/ OSCE・CBT試験対策
	FD研修③：国家試験対策	FD研修③：休退学者の減少
6月	早坂泰次郎における人間関係への関心と看護との接点	入学前教育と教育センターの役割ー薬学部新入生支援の実践と課題ー
	身体拘束最小化への取り組み ～診療報酬の減算について～	持続皮下投与時の皮膚障害発現率に関するヒドロモルフォン注とモルヒネ注の比較検討
	訪問看護を利用する高齢在宅療養者の口腔内環境の実態およびその関連要因	妊娠可能年齢女性に対する医薬品処方実態の調査
	高齢で単身の生活困窮者に対して地域包括支援センター看護職が行う支援	薬物乱用性頭痛発症の性差におけるプロラクチンシグナルの関与
	COVID-19パンデミックにおけるデイケアサービス利用者の身体機能に関する研究	トラマドールおよびO-デスメチルトラマドールの血中濃度測定法の開発
	看護学生の採血・注射の看護技術に関する文献検討	がん患者の骨転移治療に用いる骨修飾薬 (Bone Modifying Agents) の未解決問題に取り組む ～有効性および安全性を向上させる2つの研究～
	「入院から退院までの経過をイメージするための周手術期看護演習」の学習効果の検討	
	救急医療/看護におけるACP	LSD誘導体の幻覚作用発現に関する研究
	看護教育における生成AI活用の現状と課題	病理と薬理の接点：目でみる薬剤の影響
	高齢がん患者の意思決定を支援する看護師とソーシャルワーカーがとらえる困難感	早産児でのRSV予防投与がその後の再発性喘鳴に与える影響について
	災害時の母子支援に関する活動の報告	疼痛下におけるモルヒネの精神依存
	介護支援専門員の協働的能力が「ワーク・エンゲイジメント」「やりがい」「困難感」に及ぼす影響	ニコチン性しゃっくり：副作用データベースFAERSを用いた投与経路の影響に関する研究
	血液事業のグローバル化に対する我が国の課題	EGFR-TKIによる副作用発現機構の解明
	地域で生活する高齢がん患者の治療および生活上の困難と支援に関する文献レビュー	トレーニングレポートを活用した地域連携ーその2ー 神奈川県薬剤師会 地域連携薬局機能向上事業について
	精神障がい者の恋愛・結婚に関するオンラインプログラムの効果の検証：ランダム化比較試験の研究プロトコル	緊急避妊薬入手に対する一般消費者の選好と心理：質的分析による検討
	排泄機能障害の子どもおよびその家族に対する支援の実態ー各成長発達段階における諸問題ー	電子お薬手帳を活用した2型糖尿病患者における知識・くすりの適正使用に関する調査
	重症心身障害児を対象とした通所施設における家族支援に関する文献検討	3次元培養細胞を用いたEGFR-TKIによる皮膚障害発症メカニズムの検討
	日本の看護学生における睡眠覚醒リズムとライフスタイル、健康関連QOL、学業成績との関連性：横断研究	乳がん薬物療法におけるG-CSFの一次予防投与の有効性
	治療中止と同時に療養の場を選択する進行がん患者とその家族へのがん看護専門看護師による相談支援の実践	成績不振者の支援方法の開発と有用性に関する検討
	自治体保健師の確保に関する研究から考える大学専攻科の意義と課題	吃逆に対する柿蒂湯の効果ー柿蒂エキスの抗けいれん作用の検討ー
	更年期にある女性が感じる主観的な心身の状態や変化に関する文献検討	

6 月	Effectiveness of a support program for balancing treatment and work in small and medium-sized enterprises promoted by occupational health nurse using a web meeting system: A cluster randomized controlled trial.	
	看護教育におけるAudience Response System (ARS) の活用に関する文献レビュー	
	大学専攻科における保健師教育	
	市場で働く女性の肥満とヘルスリテラシーおよび体重認識との関係	
	看護学モデル. コア. カリキュラム改正と教育課程評価	
	急性期脳卒中患者における行動上の問題と食事自立: 単一施設研究	
	地域作業療法学の主観的な学びの達成度調査	
	生活期脳卒中患者に対する自主訓練型上肢トレーニングの効果	
	うつ病休業者の職場復帰後の転帰とリワークプログラム実施期間の関連	
	学部教育・臨床教育・研究支援を相互に補完する活動	
	脊髄損傷後神経障害性疼痛に対する再生医療とリハビリテーションの併用効果に関する考察	
	日本人高齢者におけるスマートフォン利用と身体活動レベルの関連	
	臨床実習における学生指導と学生評価	
	排尿機能障害を有する虚弱高齢者に対する在宅での骨盤底筋トレーニングが活動と参加に与える影響	
	わかりやすいプレゼン資料&スライドの作成法	
	ヒト延髄上部の孤束横断面の年齢的变化と性差	
	地域在住高齢加齢関連認知機能低下者における夜間睡眠と日中の眠気の特徴	
	発達障害について	
7 8 月	ふれあいグループが目指すもの 大屋敷理事長	
	医療的ケア児を地域で支えるための看看連携のパンフレットの作成	横浜市の水域を対象とした薬剤耐性菌の実態調査
	コロナ禍の学内での分娩助産実習における助産学専攻科学士の学習目標到達状況の自己評価と学び	核内受容体に作用する天然由来化合物の探索研究
	本学における認知症看護認定看護師養成とその後の活動支援	光増感構造としてアントラセンを有する金属配位子のDNA光切断活性
	運動介入が物質関連障害者の自尊心や自己効力感を高める効果に関する文献検討	ヘキソースにおけるシッフ塩基形成の反応機構解析
	災害時用ストーマ装具の備蓄ができない理由に一時的ストーマと永久的ストーマで違いはあるのか: 質的研究	Aspergillus Udagawae IFM54302株が生産する抗血小板物質に関する研究
	コロナ禍を経た地域活動の参加に対する都市在住高齢男性の意識	ショーガオールと誘導体の合成
	退院後のセルフモニタリングを用いたアプローチによる行動変容過程	公衆衛生学研究: コロナ禍のストレスとメンタルヘルスに関するデータ解析
	市販薬乱用予防に関する国外文献レビュー	インフルエンザウィルスの金属酵素RNAポリメラーゼを阻害するジケト酸誘導体のドラッグデザイン
	産後ケア施設に勤務する助産師のケアに対する認識	定量的構造活性相関 (QSAR) による危険ドラッグのインシリコ活性予測
	女子大学生の足と靴の実態調査	リン酸水素イオンが触媒として働くスクシンイミド残基立体反転の計算化学的研究: 非対称SE1機構
	新任期の民生委員・児童委員が地域における見守り活動で感じる困難と対処状況	

7 8 月	腹膜透析関連感染症予防のために看護師が患者・家族へ指導すべき項目に関する研究 ―デルファイ法を用いた検討―	不斉enaminonの反応性に関する研究
	中途採用者を活かす組織づくり	
	NICU・GCUに入院している乳児の泣きに対する看護師の捉え方	百日咳菌が分泌する低分子量物質とその意義
	コロナ禍における臨床実習を補完する教育方略の効果	小型魚類メダカを用いた生物学実習プログラムの構築
	タウリンと高齢者の健康に関する文献レビュー	微生物学実習の学修への効果2024
	多職種による高齢がん患者の意思決定支援(意思の推定)研修会の評価―意思決定支援の取り組みと今後の課題認識の質的分析―	成人T細胞白血病／リンパ腫(ATL)のプロテオーム解析: ウイルス因子Taxとの相関
	日本におけるIDDMと摂食障害を併発した患者の文献レビュー	John Lylyの劇作品の歴史的背景
	Experiences of Difficulty in Hematopoietic Cell Transplant Nurses: A Qualitative Systematic Review Protocol	Liver X receptor (LXR) のサブタイプによる動態の違いについての解析
	シミュレーション教育のリアリティさから学生が学ぶもの	ヒトケラチノサイトのTSLP 産生におけるProtease-activated receptor-2およびToll-like receptor-4の生理的役割
	筋萎縮性側索硬化症療養者の呼吸療法の意思決定を支える訪問看護師の支援の質的研究についての文献検討	
	地域特性が異なる大学に通う看護学生の防災意識及び防災行動の比較検討	Protective effect of teriparatide against vancomycin-induced cytotoxicity in osteoblasts
	介護予防における地域包括支援センター保健師の地域活動の視点 ～地域の課題を捉える視点に焦点をあてて～	
	車椅子座位上肢機能検査 (Wheel Chair Seating Arm Function Test, WS-AFT) 短縮版の開発	神経ペプチドPACAPによる角膜上皮の再生機構について
	診療参加型の作業療法臨床実習におけるリフレクション・シート使用の有用性と課題: 実習生フォーカスグループによる質的研究	医薬品使用の評価と使用性向上の対応
	John Deweyの習慣論からみる習慣性質の二重性	
	介護老人保健施設入所者における食堂の座席での反復起立テストと日常歩行、バランス機能、歩行耐久性の関係	
	足浴による高齢者のバランス能力の変化	
	令和6年能登半島地震災害支援活動報告	
	脳卒中後うつ病経験者の回復要因 ―トピックモデルを用いた解析―	
	介護予防運動プログラムが要介護発生リスクに及ぼす影響: 10年間の観察研究	
	高齢者施設介護職員への行動論に基づく移乗介助指導プログラムの効果と脱衣介助指導への般化に関する研究	
	理学療法士界のキャリアアップシステムとその課題	
9 1 0 月	ふれあいグループの目指すもの 大屋敷理事長	
	《FD研修: PDC活動》部門PDC (8月のC 9月のPD) 看護学科、PT学専攻、OT学専攻	《FD研修: PDC活動》部門PDC (8月のC 9月のPD) 薬学部 教務、薬学部 事務
	《FD研修: 業務改善》～改善好事例～ ・大学事務(保健医療学部)、看護学科	《FD研修: 業務改善》～改善好事例～ ・大学事務(薬学部)、医療薬学科
	《SD研修: 2025年度学生募集》 3月～8月のオープンキャンパスの結果と反省(全体総括)	
	《FD研修: G就職率70%以上を達成するために》 ・就職指導ガイダンス(学生への就職アドバイス)・インターンシップの充実	《SD研修: 2025年度学生募集》 3月～9月のオープンキャンパスの結果と反省(薬学部0Cの振り返り)
	《FD研修: 授業研究》 2025年度チーム医療論の概要と講義	《FD研修: 授業評価・学修成果の測定》 自身の授業評価結果から改善した内容
	《FD研修: 研究不正防止》 研究活動における研究不正行為防止に関する研修 ア 研究活動の不正防止について イ 研究費使用の不正防止について	

1 1 1 2 月	ふれあいグループの目指すもの 大屋敷理事長	
	《FD研修：PDC活動》部門PDC（10月のC 11月のPD）看護学科、PT学専攻/OT学専攻	《FD研修：PDC活動》部門PDC（10月のC 11月のPD）薬学部 教務、薬学部 事務
	《FD研修：業務改善》～改善好事例～ ・リハビリテーション学科	《FD研修：6S活動》～好事例～ 薬学部 事務、医療薬学科
	《FD研修：6S活動》～好事例～ ・看護学科	《FD研修：実験法・資料研究等》 実験法・実習法・実験観察
	《FD研修：卒業後のキャリアの状況の把握と改善》（教育の質補助金項目） ①卒業教育の状況 ②卒業アンケート調査から改善活動	《FD研修：指導方法研究》 つまづき・誤答分析
	《FD研修：授業評価・学修成果の測定》（私立大学等改革総合支援事業） 自身の授業評価結果から改善した内容	《FD研修：ICT活用技術の向上（経常費補助金項目）》 ICT・セキュリティ教育
	《FD研修：ICT活用技術の向上（経常費補助金項目）》ICT・セキュリティ教育	《FD/SD研修：重点項目（経常費補助金項目）》 障害のある学生への支援、障害のある人へ合理的配慮の提供義務化への対応
3 月	ふれあいグループの目指すもの 大屋敷理事長	
	5つの活動 【SD】PDC 1月C（結果分析・評価） 2月PD（目標・行動）	
	今年度の重点目標①【FD】学修成果等の可視化 プログテストの結果～ディプロマサブリメント の導入に向けて～	今年度の重点目標②・⑧ 【FD】授業評価を活かした教育改善 ～授業評価後の改善計画～
	今年度の重点目標②・⑧ 【FD】授業評価を活かした教育改善 ～授業評価後の改善計画～	今年度の重点目標③ 学修支援支援 今年度のS-プログラム実績
	今年度の重点目標③ 学修支援・国家試験対策支援 今年度の指導・支援実績	今年度の重点目標③ 学修支援支援、今年度の病院実務実習・薬局実 習指導・支援実績
	今年度の重点目標④【SD】入学定員の確保 今年度の募集活動・入試の分析と評価 2026年度の募集計画方針（高校訪問重点校・OCの開催など）	
	今年度の重点目標⑤ 【FD】休退学者減少への取組 （今年度の結果と課題に向けた解決）	今年度の重点目標⑤ 【FD】休退学者減少への取組 （今年度の結果と課題に向けた解決）
	今年度の重点目標⑦ 【FD】3つのポリシーを踏まえた点検・評価 看護学科の3つのポリシーを踏まえた教育活動 の点検・評価と改善点	今年度の重点目標⑩ 【FD】研究力向上に係る学内計画 （研究活動状況の報告）
	今年度の重点目標⑨ 【FD】キャリア支援と地域社会への貢献 （就職状況の報告・2026年度強化事項）	【FD】学生相談 （ハラスメントのない快適なキャンパスの実現）
	【FD】学生相談（ハラスメントのない快適な キャンパスの実現）	

【教育部会】

	茅ヶ崎看護専門学校	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	湘南医療大学附属下田看護専門学校	医療ビジネス観光福祉専門学校
4 5 月	ふれあいグループの目指すもの 大屋敷理事長			
	《FD・SD研修①》 「茅ヶ崎看護専門学校が目 指す教育」理念・教育目標・ 事業計画について	《FD・SD研修①》 「茅ヶ崎リハビリテーション 専門学校が目指す教育」理 念・教育目標・事業計画につ いて	《FD・SD研修①》 「下田看護専門学校が目 指す教育」理念・教育目 標・事業計画について	《FD・SD研修①》 「医療ビジネス観光福祉専門 学校が目指す教育」事業計画 グループ就職の推進
	部門PDC 看護学科 3月C・4月PDと 2025年度について 事務課 3月C・4月PDと2025 年度に向けて（グループへの 就職状況を含む）	部門PDC 事務課（グループへの就職状 況）・学科の部門PDC	部門PDC 事務課（グループへの就職状 況を含む）・看護学科の部門 PDC	部門PDC 事務課の部門PDC（2024年度 の振り返りと2025年度に向け て）
	就業規則 法令遵守 人事部			
	10 5つの活動の実践 ・業務改善（課業表）・全体研修会・朝礼・6S活動 6S活動報告 2024年度の振り返り			
	《FD研修②》： 休退学者の減少 確認テストや補講などの取り組みと成果			
6 月 （ 4 校 同 一 研 修 ）	《FD研修③》： 国家試験対策 国家試験結果と今年度の年間計画			
	チューター活動を通じた交流の成果			看護校
	休退学防止策			リハ校
	出席率向上のための取り組み～学生アンケートから見える改善策～			医ビ校
	休退学防止策「手のかかる学生教育対策」			下田校
	部門PDCを活用した学生募集活動			看護校
	部門PDC「学生募集に係るPDCについて」			下田校
	部門PDCを活用した学生募集活動			医ビ校
	国家試験対策「前年度の振り返りを踏まえた国家試験対策」			下田校
	第114回看護師国家試験分析結果			看護校
	国家試験対策			リハ校
	国家試験対策			医ビ校
	グループへの就職率向上対策「看護学生の職場選択の要件・決定要因から考える」			下田校
	学校の使命を果たすための就職支援対策			看護校
7 8 月	グループへの就職率向上対策			リハ校
	グループへの就職率向上対策			医ビ校
	ふれあいグループの目指すもの 大屋敷理事長			
	《FD・SD研修①》部門PDC			
	共通研修プログラム 人事部			
	《SD研修》： 5つの活動の実践 6S活動			
9 10 月	《FD研修②》： 休退学者の減少対策			
	《FD研修③》： 国家試験対策			
	ふれあいグループの目指すもの 大屋敷理事長			
	《FD・SD研修①》 部門PDC（学生募集を中心 に）事務課 8月C・9月PD	《FD・SD研修①》部門PDC 8月C・9月PD	《FD・SD研修①》 部門PDC 事務課 7月C・8月 PD（学生募集を中心に）	《FD・SD研修①》 部門PDC（学生募集を中心 に）事務課 8月C・9月PD
	《FD・SD研修①》 部門PDC看護学科 8月C・9 月PD	《FD・SD研修①》部門PDC 8月C・9月PD	《FD・SD研修①》 部門PDC 看護学科 7月C・8月PD	《FD・SD研修①》 新学科・新コースの授業内容 や授業方法の質向上
	共通研修プログラム 人事部			
11 12 月	《SD研修》： 5つの活動の実践・業務改善 前期の反省から後期の見直し対策			
	《FD研修②》： 休退学者の減少対策			
	《FD研修③》： 国家試験対策			
	ふれあいグループの目指すもの 大屋敷理事長			
	共通研修プログラム 人事部			
	《FD・SD研修①》 部門PDC（学生募集状況を含 む）事務課 10月C・11月PD	《FD・SD研修①》 部門PDC 10月C・11月PD	《FD・SD研修①》 部門PDC（学生募集状況を含 む）	《FD・SD研修①》 部門PDC（学生募集状況を含 む）
1 3 月	《SD研修》： 5つの活動の実践・業務改善 6S			
	《FD研修②》： 休退学者の減少対策			
	《FD研修③》： 国家試験対策			
	ふれあいグループの目指すもの 大屋敷理事長			
	《FD・SD研修①》 部門PDC（学生募集状況を含 む）看護学科 12月C・1月PD 心理的安全性を高めるための 手段としてのコーチング	《FD・SD研修①》 部門PDC 12月C・1月PD	《FD・SD研修①》 部門PDC（学生募集状況を含 む）	《SD研修①》 業務改善例「忙しいのに成果 が見えない仕事」から 「ムダを減らし、本来やるべ き仕事に時間を使う」へ
	共通研修プログラム 人事部			
	《SD研修》： 5つの活動の実践・業務改善 6S			
	《FD研修②》： 休退学者の減少対策			
	《FD研修③》： 国家試験対策			《FD研修③》： 試験対策 日本語・JLPT対策

【保育部会】

4月	ふれあいグループが目指すもの 大屋敷理事長
	業務改善計画
	6S活動
	子どもの特徴に合わせた支援
	誤飲と誤嚥事故の原因と予防策を考える
5月	災害時・不審者対応について
	環境整備と衛生管理
	各クラスの園児対応について（新年度開始に向けて）
6月	安全な保育環境づくりに向けた事故防止策の検証
	乳児への関わりを通して日々の保育を振り返り問題点を探る
	食事中の事故防止策について
	保育中のけがや事故防止対策についてどのように取り組んでいるかを検証する
	保育者のための救急蘇生法講座
	保育園とチーム医療について考える
	個人PDCについて
	業務改善 日々の業務を見直す
	6S活動について
	「幼稚園教諭という仕事をとことん楽しもう」の研修を受けて
	不適切な保育防止「不適切な保育とはなにか？」
7月	保育者としての基本マナー
	グループディスカッション
	ふれあいグループが目指すもの 大屋敷理事長
	6S活動
	業務改善と課業表
8月	事故予測への取り組みに対する改善
	乳幼児突然死症候群への対応策と子育て環境
	口の仕組みと働き、食の関わりについて
	園で取り組むべき児童虐待対応
9月	各クラスの園児対応及び関わりの難しい子への対応
	ふれあいグループが目指すもの 大屋敷理事長
	個人PDCについて
	業務改善計画
	保育所における感染症対策のポイント
10月	保育者としての基本マナー
	不適切な保育について考える
	こども主体の造形活動の考え方と関わり
11月	ふれあいグループが目指すもの 大屋敷理事長
	6S活動の取り組みについて
	業務改善
	保育所における感染対策
	保育者のための救急蘇生法講座（一次救命処置）
	救命処置の流れと心肺蘇生・AEDの使用について
	誤飲と誤嚥事故の原因と予防策を考える
	気になる子への関わり方
12月	園児募集に関する検証
	ふれあいグループが目指すもの 大屋敷理事長
	6S活動の取り組みについて
	業務改善
	乳幼児の突然死症候群への対応策
	事故防止対策
	ヒヤリハットや事故発生時の対応について
1月	生命・いのちの安全教育
	園で取り組むべき児童虐待対応
	新年度の行事計画の検証

3 学生の人間性を高める活動

本学園では、建学の理念「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の実践を目指し、大学及び専門学校において人間形成に資する教育を実施してきました。

また、学生の積極性や社会性、思いやりの心を育むため、クリスマスキャロリング活動や病院・施設利用者へのメッセージカード制作等の活動を継続して行いました。

さらに、ふれあいグループ病院施設と連携し、地域住民や高校生、保健医療福祉関係者を対象とした公開講座や研修を開催しました。

【2025年度の公開講座、出張講義の実績】

(1) 市民公開講座

	公開日	会場名	担当学科	テーマ	所属学科	講師	参加者
第1回	6/28(土)11:00～	湘南医療大学	薬学部長	「がんの痛み治療と麻薬性鎮痛薬」	薬学部	鈴木 勉学部長	8
第2回	7/26(土)10:00～	湘南医療大学	看護学科担当	「認知症の方の感じている世界を知る」	看護学科	佐々木千佳 准教授	5
第3回	8/30(土)①10:00～ ②14:00～	湘南医療大学	薬学部担当	①「薬学は何を学ぶ?～薬剤師の社会貢献～」	薬学部	市丸 嘉 講師	3
			看護学科担当	②「朝食と健康の関係」	看護学科	伊藤ふみ子 准教授	1
第4回	11/1(土)10:00～ (大学祭同時開催)	湘南医療大学	リハビリテーション学科担当	「子どもと地域をつなぐ居場所づくり:手探りの中で見えた課題」	作業療法学専攻	池田 晋平 教授	1
	11/2(日)13:00～ (大学祭同時開催)		薬学部担当	学術フォーラム [若者の薬物乱用問題最前線:おくすりのオーバードーズについて考える]	薬学部	船田正彦 教授	224
第5回	12/20(土)10:00～	湘南医療大学	リハビリテーション学科担当	「災害×リハビリテーション:理学療法士が“命と暮らし”を支える現場」	理学療法学専攻	下田 栄次 講師	10

(2) 地域連携活動

日程	イベント名	内容	講師	参加者数
7/29(火)	学校法人フェリス女学院	2025年度メンタルヘルス研修	看護学科 陶山 克洋講師	69
8/27(水)	社会福祉法人朝日の里	感染症対策	看護学科 渡部節子教授、野口京子講師	11
10/4(土)	戸塚区上矢部地区自治会	公開講座(フレイル予防)	池田 晋平教授	38
10/29(水)	東戸塚ボランティア団体アロマスマイル	すこやかな老年期を生きるために	看護学科 ラウ優希子教授	10
11/15(土)	戸塚区川上団地自治会	サブプリメントに関する講義 戸塚区民対象	薬学部 佐藤淳也教授	21
1/28(水)	朝日塾	感染症対策	薬学部 寺島朝子准教授	9
3/28(土)	公益財団法人秦野市スポーツ協会	失われた動作の再学習	大森 圭貢教授	23

No.	日程	学部・学科	場所	学年	都道府県	訪問者	参加者数
1	2025/5/1	看護、作業	三浦学苑高等学校	高校2年生	神奈川県	看護/山勢善江先生 作業/杉村直哉先生	37
2	2025/5/12	作業	県立市ヶ尾高等学校	高校2年生	神奈川県	作業/西野由希子先生	6
3	2025/5/12	薬学	県立市ヶ尾高等学校	高校2年生	神奈川県	薬学/小田中啓太先生	22
4	2025/5/12	看護	横浜学園高等学校	高校2年生、高校3年生	神奈川県	看護/佐々木千佳先生	3
5	2025/5/19	作業	横浜学園高等学校	高校2年生、高校3年生	神奈川県	作業/岡本絵里加先生	4
6	2025/10/10	作業	フェリスシア高等学校	高校1年生、高校2年生	東京都	作業/田邊浩文 先生 作業/三川年正 先生	228
7	2025/11/1	看護	鶴沼高等学校	高校1年生	神奈川県	看護/櫻井友子 先生	30
8	2025/11/21	看護、理学、作業、薬学	県立追浜高等学校	高校1年生、高校2年生	神奈川県	看護/坂口達哉先生 理学/櫻井好美先生 作業/鈴木雄介先生 薬学/園分秀也先生	47
9	2025/12/17	理学	湘南工科大学附属高等学校	高校1年生	神奈川県	理学/中尾陽光先生 理学/中村壽志先生	94
10	2026/1/22	理学	三浦学苑高等学校	高校1年生、高校2年生、高校3年生	神奈川県	理学/中尾陽光先生	41
11	2026/3/18	看護	県立横須賀南高等学校	高校1年生、高校2年生	神奈川県	看護/坂口達哉先生	17

4 学生の将来につながる指導力の発揮

教員は、学修面に加え、生活面や進路に関する面談・指導を通じて、休退学者数の減少に

取り組み、学生の国家試験、卒業及び就職に向けた支援を行いました。

また、ふれあいグループと連携した奨学金制度及び介護修学資金制度を活用し、2025年度は計306人の学生が支援を受け、経済的な不安を軽減しながら学業を継続しました。

【2025年度湘南医療大学卒業生の就職状況】

※ふれあいグループ病院施設含む

看護学科 卒業生 130 名		リハビリテーション学科理学療法専攻 卒業生 38 名		リハビリテーション学科作業療法専攻 卒業生 33 名	
ふれあいグループ	49	ふれあいグループ	14	ふれあいグループ	13
神奈川県内病院・クリニック・行政（保健師）※	105	神奈川県内病院・クリニック※	33	神奈川県内病院・クリニック※	21
神奈川県外病院 ※	14	神奈川県外病院・クリニック※	3	神奈川県外病院・クリニック※	7
進学	8				

【2025年度「ふれあいグループ奨学・修学資金制度」利用者数】

湘南医療大学 124 人、茅ヶ崎看護専門学校 78 人、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 27 人、湘南医療大学附属下田看護専門学校 5 人、医療ビジネス観光福祉専門学校 72 人
計 306 人

【2025年度の各校の国家試験合格率（新卒）】

学校名		学科名	年度	新卒				既卒			資格名	回
				受験者数	合格者数	合格率	全国平均 (新卒)	受験者数	合格者数	合格率		
湘南医療大学	保健医療学部	看護学科(看護師)	令和7年度	129	118	91.5%	94.1%	3	3	100.0%	看護師	115
		看護学科(保健師)		7	7	100.0%	87.1%	—	—	—	保健師	112
		理学療法学専攻		36	36	100.0%	94.9%	2	2	100.0%	理学療法士	61
		作業療法学専攻		28	28	100.0%	96.6%	7	3	42.9%	作業療法士	61
	保健医療学研究科	助産学領域	令和7年度	1	1	100.0%	99.8%	—	—	—	助産師	109
	専攻科	公衆衛生看護学専攻	令和7年度	20	19	95.0%	89.9%	—	—	—	保健師	112
		助産学専攻	令和7年度	15	15	100.0%	99.8%	—	—	—	助産師	109
茅ヶ崎看護専門学校		看護学科	令和7年度	66	58	87.9%	94.1%	—	—	—	看護師	115
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校		理学療法学科	令和7年度	50	44	88.0%	94.9%	6	2	33.3%	理学療法士	61
		作業療法学科	令和7年度	12	10	83.3%	94.9%	—	—	—	作業療法士	61
		言語聴覚学科	令和7年度	24	19	79.2%	81.3%	1	0	0.0%	言語聴覚士	28
		社会福祉専攻科 (通信課程)	令和7年度	32	29	90.6%	60.7%	38	14	36.8%	社会福祉士	39
湘南医療大学附属 下田看護専門学校		看護学科	令和7年度	20	17	85.0%	94.1%	—	—	—	看護師	115
医療ビジネス観光福祉専門学校		介護福祉学科	令和7年度	46	14	30.4%	58.8%	—	—	—	介護福祉士	38

【2025年度の各校の退学者数の状況】

退学理由は主に成績不振や進路変更によるものであり、一部では出席率不足による除籍もみられました。

各校では、学習支援や面談の充実等を通じて、休退学者の減少に向けた支援体制の強化を進めます。

学校名	退学者数（除籍含）	2025 年度	2024 年度	対比
湘南医療大学		37	42	-5
茅ヶ崎看護専門学校		11	15	-4
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校		21	29	-8
湘南医療大学附属下田看護専門学校		3	3	0
医療ビジネス観光福祉専門学校		8	4	4

Ⅲ 学校法人湘南ふれあい学園中長期計画に関する報告

○組織、運営に関する目標

1) 学部等

・近年の医療ニーズの高度化や専門人材の需要動向を鑑み、教育資源の適正配置と各学部の質的充実に向けた「収容定員の変更に係る学則変更認可申請」を文部科学省へ提出し、審議の結果、認可を受けた。

変更の概要は以下の通りである。

- ・保健医療学部 看護学科： 140 名 ⇒ 165 名（25 名増）
- ・保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻： 40 名 ⇒ 60 名（20 名増）
- ・薬学部： 130 名 ⇒ 100 名（30 名減）
- ・湘南東部総合病院で指定を受けている特定行為研修を継続する。

2) 業務の効率化

・業務処理方法の効率化の推進を継続している。

3) 補助金の獲得

・経常経費補助金は、増加となったものの、私立大学等改革総合支援事業の採択には至らず、次年度に向けて改善活動を実施する。

○教育、研究の活性化に関する目標

1) 教育内容の改善

・国家資格合格率 100%を達成するための学修支援、薬学共用試験 CBT（客観試験）、OSCE（客観的臨床能力試験）の準備教育の強化を図った。

・医系科目の再編（非常勤講師中心から専任教員への転換）は、達成度 50%となり、着実に進めている。

2) 教育方法の改善

・DP・CP・APに基づく学修者を養成のために、その指標となるアセスメントポリシーを制定した。

・ポートフォリオ（教育業績記録）は導入したものの、ディプロマサプリメント（成績証明書付加情報）の導入（課程履修の状況、卒論、GPA 推移、獲得スキル、資格取得、表彰など）は、次年度の達成課題となった。

3) 研究の活性化

・外部研究資金の獲得は、教員の半数が申請し、採択率は約 20%であった。

・研究不正防止教育として、研究倫理 e ラーニングシステム受講の 100%を目標として掲げたものの、98%であった。

・研究活動に関しては、大学・グループ病院間の共同研究、大学ブランディング研究、並びにグループ病院での治験準備(薬学部)を掲げたが、大きな進歩を得ることができなかった。

○新規施設等の整備に関する目標

1) 湘南医療大学茅ヶ崎キャンパスの整備を行った。

○教育・研究用備品等の更新・整備に関する目標

1) 教育・研究用機器の重点整備

・湘南医療大学保健医療学部看護学科 茅ヶ崎キャンパス設置並びにリハビリテーション学科理学療法専攻入学定員増に伴う教育用備品整備を行った。

○点検評価及び情報公開に関する目標

1) 授業評価に関する目標

・学生授業評価アンケート項目の見直し

2) 研究業績の評価に関する目標

・本学 HP に過去年度を含めて学内外への研究者の研究活動を積極的に公表している。

3) 外部評価及び自己点検評価に関する目標

・令和 7 年の薬学教育認証評価(中間)を受審し、必要な情報を HP にて公開した。

・私立大学改革総合支援事業における IR 関連項目の達成に向けて、IR 委員会を開催し、他大学の情報公開例を分析するとともに、本学のデータ収集状況と分析中項目を検討した。

4) 情報公開に関する目標

・HP において、教育、研究企画、イベント、成果等の外部公開の促進を図った。

○地域連携及び社会貢献に関する目標

1) 連携の強化

・ふれあいグループ病院施設との学生・教員・実習指導者との連携強化するために、実習指導者調整会議を開催するなど、実習の意義、内容、指導法について共通認識を図った。

2) 地域貢献

・地域が開催する医療、看護、リハビリテーション、薬学等に関する地域支援ネットワークの構築を戸塚区や関連団体と図り、公開講座において、計画を推進した。

・毎年実施している病院施設へのクリスマスメッセージ送付が定着した。

○入試、広報、学生募集の改善に関する目標

1) 入試制度の改善

・薬学部学生納付金の見直しを行い、初年度 228 万円から 202 万円への減額を実施した。入学生の確保に努め、定員充足率を満たすことはできなかったが、合格者の入学辞退率を減少させることができ、昨年より多い 70 名を確保できた。次年度も、年内入試に注力して、本学に入学したい学生を確保する入試体系など、学生確保の戦略をさらに進める。

2) 学生募集・広報体制の改善

・ホームページ、SNS の活用(受験生、保護者、高校教員のニーズへの対応)特に YouTube からの配信を行い、募集広報地域の範囲拡大を進めているが、薬学部の募集は苦戦した。

・高大連携事業の強化を謳ったが、連携校の増加にはつながらなかった。本学の認知度を向上させるために、神奈川県内での公開講座の実施などを行った。

○学生生活、修学及び就職等の支援強化に関する目標

1) 学生生活、修学支援

・前年度に比較して、各校とも休退学者減少への取り組みにより、減少している。

・チューター制度の充実により、国家試験の成績、就職実績の向上が堅調である。

・カウンセラーを各校に配置し、様々な学生の問題や課題を早期に発見し、解決できるように支援して。

・大学理解及び学生生活情報を共有するために保護者会を開催し、大学教育、本学の魅力、

学生指導体制、国家試験指導体制など、理解を図っている。

2) 就職・キャリア支援

- ・グループ就職説明会を実施して、先輩の体験・アドバイスを受ける機会を設けている。
- ・連携同窓会の諸活動が停滞しているため、今後は各校の代表者との連携を深めて湘南ふれあい学園の組織を強化する。

IV 2025年度各学校の事業計画の概要に関する報告

1) 湘南医療大学

【保健医療学部】

① 経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択

(1) IR 機能の強化

看護学科

教学改善のために IR 情報を活用する意義について、学科内での伝達を行った。今後は 3 つのポリシーを教育課程レベルで評価し、教学全体の改善に努めるコンセンサスが得られた。

リハビリテーション学科

学長・保健医療学部長等からなる運営管理会議を軸に、IR 委員会の報告等を参考に入学期後の成績と入試区分との関連性の確認し、全学的教学マネジメントの推進に関与し、アセスメントポリシーの策定を包含した FD を実施した。

(2) 学修成果等の可視化

看護学科

ディプロマ・ポリシーの到達度を明らかにする方法について、新カリキュラムアセスメントワーキングにおいて検討するグループを発足した。学修成果を可視化するためのディプロマサブリメントの 1 要素として 4 年次にも PROG テストを導入した。ディプロマサブリメントの本格導入について、新キャリアアセスメントワーキングで検討を継続している。

リハビリテーション学科

リハ学科の大卒者として社会で求められる汎用的な能力・態度・志向（ジェネリックスキル）を評価分析と醸成に寄与する PROG テストを 4 年生と 1 年生に実施し、その結果を個別的にフィードバックし、就職に向けた心構え、また 1 年生にはこれからの学びと生活行動を再認識する契機となった。

全学生の前・後学期の履修成績の一覧は GPA で取りまとめられ、保護者に学期ごとに郵送するとともに各チューターは担当学生の GPA、出席状況とを把握できるよう可視化され学生指導に反映している。

(3) IR 情報を活用した教学改善の検討

看護学科

教学改善のために IR 情報を活用する意義について、学科内での伝達を行った。今後は 3 つのポリシーを教育課程レベルで評価し、教学全体の改善に努めるコンセンサスが得られた。

リハビリテーション学科

IR 委員会からは、リハ学科学生の入学後の成績と入試区分、入学試験成績とは統計的に有意な傾向は得られず、今後、プレイスメントテストを実施し、その結果を踏まえて教学の方針に反映する必要性を確認した。同時にプレイスメントテストのみでなく各学年の主要科目の成績推移との相関性を把握し教学改善に活かしていきたい。

(4) 高等学校教育と大学教育の連携強化

看護学科

直近 4 年間の受験者数の推移をもとに指定校を更新し、受験者総数の多い高校を中心に訪問した。

また、高校の要請に応じて出張模擬授業並びに大学案内を行った。さらに、高大連携校において「総合的探究の時間」を使って、年間を通して調べ学習のサポートを行った。顔の見える関係強化のため、高大連携をさらに充実させたい。

リハビリテーション学科

入試広報の意見を踏まえた運営管理会議での結論を基軸に、高大連携校を増やす方向性にリハ学科としても取り組み、県立追浜高校へは看護学科・医療薬学科加えた全学的講義と学科別意見交換会を実施し、また新たに三浦学苑高校とは 2 年生 24 名（担任引率）が来学し、理学・作業療法学のシュートレクチャー後に体験実習を実施し、高校側からは次年度も体験学習の依頼があった。

(5) 入学者選抜の妥当性及び効果的な選抜方法の検証（入試の改善）

看護学科

2025 年に 2026 年度入学者の選抜試験の方法（時期・内容・出題者等）が改正された。初年度のため、その妥当性についての検証は次年度の課題である。看護学科では推薦入試の受験者が減少したが、一般選抜の受験者は例年並み、さらに一般選抜の歩留まり率が例年の 20～30%代から 60%程度に上昇したため、178 名（定員 165 名）の入学となった。

リハビリテーション学科

2025 年度の総合型選抜、学校推薦型選抜（一般公募型、指定校型）、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜など試験区分やⅠ～Ⅲ期による合格者の妥当性を検証する統一的なプレイスメントテストを実施できず、統計学的相関や有意性の検証を踏まえた選抜方法による検証は未達成であった。

② 授業評価等の結果を活かした授業改善、教育活動改善への活用

看護学科

各科目責任者は、各回のリフレクションペーパーの確認を行い、学生の理解状況、教材の選択、学習環境等について課題を確認した。また「学生による授業評価」アンケートの結果平均値が、4.40 未満の科目担当者は、授業改善計画を行うように努めた。

再試験者数が多い科目に関しては、専任教員が科目責任者になり、内容の精選や順序性を検討し、看護基礎教育に必要な内容に見直した。

リハビリテーション学科

リハ学科の授業科目責任者は、各授業終講時に授業評価アンケートを実施し、その実施率は、理学療法学専攻が 579/849 で 68.2%、作業療法学専攻が 592/853 で 69.4%と

なり、2024 年度よりも実施率は改善した。また授業評価は全体に高く、リハ学科専門科目では平均 4.84、理学療法専門科目は平均 4.52、作業療法専門科目は平均 4.65 と高評価であり、上長による個別指導対象の科目は無かった。なお学科 FD として授業改善のための教授法に関する FD は実施した。

③ 学修支援・国家試験対策支援
看護学科

1 年生では、学修計画表を基に学生の到達目標や生活状況を把握し、アルバイトと学業の両立に向け生活リズムや時間管理について助言した。12 月に模擬試験と自主ゼミを実施し、少人数での解き直しと相互解説を行った。参加者 20 名の満足度は高かったが、参加者数の少なさが課題として残った。

2 年生では、病態学Ⅰ・Ⅲで反復学習ドリルを導入。満点習得を徹底した結果、再試験者が減少し学生の成功体験に繋がった。国試対策は年 2 回の模試を実施し、12 月には詳細な解説で支援した。個別支援の強化が今後の課題である。

3 年生では、年 2 回の国家試験模試を実施。学生の国家試験委員会を中心にクイズ形式で国家試験に回答するライングループを作成した。12 月の国家試験模試後に成績低迷者クラスを立ち上げたが、低迷者ほど自分事として考えるのが困難であった。この低迷者層を学修に向かわせる仕組みづくりが要である。

4 年生では、月 1 回の外部業者の模試を実施し、結果を踏まえた対策（学内教員による特別講座、専門の講師による講義）を実施した。前期は必修問題の得点率向上に重点を置き、中期から後期にかけては一般問題および状況設定問題への対応力向上を図った。その結果、看護師国家試験は新卒 129 名受験し、118 名合格（合格率 91.5%）、既卒者を含む全体の合格率は 91.7%で、全国の 88.3%を上回った。保健師国家試験は、7 名受験し全員合格であった。

リハビリテーション学科

2025 年度は「PTOT 全員合格の奪還」を合言葉に、専攻ごとに国家試験対策委員会による年間対策スケジュールに準じて、専攻ごとの対策実績と反省、さらに学科としての対策方針を 2 週ごとに進捗状況を確認し、その結果、理学療法学専攻は 36/36 の 100%合格、作業療法学専攻は 28/28 の 100%合格とダブル 100%を達成した。既卒生の PT は 2/2 と 100%合格、既卒生の OT は 3/7 であった。全員合格できた背景には、1 年次から国家試験ガイダンス・模試・小テストを計画的に実施し、基礎学力の定着を図り、成績不良者に対しては個別面談・補習指導・保護者面談を実施し、早期支援を徹底し、同時に国試模試実施回数：PT17 回、OT17 回実施した。国試対策の特別講義は両専攻で 30 回、またジグソー法による相互学習や OT では夏季合宿などを実施した。しかしながら 4 年次後期科目が未修得となり未受験となった PT 専攻 2 名、OT 専攻 5 名の学生が生じたことは反省し、次年度は完全合格を目指す。

④ 入学定員の確保
看護学科

オープンキャンパスや高校訪問、出張講義、研究室訪問、大学見学会などを通じ、特色のある教育課程について積極的に広報活動を行った。しかし、高校訪問においては、看護・リハで分担して高校訪問を実施したが、他学科のことを積極的にアピールすることは内容的に困難なため、対応策が必要である。

2025 年度の資料請求数は 6470 件で前年の約半数（49.5%）に減少し、OC 等参加者数は、延べ 682 名で 前年より若干減少した。また、オープンキャンパス参加者の出願率は、OC 参加者数 285 名のうち出願者は 133 名で出願率は 46.7%であり、昨年

度の 34.5%より 12.2 ポイント向上した。この結果から、OC 参加者において、本学を希望する人の割合が増加していると推測される。

来年度は、茅ヶ崎キャンパス単独でのオープンキャンパスを 2 回開催し、茅ヶ崎キャンパスの地域性や環境面をアピールし、受験生の増員に繋げたい。

リハビリテーション学科

入学定数 40 名から 60 名（50%増）の定員増となった理学療法学専攻の入学定員確保状況では 58/60 と 96.6%の充足率、作業療法学専攻では 31/40 と 77.6%の充足率となり入学定員の確保には至らなかった。学生確保に向けたオープンキャンパスや高校訪問、出張講義、研究室訪問などを通じた積極的な広報活動を行ったが、PT 専攻の出願者数 95 名、受験者数 92 名で、OT 専攻の出願者数 42 名、受験者数 40 名と減少した。この PT 専攻の受験者数の減少が、結果的に OT 専攻第二志望者の確保に至らず両専攻とも定数割れとなった。2027 年度入試に向けては入試広報室と連携を密に重点校の見直し増と高校訪問の徹底とオープンキャンパスのきめ細かな実施に向けリハ学科として取り組んでいく。

⑤ 休退学者減少への取り組み

看護学科

1 年生では、チューター教員は定期的に面談を行い、学習状況や体調を把握した。アルバイトによって学習時間が減少している学生には奨学金受給を勧め、メンタル不調な学生には必要時医療機関受診を促した。

2 年生では、定期面談を通じ、学修状況や体調管理の把握に努めた。特に、1 年次科目の再履修者に対しては、単位取得に向けた学修計画の立案をきめ細やかに指導し、修学継続を促すための環境整備と支援を行った。

3 年では、前期は看護専門科目が多くなるため、学生個々の看護専門職への志向が問われる時期である。このため 3 年後期の本格的実習を前に、成績不良者への集中的指導と厳しい選択が必要であった。

4 年生では、国家試験対策と並行して定期的な面接を実施しメンタル面の支援を行った。これにより、学生一人ひとりの学習状況や理解度、メンタル面の状況に応じたきめ細かな学修支援を行い、休退学者を出すことなく 130 名全員が卒業することができた。

リハビリテーション学科

休学者は、理学療法学専攻 8 名、作業療法学専攻 3 名で、退学者は理学療法学専攻 7 名、作業療法学専攻 6 名で、リハ学科全体の休学率は 3.4%、退学率は 4%なり、リハ学科として休退学者ゼロに向けた徹底した学生に寄り添う教育指導を実施していく。

⑥ FD・SD 研修の充実

看護学科

教育力向上を目指した組織的な取り組みの一環として、教員によるふれあいグループ病院の見学研修を実施した。その結果、病院の特徴や雰囲気を感じ、病院の利点、可能性、課題を明確にすることができた。さらにチューター教員としてキャリア支援に活かせる視点を得ることができた。

また、個々の教員の教育改善を目的とした授業参観(教員相互の授業評価)を実施した結果、特に教員経験が浅い教員ではピア評価によって自己研鑽の方向性を見出し、次年度の授業設計に役立てることができた。

リハビリテーション学科

FD 活動としての相互授業参観は 4 回（PT2 回、OT2 回）参加教員 22 名で授業評価と授業展開の提言を図り、より良い教育に努めている。また、教育の質的向上に関する FD としては、「主体的な学びを促す授業設計」、「PROG テストの活用法」、「ハラスメント予防」、「障害学生への合理的配慮」、「地域連携を深める社会貢献」、「リハ学科の 3 ポリシー」などのテーマにて 10 回の FD 開催した。

⑦ 3 つのポリシーを踏まえた自己点検・評価及び認証評価への取組

看護学科

アセスメントプランに則り、機関別・課程別・科目別の各レベルで、3 ポリシーのアセスメントを実施する体制を整えることができた。次年度はこれらを実行することで、PDCA を確実に循環させたデータ蓄積を行い、次回の認証評価に資する準備を整える。また、本学も加入している看護学教育評価システム（JABNE）の評価指針の情報収集を行い、JABNE 受審に備える。

リハビリテーション学科

昨年、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構による認証評価を受審し高評価を得たばかりで、4 年後の同機構の認証評価の再受審に向けて教育関連の実績や臨床実習関連の実態、教育研究業績等の記録保存を継続しており、このことは大学全体の認証評価にも反映できる。

⑧ 学生の学修時間や学修成果の把握による教育活動の見直し

看護学科

チューター個別面談時に、学生が立案した学修計画表をもとに学習時間の確認と指導を実施した。

また、看護学科教務委員会を中心に、教員と教務事務部が連携し、学修の深化を図るため、進度の調整やクラス別・グループ別等の授業形態、試験方法等について継続的に検討し、実施した。

また、ICT の活用による教育の充実を図るとともに、双方向型授業や自習支援の工夫を取り入れ、学生にとって理解しやすい授業の実施に努めた。

リハビリテーション学科

平日の自宅復習時間に関する調査では、PT3 年生の 1 時間 40%、4 年生 48%、OT3 年生では 30 分～1 時間 37.5%、4 年生 25%と学年進行とともに自宅での復習時間が増加傾向であった。今後これら学習時間と GPA との相関などの IR 分析を加え、学生の学修時間や学修成果を把握することで、適切な授業内容や課題量、評価方法を検証し、カリキュラムや授業設計の改善に活かし、教育の質保証と学生の主体的な学びの向上を図りたい。

⑨ キャリア支援と地域社会への貢献

看護学科

3 年生を対象に、ふれあいグループ 16 施設の合同就職説明会を、大学主催で 2025 年 7 月 19 日に実施した。看護管理者と卒業生等から直接、各施設の魅力について発表を聞いたことで、学生は実習施設以外のふれあいグループ施設の理解が深まった。特に卒業生との交流について学生には好評であった。

3 年生を対象としたふれあいグループ採用試験を実施した結果、ふれあいグループ施設就職率が 45%（前年度 35%）であった。4 年生になる前に就職先の内定が出ることで、早期から国家試験対策に取り組めるメリットを学生に伝え、今後も継続する。

1,2 年次生に対しては、ふれあいグループ施設の紹介を、実習前後など時期を見極めて今後強化していく。

地域住民の生涯学習や大学の認知度上昇につながる企画として、本学で「子どもアドベンチャー」を開催した。また大学祭にさらに多くの住民が参加できるような企画を計画する。

リハビリテーション学科

2025 年度 4 年生に向け 2/27 にふれあい G 病院の就職説明会を開催し、3/5 にはグループ病院の OGOB からの臨床活動やキャリアアップの説明会を、8/6～8/19 にグループ病院の見学会を実施するなどグループ就職を促通し、9/10・17 の両日に就職試験を実施。その結果グループ入職は PT14 名/38 で 36.8%、OT13 名/33 で 39.4%と少なく猛省。次年度のグループ病院への入職目標 50%は達成したい。

⑩ 研究力向上に係る学内計画の策定

看護学科

公的研究費獲得上昇へ向けて、研究倫理 e ラーニングの実施や 厚生労働科研費について概要&申請戦略に関する説明を行った。研究倫理 e ラーニング受講は早期に 100%を達成し、・文科科研費の応募数は 25 件であった。

学内研究費の獲得条件の 1 つに、研究成果（論文の掲載、書籍の発刊など）を加え研究推進を図った。

リハビリテーション学科

リハ学科の 2026 年採択結果は、4 件採択された。内訳は基盤 C が 2 件、若手研究が 2 件であった。科研申請は該当教員 14 名中 12 名が申請した。

【薬学部】

① 経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択

(1) 学修成果等の可視化

完成年度を迎えている薬学部 73 校のホームページを調査し、そのうちアセスメントポリシーに関する記述が確認された 42 校から情報を収集・整理した。さらに、他大学のアセスメントポリシーと本学看護学科のアセスメントポリシー案、および薬学部における三つのポリシーを相互に照合し、必要な項目の選定を行ったうえで、アセスメントポリシーとして策定した。

(2) アドミッション・オフィサーの配置

各学生が修得した知識や能力等の客観的資料として「個人成績カルテ（S カルテ）」を作成し、学生本人への成果開示と個別指導により学力・学修意欲の向上を図った。また、保護者への成績状況の説明にも利用することで保護者との協力連携の強化を図った。特に 2025 年度は、カルテ作成作業の効率化を図り、学生へのフィードバックまでの時間を短縮することで面談タイミングの適正化を向上させた。

(3) 高等学校教育と大学教育の連携強化

今年度の高大連携の取り組みとして、5 月 9 日時に実施された三浦学苑高等学校の見学を皮切りに高校単位での大学見学と、湘南鎌倉地区の高校生を対象としたアカデミック・インターンシップなどが例年通り実施された。インターンシップや見学会などを通して、参加校への積極的なアプローチによって、引き続き本学の

手厚い教育体制をアピールできるよう 1 人 1 人の見学者を大事にしていく必要がある。また、高校側の要望を聴取する機会などを儲け、需要を理解するよう努めることも効果的と考えられる

② 授業評価等の結果を生かした授業改善、教育活動改善への活用

授業評価アンケート専門科目 総合平均数値 [薬学] 前期: 91% 後期: 92%

目標値に対して専門科目の総合平均数値は 90.66%と高かった。一方で、前科目の中に評価が 80%未満の科目が一つあったため、改善計画書の提出を求めた。今後、改善の成果を注視する必要がある。

③ 学修支援・CBT/OSCE 対策支援

80%以上の定期試験合格率を達成していない科目責任者に対して、課題の分析と改善策を依頼し、教務委員会、教授会にて共有した。

入学前教育（対面）に関しては、体調不良者、遠方者を除きほぼ全員が受講した。また、講義内容を撮影し、未受講者に対して履修の機会を提供した。

CBT 対策として、模擬試験および体験受験を実施した。CBT 模試 1（5 月）の得点率は 49.1%、CBT 体験受験（8 月）は 55.9%、CBT 模試 2（9 月）は 51.2%、CBT 模試 3（11 月）は 52.4%であった。最終的に 54 名の学生が CBT 本試験を受験し、39 名が本試験合格、再試験で 7 名が合格した。これにより最終合格率は 85.3%であった。

④ 入学定員の確保

2025 年度は、オープンキャンパスや高校訪問、出張講義、研究室訪問、インターンシップの受け入れなどをおして積極的に広報活動を行った。出願者は 147 名と前年度の 170 名を下回ったが、歩留率は昨年度より上昇し、70 名の入学者確保となった。2026 年度に向けては、入試制度の見直しをはじめ高大連携の在り方や WEB オープンキャンパスの充実を図るなど、本学独自の学生募集の在り方を創造し、それを伝統として築いていく。

⑤ 休退学者減少への取り組み

全体研修会を通じて、教育センターが主体となって適宜学修支援に関する情報を発信した。また、S・タスクフォースを中心に学習支援策について質向上を図った。さらに、昨年度より導入した感情知能（EQ）に着目した支援体制について、さらなる量（個別指導から講義導入にまで拡充）・質（PDC を通じた適宜改善）両視点での向上を図り、学生本人、支援者である教員のスキル向上を計った。

2025 年度の休学率は、1 年生 6%、2 年生 5%であり、全学年では 4%であった。退学率は 1・2 年生ともに 10%、全学年では 4%であった。

⑥ FD・SD 研修の充実

全体研修会及び医療・教育研究会を着実に実施し教職員が大学の重要事項や活動内容を共有し、改善を図ってきた。

FD、SD 活動長期計画に基づき、教育方法と研究領域の発展を目的として、組織的で持続的な FD 活動 を積極的に実施してきた。

大学運営方針を全体研修会時に、大学の理念を基本姿勢として常に共有してきた。

自ら学び自ら考えて行動するという行動目標について、6S 活動や PDC 活動を通して教員、職員が常に協力して取り組んできた。

⑦ 3つのポリシーを踏まえた自己点検・評価及び認証評価への取組

薬学部医療薬学科の自己点検・評価の厳格化としての取り組みは、大学の理念や目的・目

標に照らして教育活動等の状況を点検し、優れている点や改善すべき点などを評価し、その結果を公表するとともに、その結果を踏まえて改善向上を行うことを目的としている。

2025年度は、他の薬学部(東京薬科大学、昭和大学薬学部)の自己点検・評価書を参考情報として共有した。また、薬学評価機構のホームページに公開されている、薬学教育評価ハンドブック 2025年度版(2026年度受審用)から「受審大学を対象とする評価の手引き」の情報を共有した。今後も引き続き、大学評価に関わる有用な情報を収集し、共有していく。

⑧ 学生の学修時間や学修成果の把握による教育活動の見直し

例年通り、講義科目では定期試験および課題・レポートにより評価した。また、実習および演習科目でも実習試験およびレポート、ループリック評価により適切に評価した。

間接評価として、通年ガイダンス後に実施している学生アンケートにて、修学時間や学修場所、図書館利用などを調査している。授業アンケートは、講義時間内での実施を行い、回収率を向上に努め、より客観的な数値を得ることができた。さらに、学修環境等については、学生投書箱の意見で改善をおこなっている。

⑨ キャリア支援と地域社会への貢献

キャリア支援の一貫として、今年度もグループ施設インターンシップ実習の受け入れをいただき、参加学生(4・5年生)の報告会を2025年11月7日(金)に行った。受講学生62名中17名の参加となり、目標値を下回ったが、受講者は熱心に聴講していた。

また、5年生の就職活動に向けた各種対策講座を11月6日、13日に開催をしたが、参加者は9名、4名の参加に留まった。開催時間が学生の希望に合わなかった可能性が考えられるため、次年度は参加しやすい開催時間等を検討していきたい。

⑩ 研究力向上に係る学内計画の策定

公的研究費の獲得

- ・文科学研究費の応募数は19件であった。
- ・研究倫理eラーニング受講が早期に100%達成した。
- ・全体研修会で厚生労働科学研究費について概要&申請戦略に関する説明を行った。

査読付き論文数の確保

- ・教員の業績の実態調査を行った。

【大学院】

① 大学院教育の充実

大学院保健医療学研究科は、修士課程に加えて博士後期課程の設置により大学院生の受け入れ体制を強化するため、学士課程からの情報提供、卒業生に向けた研究活動の情報提供を実施することができた。また大学院事務担当及び指導教員からの履修指導や、指導教員による研究指導体制を充実させて、院生の研究教育活動の遂行に貢献することができた。

② 研究科および各領域の定員確保

アドミッション・ポリシーを遵守した学生募集活動を展開し、研究科および各領域の定員確保を目指した。

2025年度は修士課程において12名を確保し、定員を満たした。内訳は健康増進・予防領域2名、心身機能回復領域3名、助産学領域3名、医療・マネジメントエグゼクティブ領域4名の計12名である。また、博士後期課程においても3名を確保し、定員を満たした。

③ 休退学者減少への取組

休退学の兆候を早期に指導教員が発見し、適切な支援を行った。

2025 年度は、助産学領域 1 名が休学をしているが、2026 年 4 月に復学予定である。

年間休退学率を各領域 2 名以下に抑えるという目的を達成することができた。

④ FD・SD 研修

2 ヶ月に 1 回行う全体研修会（大学部会）および年 2 回実施する医療・教育研究会に積極的に参加し、教育方法や研究力向上を目的とした FD 活動を推進することができた。また、新たな社会的価値の創造のため、研究の重点化を図り、戦略的な研究分野を確立したい。

⑤ 認証評価への取組み

次回の認証評価に向けて、データ及び資料を IR に基づき蓄積して準備を進めている。自己点検・評価は大学院の 3 つのポリシーを踏まえた点検・評価項目の見直しを行い、評価結果のフィードバックと改善事項に対する報告書を作成し、状況分析を行い、改善を図っている。

(1) 著書

氏名	著書、学術論文等の名称	原著・共著の別	発行又は 発刊の年	発行所、発刊誌等 又は発表学会等の名称
河田 典子	1『アドリブ看護の事前計画』巻頭言	共著	令和7年10月	日本アドリブ看護学会誌 第22巻2号
河田 典子	2『看護実践力のコア科目設定を中心とした、新しい発想でのカリキュラム編成ー湘南医療大学での取り組み』	共著	令和7年12月	看護教育, 第66巻6号 P900-910, 医学書院
河田 典子	3『新カリキュラム実現のための調整とアセスメントプラン』	共著	令和8年2月	看護教育, 第67巻1号P60-74, 医学書院
飯田 恵子	3『臨床ケアール管理の実践基盤』	共著	2025年9月	南山堂
飯島 眞理	1 高齢がん患者の在宅療養における意思決定支援に対する看護職の実践状況	共著	2026年2月	日本がん看護学会誌
飯島 眞理	6 終末期ケアにおける看護	共著	2026年2月	Clinical Study, vol. 47, No.2,
相澤 恵子	3, Post-mortem Grief Care for Family Caregivers after Home-Based End-of-Life Care: A Scoping Review (査読付)	共著	2026年	Nursing reports, 16(3), 81.
城井 曜衣	4看護アカデミック 国際看護 改訂第2版 国際社会の中で看護の力を発揮するために	共著	2025年12月	南山堂
櫻井 友子	2 認定者委員会報告：2025年度日本運動器看護学会認定運動器看護師制度 概況報告	単著	2026年2月	日本運動器看護学会誌 vol. 21
嶋中 まずみ	4コンプライタマナジメント。 リーダーシップ：ケアの基盤をつくるがん看護実践を支えるキーワード79	共著	2026年3月	南山堂 p.108, p178
山崎 圭子	4 新体系看護学と看護性看護学 看護学 女性看護学特論/ ウィメンズヘルスと看護	共著	2025年10月	メグカルブレンタ社, 2025年 第7版
飯上 晃	1 標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学第7版 日常生活活動学 各巻編-386頁 巻の完結 3 脳性麻痺	共著	2025年12月	医学書院 鶴見隆正監修 鶴島研吉・太森圭典編集
森尾 昭志	6 0111-110産科雑誌 0106 妊娠ガイドライン2025, 1. 0106の妊娠に関する 0111 0106患者に運動療法（リハビリテーション治療）を行うべきか, pp. 129-129	共著	令和7年9月	南山堂
中庭 結光	1 障害者スポーツ施設における実習が学生にもたらす学びと意識変化への効果ー理学療法士養成校と障害者スポーツ施設との連携による意義と可能性ー	共著	2025年11月	リハビリテーション実践 科学, 第26巻
大村 雅彦	1, 神経新像図解	共著	2025年4月	北京科学技術出版社
中村 源志	1, 足病研究施設長の成果報告と足病の救済	共著	2024年12月	第20回人工関節研究会
中村 源志	2, Relationship between Self-evaluation and Objective Performance in OCE: An Integrated Analysis of Physical Therapy Students	共著	2026年1月	15th APT Congress 2026
岡本 勉弘加	1, 車椅子施設上肢機能検査知能域の測定時に於けるテーブルの高さが測定値へ及ぼす影響	共著	2025年11月	車椅子シーディング研究 19
吉内 貴之	1, Association between activities of daily living Independence and observational attention ratings in patients with acute stroke	共著（主）	2026年3月	Brain Injury
吉内 貴之	2, Relationship between behavioural observational rating scale of attention function and toileting ability in patients with acute stroke: A cross-sectional study	共著（主）	2026年12月	British Journal of Occupational Therapy
石田 洋一	2 生物系実習 実習書 (資料2, 資料4)	共著	2025年8月	湘南医療大学薬学部
石田 洋一	3 生物系実習 実習書 (資料4, 資料5)	共著	2025年11月	湘南医療大学薬学部
加藤 高明	衛生化学詳解第4版（上）：ISBN 978-4-910844-64-0 衛生化学詳解第4版（下）：ISBN 978-4-910844-65-7 京都府立書店	共著	2026年3月	衛生化学詳解第4版, 京都府立書店
加藤 高明	1 公衆衛生学：序論（第1章）浅野哲、加藤高明、P13-29	共著	2026年3月	衛生化学詳解第4版, 京都府立書店
加藤 高明	2 公衆衛生学：健康と疾病の概念（第2章）浅野哲、加藤高明、P31-48	共著	2026年3月	衛生化学詳解第4版, 京都府立書店
加藤 高明	9 公衆衛生学：学校保健（第9章）浅野哲、加藤高明、P251-266	共著	2026年3月	衛生化学詳解第4版, 京都府立書店
加藤 高明	10 公衆衛生学：老人保健（第10章）浅野哲、加藤高明、P267-282	共著	2026年3月	衛生化学詳解第4版, 京都府立書店
加藤 高明	11 公衆衛生学：産業保健（第11章）浅野哲、加藤高明、P283-306	共著	2026年3月	衛生化学詳解第4版, 京都府立書店
加藤 高明	12 公衆衛生学：公衆衛生行政（第12章）浅野哲、加藤高明、P307-312	共著	2026年3月	衛生化学詳解第4版, 京都府立書店
加藤 高明	3 公衆衛生学：保健統計（第3章）浅野哲、加藤高明、P49-68	共著	2026年3月	衛生化学詳解第4版, 京都府立書店
加藤 高明	4 公衆衛生学：疫学（第4章）浅野哲、加藤高明、P69-106	共著	2026年3月	衛生化学詳解第4版, 京都府立書店
加藤 高明	5 公衆衛生学：感染症の疫学と予防（第5章）浅野哲、加藤高明、P107-151	共著	2026年3月	衛生化学詳解第4版, 京都府立書店
加藤 高明	6 公衆衛生学：生涯習慣の疫学と予防（第6章）浅野哲、加藤高明、P152-215	共著	2026年3月	衛生化学詳解第4版, 京都府立書店
加藤 高明	7 公衆衛生学：骨粗鬆症・骨折予防（第7章）浅野哲、加藤高明、P216-226	共著	2026年3月	衛生化学詳解第4版, 京都府立書店
加藤 高明	8 公衆衛生学：母子保健（第8章）浅野哲、加藤高明、P227-239	共著	2026年3月	衛生化学詳解第4版, 京都府立書店
佐藤 淳也	資料3「我が国治療のrecipe」	単著	2025年4月	七田学
佐藤 淳也	資料5 国語 補綴医学 改定第2版	共著	2025年2月	南山堂
佐藤 淳也	資料3 緩和ケアワークショップ ガン・高齢患者の症状緩和と薬物療法の臨牀	単著	2025年10月	月刊薬事

氏名	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称
佐藤 淳也	資料部 骨転移性癌プラチナ・タキスフェール：実践知とケースで臨床力をアップしよう！	共著	2025年3月	岡山県
佐藤 淳也	資料部 特に関作用に注意したい薬物群-ホルモン薬の副作用の聞き取り方-	共著	2025年3月	じほう
佐藤 淳也	資料部 見逃すな！オピオイドの隠れ副作用 導入時から、患者状態をしっかりと評価	共著	2025年3月	じほう
東山 公男	1. 化学系実習 実習書	共著	2025年4月	湘南医療大学 薬学部
東山 公男	2. 有機化学実習 実習書	共著	2025年4月	湘南医療大学 薬学部
小野塚 真理	1. 令和7年度 実務実習事前学習Ⅱ BOOKBOOK	共著	2025年5月	湘南医療大学 薬学部
小野塚 真理	2. 令和7年度 実務実習事前学習Ⅲ BOOKBOOK	共著	2025年9月	湘南医療大学 薬学部
小野塚 真理	3. 令和7年度 実務実習事前学習Ⅰ BOOKBOOK	共著	2025年11月	湘南医療大学 薬学部
島越 一史	20 薬学生・薬剤師のための調剤実務の計算これ1冊ドリル 苦手な計算が好きになる！	共著	2026年1月	千土社（東京） ISBN 978-4-7581-2940-4
山崎 泰正	生理解剖学実習書 2025年度版	共著	2025年10月	発行：湘南医療大学
越上 大樹	4.2025年度 薬理学実習帳	共著	2025年 5月	2025年度 3年 前期 薬理 学実習
森 裕之	1. てんかんを持つ妊婦・授乳婦の薬物治療において薬剤師に求められるもの：病院と調剤薬局の比較調査研究（査読無）	単著	令和7年9月	薬薬 47(5)：6-7
坂本 沙希里	1. 湘南医療大学薬学部 シタリニカルサポート ～疾患領域別対応症例集 (Ver. 1)～	共著	2025年5月	湘南医療大学薬学部医療 薬学科
田中 伸	1 和がん薬治療のrecipe(地方) レジメン+支持療法薬のタイクガイド	共著	2025年4月	じほう
田中 伸	2 がん・非がん患者の症状緩和と薬剤選択の勘所 緩和ケア薬ケースファイル	共著	2025年10月	じほう
田中 伸	3 同種同効薬を科学するアカデミック・ディファレンシアを活用した なるほどと思わせる処方提案の考え方	共著	2025年11月	じほう
中嶋 奨	1. 化学系実習 実習書	共著	2025年4月	湘南医療大学 薬学部
中嶋 奨	2. 有機化学実習 実習書	共著	2025年4月	湘南医療大学 薬学部
江川 大地	1. 2025年度天然薬物学実習実習書	共著	2025年6月	2025年度天然薬物学実習
江川 大地	2. 2025年度有機化学実習実習書	共著	2025年12月	2025年度有機化学実習
山崎 真帆	1. 標準化検定講座1 公衆衛生看護学概論	共著	2026年2月	医学書院

(2) 学術論文 (原著)

氏名	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
川本 利恵子	1. 臓器機能を回復する臓器移植と全身機能を再構築する造血性幹細胞移植における看護職の困難に関する文献レビュー	共著	2023年4月	インターナショナルNursing Care Research, 24(2)
川本 利恵子	2. 看護実践力のコア科目設定を中心とした、新しい発想でのカリキュラム編成	共著	2023年11月	看護教育, 96 (6)
川本 利恵子	3. 新カリキュラム実現のための調整とアセスメントプラン 湘南医療大学での取り組み2	共著	2026年1月	看護教育, 97 (1)
片山 典子	1『Development of an Assessment and Response Competency Scale for Co-dependence Cases of Elder Abuse』 (高齢者虐待共依存ケースのアセスメント・対応コンピテンシー尺度の開発) (査読付)	共著	令和2年4月	日本アディクション看護学会誌 第22巻1号 (P15-26)
片山 典子	2『COVID-19拡大に伴う1型糖尿病患者の心身への影響に関する研究～マイクロブログによる計量テキスト分析を用いて～』(査読付)	共著	令和2年10月	日本アディクション看護学会誌 第22巻2号 (P11-23)
倉田 恵子	1『低出生体重児の退院調整から退院に至るまでのプロセスー低出生体重児を養育する親が捉えた医療者とのふりかへりー』	共著	2023年7月	日本小児看護学会第36回学術集会
倉田 恵子	2『低出生体重児の出生から在宅移行に至る構成員-GTAを用いた質的研究ー』	共著	2023年12月	第136回日本看護科学学会学術集会
渡部 節子	1『診断後3か月以内の2型糖尿病患者の食行動における性別の特徴』(査読あり)	共著	2025年	日本糖尿病教育・看護学会誌Vol.29 No.2
渡部 節子	2『糖尿病性腎症患者における透析導入までの保存療法の実施とその関連因子』(査読あり)	共著	2026年2月アブセプト	日本糖尿病教育・看護学会誌 (現在、印刷中)
渡部 節子	3『外来リハビリテーションを受ける脳血管障害患者の口腔内ケアの実態とその関連要因』(査読あり)	共著	2026年	日本造形看護学会誌19 No.1
相澤 恵子	1. Impact of Management-Integrated Learning Materials on the Promotion of Child- and Family-Centered Care in Peripheral IV Placement (査読付)	共著	2023年	Comprehensive child and adolescent nursing, Sur:49(1):34-69.
相澤 恵子	2. Components of Care Expected from Midwives by Women with Twin Pregnancies After the Use of Assisted Reproductive Technology: A Cross-Sectional Study (査読付)	共著	2023年	Women, Reprod, 3(4), 66.
伊藤 ふみ子	1. 急性期病院における退院支援に関する文献レビュー	単著	2023年11月	第35回看護社会福祉学会
伊藤 ふみ子	2. 急性期病院の病棟看護職の退院支援能力の検討に関する文献検討	単著	現在査読中	第32号看護福祉研究
櫻井 友子	1 第25回日本運動器看護学会学術集会4月29日一般課題 (13演) 座長		2023年4月	第25回日本運動器看護学会学術集会
清水 奈緒美	1. 地域で生活する高齢がん患者の生活上の課題と支援	共著	2026年2月2日	第408回日本がん看護学会学術集会
清水 奈緒美	2. 高齢がん患者への意思決定支援研修会のファシリテーター研修の実践と評価	共著	2026年2月2日	第408回日本がん看護学会学術集会
小野寺 悠斗	1認知症と他疾患を併せ持つ高齢者の看護 精神疾患と認知症を併せ持つ高齢者のケア	共著	2023年3月	臨床老年看護32(3)
小野寺 悠斗	2精神保健看護領域における高度実践看護および専門性の高い看護職の活動状況と課題に関する調査(1)医療機関所属の精神看護専門看護職の活動状況	共著	2023年3月31日・6月1日	日本精神保健看護学会第35回学術集会・総会(金沢大学)
小野寺 悠斗	3精神保健看護領域における高度実践看護および専門性の高い看護職の活動状況と課題に関する調査(2)精神科認定看護職の活動状況の特徴	共著	2023年3月31日(土)・6月1日(日)	日本精神保健看護学会第35回学術集会・総会(金沢大学)
岡山 友洋	1 COVID-19拡大に伴う1型糖尿病患者の心身への影響に関する研究～マイクロブログによる計量テキスト分析を用いて～	共著	2023年10月	日本アディクション看護学会誌
岡山 友洋	2 Evaluating a Group CBT Program Intervention for New Nurses Affected by COVID-19	共著	in press (2026年5月)	Journal of Japanese Society Occupational Medicine and Traumatology
塚原 ゆかり	1 コロナ禍後の都市在住高齢者が 地域活動を継続する上での考え<第1集>【査読有】	—	令和2年9月	第28回日本エンドオブライフ学会学術集会 岐阜
塚原 ゆかり	2 コロナ禍後の都市在住高齢者が地域活動を継続する上での考え<第2集>【査読有】	—	令和2年9月	第28回日本エンドオブライフ学会学術集会 岐阜
松本 雄希	感染型による偏見・差別をなくすヘルスリテラシー向上のための基礎研究ーCOVID-19罹患者からの考察	共著	2023年12月	第45回日本看護科学学会学術集会
松本 雄希	1A Role-Play Exercise Comparing Four Nursing Care Delivery System in Undergraduate Education:Development and Pilot Implementation	共著	2026年2月	59th EAPRN 2026
日下 純子	1 Family planning decision-making process among Japanese women with mental disorders	共著	令和8年2月	Family and Consumer Sciences Research Journal
日下 純子	2『産後の親劣感尺度Ver.2』におけるカットオフ値の検討：エジンバラ産後うつ病質問票との関連からみた一次スクリーニングツールとしての妥当性	共著	令和8年2月	日本産科看護学会誌
日下 純子	3 精神疾患のある人の性的エンパワメントに関連する要因 (学会ポスター発表・査読あり)	共著	令和2年9月	第28回日本地域看護学会学術集会
日下 純子	4 別添型産後ケアを行う助産師のケアの質に関する実態調査 (学会口頭発表・査読あり)	共著	令和7年10月	第66回日本助産士学会学術集会
斎藤 悠子	1『原著論文』斎藤悠子、川本利恵子：臓器機能を回復する臓器移植と全身機能を再構築する造血性幹細胞移植における看護職の困難に関する文献レビュー、インターナショナル Nursing care research, 24(2)：53-62、2023 (査読付)	共著	1905年7月	インターナショナルNursing care research
斎藤 悠子	2『論文』斎藤悠子、岡山典子：造血幹細胞移植受療者および造血腫瘍患者の看護に携わる看護職の困難の経験：質的システマティックレビュープロトコル、日本健康医学会議、in press (査読付)	共著	in press	日本健康医学会議
三嶋 いずみ	1 がん患者支援団体「認定NPO法人あいおふらす」の活動と今後の課題ーあいおふらすの家『いっばいっばい』の取り組み	共著	2023年7月	第308回日本緩和医療学会学術集会
三嶋 いずみ	2 高齢がん患者への意思決定支援研修会のファシリテーター研修の実践と評価	共著	2026年2月	第408回日本がん看護学会学術集会
三嶋 いずみ	3 地域で生活する高齢がん患者の生活上の課題と支援の実態	共著	2026年2月	第408回日本がん看護学会学術集会
三嶋 いずみ	4 未来の看護につながる終末期ケアにおける看護	共著	2026年2月	Clinical Study

氏名	著書、学術論文等の名称	著者・共著者の氏名	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
村嶋 幸代	1A qualitative study of the developmental process of professional identity of nurses who stutter-Narratives of a nurse at career maturity: An analysis using the trajectory equifinality approach.	共著	2026年1月	Japan Journal of Nursing ScienceVolume 23, Issue 1
村嶋 幸代	2 自治体保健師の計画的・継続的な確保に関する研究（第1報）—退職保健師数と養成数の実態と課題	共著	2025年12月	第148回日本公衆衛生看護学会
村嶋 幸代	3 自治体保健師の計画的・継続的な確保に関する研究（第2報）—大分県におけるモデル事業の成果	共著	2025年12月	第148回日本公衆衛生看護学会
村嶋 幸代	4 自治体保健師の計画的・継続的な確保に関する研究（第3報）—神奈川県におけるモデル事業の成果	共著	2025年12月	第148回日本公衆衛生看護学会
村嶋 幸代	5 自治体保健師の計画的・継続的な確保に関する研究（第4報）—秋田県に関する実態と課題	共著	2025年12月	第148回日本公衆衛生看護学会
望月 千夏子	1Psychological Changes in the First Trimester of Pregnancy and Role in Couples for New Family Formation among Primiparous Women	共著	2025 4, 21	Health
望月 千夏子	2思春期のセクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライフに関する性教育：文献レビュー	共著	2025, 10, 30	第84回日本公衆衛生学会
山崎 圭子	1 「産後の疲労感軽減 Ver.2」におけるカット・オフ値の検討：エンパワメント強化うつ病・寛解期との関連をふまえた一次スクリーニングツールとしての妥当性（表説あり）	共著	2026年2月	日本母子看護学会誌18 (2) 24-32 DOI
飯上 昇	1 Relationship between Self-Evaluation and Objective Performance in OBC: An Integrated Analysis of Physical Therapy Students (OBCにおける自己評価と客観的成績の関係：理学療法学生を対象とした統合的分析)	共著	2026年1月22日 accepted	17th ACP Congress 2026 (スウェーデン、韓国) 開催日程：2026年4月11日～12日
大森 圭政	1 理学療法士のストレス対処能力と理学療法臨床能力の関連	共著	令和7年4月	理学療法教育 5 (1) : 2025
大森 圭政	2 経カテーテル大動脈留置術患者における長期入院の予測因子の検討	共著	令和7年4月	心臓リハビリテーション 31 (2) : 133-139, 2025
大森 圭政	3 視覚聴覚障害者術後の実症症状の悪化リスクに関する予期的検討—ステロイド処置投与が行われた2症例の経過による検討	共著	令和7年7月	日本ハンドセラピー学会誌17 (3) : 110-116, 2025
大森 圭政	4 視覚聴覚障害者術後患者の実症症状と痛みの経時的変化	共著	令和7年7月	日本ハンドセラピー学会誌17 (3) : 153-160, 2025
大森 圭政	5 建築的かつ安全な足関節動作へのアプローチ—態度パーキンソン病	共著	令和8年6月	PTジャーナル50 (8) : 699-703, 2025
大森 圭政	6 Predicting independent dressing after stroke using path and neural network analyses	共著	令和8年2月	Medicine 105(50):p e12677, February 20, 2026. DOI
森尾 郁志	1 理学療法士のストレス対処能力と理学療法臨床能力の関連（表説付）	共著	令和7年4月	理学療法教育 5 (1) : 7-14
森尾 郁志	2 Freeze-Through Packaging versus Bold and Slim Bottle-Type Containers: A Comparative Evaluation of Drug Packaging Usability in Patients with Rheumatic Diseases. (リウマチ患者におけるFTP・ボールド型・スリム型薬剤容器の使用性と選好の比較評価)（表説付）	共著	令和7年11月	Patient Preference and Adherence 19: 3743-3753
森尾 郁志	3 高齢消化器がん患者における術後の分断歩行距離を維持するための術中高強度身体活動のカットオフ値（表説付）	共著	令和8年2月	理学療法：技術と研究, 54巻: 33-40
森尾 郁志	4 理学療法の研究と未来：基盤型理学療法の研究と未来（表説付）	共著	令和8年2月	理学療法：技術と研究, 54巻: 1-4
森尾 郁志	5 理学療法士のストレス対処能力とバーンアウトの関連（表説付）	共著	令和8年3月	理学療法管理 4 (1): 6-12
山田 拓実	1 人工関節置換術後の歩行における膝関節の運動学的特徴—機械的解析—8886 要点別解析—	共著	2026年2月	56回日本人工関節学会 in 大阪
山田 拓実	2 人工関節置換術後の股関節動作における膝関節の運動学的特徴—機械的解析	共著	2026年2月	56回日本人工関節学会 in 大阪
山田 拓実	3 ランニング動作・スクワット（片脚・両脚）動作における下肢関節力の足動力学基盤モデル解析	共著	2026年12月	第12回日本スポーツ理学療法学会学術大会
櫻井 好美	1Evaluation of Effectiveness of Modified Pediatric Unconstraint-Induced Movement Therapy Performed on Children with Cerebral Palsy by a Home-Treatment Program	共著	1905年7月	American Journal of Medical and Clinical Sciences 2025 Vol. 10
櫻井 好美	2Effects of Constraint-Induced Movement Therapy on Patients with Post-cerebrovascular Disease Hemiplegia in the Maintenance Phase: Evaluation of Gait Improving Effects by Biomechanical Analysis	共著	1905年7月	British Journal of Healthcare and Medical, 12, pp 296-305
大村 隆恵	1. Changes in subjective fatigue and unilateral spatial neglect after outdoor walking: A practical report on a post-stroke case using immersive virtual reality assessment	共著	2025年9月	Journal of Rehabilitation Neuroscience 25(JPN)
大村 隆恵	2. くも膜下出血後の両眼性視野に対する眼球運動プログラムにより有害事象が発生し自トレーニングを工夫した一例	共著	2026年1月	理学療法—技術と研究—54 59-63
下田 栄次	1 The utility of a simple performance test aimed at preventing injuries and disabilities in middle-aged and older mountain climbers.	共著	2025年4月	Japanese Society of Mountain Medicine
下田 栄次	2 障害者スポーツ施設における実習が学生にもたらす学びと意識変容への効果—理学療法士養成校と障害者スポーツ施設との連携による意義と可能性—	共著	2026年2月	リハビリテーション療養科学 26 164-171
下田 栄次	3 災害時における避難所の環境課題	共著	2025年12月	医学書院、理学療法科学、日常生活活動学・生活療養学 第13号
下田 栄次	4 多職種連携と地域連携—災害時の役割・活動	共著	2025年10月	医学書院、リハビリテーション管理 第2巻
土田 将之	1.Association between smartphone usage and physical activity level among older people living in Japan.	共著	2025年3月	World Physiotherapy Congress 2025.
土田 将之	2.障害者スポーツ施設における実習が学生にもたらす学びと意識変容への効果—理学療法士養成校と障害者スポーツ施設との連携による意義と可能性—	共著	2025年11月	リハビリテーション療養科学 26 : 164-171 2025

氏名	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
松井 剛	1. リスク管理チェックリストを用いた高齢脳卒中患者への姿勢・動作安定化介入～セルフモニタリング向上を目指した行動変容アプローチ～	共著	令和8年3月	行動リハビリテーション Vol.14, 掲載決定 (訂正中)
松井 剛	2. 高度な認知機能障害を伴う高齢者における多変数記録の意義	共著	令和7年11月	神奈川理学療法士会・会報 理学療法・技術と研究, 54号 41～46頁
田邊 浩文	1. Relationship between Pushing Force and Improvement in Total Active Motion in Training with Finger Extensor Facilitation Training Device “iPARKO-2”	共著	2025年10月	Intelligent Rehabilitation and Engineering,
田邊 浩文	2. 神経障害性疼痛に対して閉塞系神経阻断治療により疼痛が緩和した症例に対する作業療法実践	共著	2025年11月	第59回日本作業療法学会抄録集
田邊 浩文	3. RaSI device: A Machine-Learning-Based Device for Automated and Quantitative Evaluation of the Modified Tardieu Scale, 2	共著	2025年12月	2025 Japan-Poland International Workshop on Technologies supporting rehabilitation and medical services
田邊 浩文	4. Verification of the effectiveness of home-based C-INT using a spasticity reduction device for chronic hemiplegic stroke patients	共著	2025年12月	2025 Japan-Poland International Workshop on Technologies supporting rehabilitation and medical services
田邊 浩文	5. 脳卒中片麻痺者の歩行トレーニングを支援する双腕型ハングロボットの開発- 看護学上のモデル化及びブレーキ制御に関する考察	共著	2025年12月	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会「25講演論文集232」
池田 晋平	1. 都道府県における互助機能評価尺度の開発：互助を促す支援者が評価する互助機能（査読付）	共著（副著）	2025年4月	厚生労働（72巻4号、1-8頁）
池田 晋平	2. 高齢男性を地域活動へ促すための工夫と課題ー東京都大田区の日常生活圏域において地域活動を推進する人々を対象とした質的調査ー（査読付）	共著（主著）	2025年4月	作業療法（44巻2号、163-175頁）
池田 晋平	3. The Impact of Living Arrangements on Depressive Symptoms by Gender Among Community-Dwelling Older Adults in Japan (査読付)	共著（主著）	2025年5月	Journal of Ageing and Longevity (5巻2号、17頁)
池田 晋平	4. Factors Associated With Self-Rated Health Among Older Adults in Japan: A Decision Tree Analysis (査読付)	共著（副著）	2025年5月	Careus (17巻5号)
池田 晋平	5. 東京都A市における中学生を対象とした学習支援プログラムの評価と課題（査読付）	共著（主著）	2025年6月	東京作業療法（第13・14巻合併号、32-39頁）
池田 晋平	6. Preliminary Estimates of Minimal Important Change and Responsiveness of the Canadian Occupational Performance Measure in a Home-Based Rehabilitation Context (査読付)	共著（副著）	2025年8月	Asian Journal of Occupational Therapy (25巻1号)
池田 晋平	7. 在宅認知症高齢者を対象とした通所施設における認知症リハビリテーションの有効性：システムティックレビューとメタアナリシス（査読付）	共著（副著）	2025年9月	日本在宅ケア学会誌 (29巻1号、49-58頁)
池田 晋平	8. Disentangling the Multidimensional Structure of Self-Rated Health: The Predominant Role of Physical Capability in Older Japanese Adults (査読付)	共著（副著）	2025年11月	Careus (17巻11号)
池田 晋平	9. Mental and physical factors influencing self-rated health in Japanese older adults (査読付)	共著（副著）	2026年1月	BMJ Geriatrics (Published Online)
鈴木 雄介	1. FIM認知項目が良好な一居戸への家庭評価を通して得た知見	共著	2025年6月	第62回日本リハビリテーション医学会学術集会プログラム・抄録集, pp. S269
鈴木 雄介	2. 当院回復期リハビリテーション病棟における家庭評価の実施状況	共著	2025年11月	第59回日本作業療法学会、第59回日本作業療法学会プログラム、PA-2-65
鈴木 雄介	3. 特定非営利活動法人高次脳機能障害者の会ナナ会雑誌「FRIENDSHIPナナ」から読み解く友の会の歩みと高次脳機能障害者支援の変遷	共著	2025年11月	第49回日本高次脳機能障害学術総会、第49回日本高次脳機能障害学術総会プログラム・講演抄録
杉村 直哉	1. 産業保健と作業療法	単著（監修著者）	2025年7月	作業療法ジャーナル 59(8):938-943, 2025
杉村 直哉	2. 教育セミナーⅧ メンタルヘルスと産業保健における作業療法		2025年11月	第59回日本作業療法学会日本作業療法学会抄録集 59: 63-63, 2025
杉村 直哉	3. 精神科デイケアにおける就労後フォローアッププログラムの効果		2025年11月	第59回日本作業療法学会
杉村 直哉	4. 資料「ストレスチェック精度改正に向けた作業療法上の活用に関する提言」	共著（作成主任）	2025年11月	「リハビリテーションを考える議員連盟」第128回総会
増田 雄亮	1. Characteristics of Occupational Therapists and Their Clinical, Educational, and Research Experiences Related to Evidence-Based Practice Self-Assessment (査読付)	共著	2025年7月	Asian Journal of Occupational Therapy 21: pp. 49-57
増田 雄亮	2. 盲ろう児者に対する日常生活用具の支給及び活用実態の調査	共著	2025年9月	厚生労働省 厚生労働科学特別研究報告書 pp. 27-37
増田 雄亮	3. A Nationwide Survey on the Provision of Assistive Technology for Persons with Deafblindness: Focusing on Challenges Faced by Local Governments (査読付)	共同	2025年10月	East Asia Disability Studies Forum
増田 雄亮	4. 急性期リハビリテーションに従事する作業療法士上のコンピテンシーに関する予備的調査（査読付）	共同	2025年11月	第59回日本作業療法学会（高松）
松尾 航太	1. 藤下利緒、利永竜一郎、徳永麻子、松尾航太 摂食障害症状評価尺度を利用した医療系女子大学生におけるメンタルヘルスの調査	共著（共同著者）	2025.10	広島県市学園大学雑誌：健康科学と人間形成 11(1): 34-48.

氏名	著書、学術論文等の名称	著者・共著者の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
松尾 剛典	2 Matsuo, R.*, Yamamura, K., Ichihakase, T. and Higuchi, T. Effects of Sleep on Brain Activity and Concentration Performance	共著 (筆頭、 責任 著者)	1995年7月	Advances in Applied Sociology 13: 1065-1074. doi:10.4236
松尾 剛典	3 Matsuo, R.*, Kadohata, K. and Higuchi, T. Differences in the Effects of Natural and Environmental Sounds on Cognitive Functions	共著 (筆頭、 責任 著者)	1995年7月	Open Journal of Social Sciences 13: 306-311. doi: 10.4236
松尾 剛典	4 Matsuo, R.*, Kishimura, K. and Higuchi, T. Effects of acute exercise on concentration performances	共著 (筆頭、 責任 著者)	1995年7月	Journal of Biosciences and Medicines 14 (2): 356-361. doi: 10.4236/
松本 卓也	1 Modulation of ventral premotor and primary motor cortex interactions for accurate visuomotor force control (視覚運動力制御課題における前頭運動皮野と一次運動野の相互作用) (査読あり)	共著	令和7年3月	「Gates」186巻31-40頁
松本 卓也	2 高校生を対象とした作業療法の実効性に関するアンケート調査	共著	令和7年3月	「作業療法教育研究」(印刷中)
船岡 正彦	1 Effects of ramnabidol on the viability and neuronal differentiation of human iPSC cells.	共著	12月、2025年	Toxicology letters 416-111812-111812
船岡 正彦	2 The synthetic opioid isotonitazene induces locomotor activity and reward effects through modulation of the central dopaminergic system in mice.	共著	7月、2025年	Toxicology and applied pharmacology 589 (117361-117361)
石川 吉伸	1, Isolation of Antiplasmodial Quazoles and Isoflavonoids from the Roots of <i>Oxytropis trichophylla</i> and Total Synthesis of Quazole-type Alkaloids (<i>Oxytropis trichophylla</i> 根からの抗マラリア活性オキサゾール類およびイソフラボノイド類の単離と、オキサゾール型アルカロイドの全合成)	共著	2025年2月	Journal of Natural Products, 88, 2, 449-452, 2025
石川 吉伸	2, Isolation of sesquiterpenoids and trypanocidal constituents from <i>Artemisia adamsii</i> (<i>Artemisia adamsii</i> からのセスキテルペノイド類および抗トリパノソーム活性成分の単離)	共著	2025年3月	ACS Omega, 10, 19, 19065-19074, 2025
石川 吉伸	3, Investigation of the Effect of C-Terminal Adjacent Phenylalanine Residues on Asparagine Amidation by Quantum Chemical Calculations (C末端隣接フェニルアラニン残基がアスパラギンアミド化に及ぼす影響の量子化学計算による検討)	共著	2025年7月	International Journal of Molecular Sciences, 26(14), 4819, 2025
石田 洋一	1 Use of Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma Cell Lines in a Novel Proteomic Approach for Clarifying the Function of Human Proteins of Unknown Function (資料1)	共著	2025年11月	Lymphatics誌
石橋 芳雄	1. <i>Trichosporon asahii</i> はコロニー形態変化により病原因子を感化させるのか (査読付)	共著	2025年 3月	アレルギー・リウマチ性疾患 45(5)
石橋 芳雄	2. Fungus-host interactions based on protein interaction experiments: <i>Trichosporon asahii</i> -host interaction. (査読付)	共著 (総論)	2026年 1月	Medical Mycology Journal 67, 33-39
市川 晋也	1. Storage stability of hospital-prepared minocycline suppositories: evaluation of residual active ingredient content and bacteriological contamination under different storage conditions.	共著	2020年 3月	J Pharm Health Care Sci
市川 晋也	2. Fungus-host interactions based on protein interaction experiments: <i>Trichosporon asahii</i> -host interaction	共著	2026年 1月	Medical Mycology Journal
市川 晋也	1. <i>Trichosporon asahii</i> はコロニー形態変化により 病原因子を感化させるのか (査読付)	共著	2025年 3月	アレルギー・リウマチ性疾患
伊賀谷 肇	1 Investigation on the effects of the route of administration on nicotine-induced hiccups using FDA adverse events reporting system	共著	1995年7月	Chem-Bio Informatics Journal, Vol.29 , PP. 8 & 9 & 9
伊賀谷 肇	2 Principal component analysis of antiepileptic medication-induced hostility/aggression and factor analysis of levetiracetam using the food and drug administration adverse event reporting system (査読付)	共著	2025年12月	Epilepsy Research, Vol.218, December 2025, Article No. 107626, DOI:
片川 和明	1 Synthesis and Anticancer Activity of Bis(2-picolyl)amine Derivatives with a Biaryl Moiety as a Photosensitizer	共著	令和7年3月	Chemistry 2025, 7, 41
片川 和明	2 Molecular Interactions between piperine and peroxisome proliferator-activated receptor-gamma ligand-binding domain revealed using co-crystallization studies	共著	令和7年5月	Acta Cryst. (2025). P81, 201-206
加藤 英明	1 Hideaki Kato, Yoshimi Ichimura, Masaki Kurihara, Kouhiron Sugawa, Masahiko Funada, Tsutomu Suzuki: Possible Involvement of Hallucinogenic Effects in the Acute Effects Induced by Kappa-Opioid and 5-HT2A/2C Receptor Agonists in Mice.	共著	2025年12月	Neuropsychopharmacology Reports 45 e79075
加藤 英明	2 Ryuichiro Hosoya, Kento Kitajima, Kouhiron Sugawa, Daigo Ikegami, Tomoko Terajima, Hideaki Kato, Masahiko Funada, Hajime Kagawa, Yoshihiko Usama: Principal component analysis of antiepileptic medication-induced hostility/aggression and factor analysis of levetiracetam using the food and drug administration adverse event reporting system.	共著	2025年12月	Epilepsy Research 218 107626-107626
加藤 英明	3 Kouhiron Sugawa, Koichi Kato, Rakuto Sano, Tomoki Nakayoshi, Hiroki Yoshida, Hideaki Kato, Akifumi Oda, Masahiko Funada, Tsutomu Suzuki, Masaki Kurihara, Yoshimi Ichimura: Indirubin derivatives bearing an oxirane moiety are promising chemosensitizers for combination treatment in pancreatic cancer.	共著	2025年10月	Medicinal Chemistry Research 35, 103-117
加藤 英明	4 Yoshimi Ichimura, Koichi Kato, Kouhiron Sugawa, Daichi Igawa, Hideaki Kato, Masaki Kurihara, Renshon Jin, Masahiko Kurihara, Hirokazu Kuroki: Synthesis and Anticancer Activity of Bis(2-picolyl)amine Derivatives with a Biaryl Moiety as a Photosensitizer.	共著	2025年3月	Chemistry 7(2) 41-41
木村 聡一郎	1 Intranasal vaccination with probiotic <i>Escherichia coli</i> membrane vesicles displaying pneumococcal capsular polysaccharides elicits mucosal immunity	共著	1995年7月	npj Vaccines
木村 聡一郎	2 薬学生における薬生科学実習の技能習熟度と座学科目への興味に対する実習の効果	共著	1995年7月	薬学教育
黒部 正明	1 Synthesis and anticancer activity of bis(2-picolyl)amine derivatives with a biaryl moiety as a photosensitizer (査読付) (光増感剤としてのビアリール部族を有するビス (2-ピコリル) アミン誘導体の合成と抗がん活性)	共著	令和7年3月	Chemistry, (2025) 7(2), p. 41.
黒部 正明	2 Bis[5-(anthracen-9-ylmeth-yl)-1,3,9-tri-oxa-cyclododecan-1-ium] tetra-chloride-zincate (査読付) (表題化合物の結晶構造)	共著	令和7年5月	ICrData, (2025) 10(5), p. x250336.

氏名	著書、学術論文等の名称	著者・共著者の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
栗原 正明	3 定量的構造活性相関(QSAR)によるTRK酪氨酸キナーゼおよびBTK酪氨酸キナーゼのカンナビノイド受容体(OR1)親和性インシリコ予測「査読付」	共著	令和7年9月	医薬品医療機器イノベーション・サイエンス、(2025) : 36(3), p. 488.
栗原 正明	4 Indirubin derivatives bearing an oxirane moiety are promising chemosensitizers for combination treatment in pancreatic cancer「査読付」(オキシラン基を有するインディルビン誘導体は、膵臓癌における併用療法のための有望な化学増感剤である)	共著	令和7年11月	Medicinal Chemistry Research, (2025) : 35, p. 165.
栗原 正明	5 Possible involvement of hallucinogenic effects in the aversive effects induced by kappa-opioid and 5-HT2A/2C receptor agonists in mice「査読付」(カッパオピオイド受容体および5-HT2A/2C受容体アゴニストがマウスに誘発する嫌悪作用における幻覚作用の関与の可能性)	共著	令和7年11月	Neuropharmacology Reports, (2025) : 45(4), p. e70075.
岡分 秀也	1 A Multicenter Retrospective Observational Study on Drug-Drug Interactions between Opioid Analgesics and Immune Checkpoint Inhibitors in Cancer Patients	共著	2025年10月	Biological and Pharmaceutical Bulletin
岡分 秀也	2 Conversion ratio from injectable hydromorphone to oral administration in Japanese patients with cancer pain	共著	2025年9月	Japanese Journal of Pharmaceutical Palliative Care and Sciences
岡分 秀也	3 Physical Compatibility of Four Opioid Analgesics with 84 Intravenous Drugs Commonly Used in Palliative Care During Simulated T-Site Administration	共著	2025年5月	Journal of Palliative Medicine
岡分 秀也	4 A Novel Method for Determining Serum Levels of Tramadol and Its Active Metabolite Using High-Performance Liquid Chromatography Coupled With Electrochemical Detection	共著	2026年3月	Japanese Journal of Pharmaceutical Palliative Care and Sciences
佐藤 淳也	論文① Activated carbon adsorption sheets suppress volatilization of anticancer drugs excreted in urine, preventing environmental contamination and human exposure	共著	2026年1月	Journal of Oncology Pharmacy Practice
佐藤 淳也	論文② Timing of bone-modifying agents after bone metastasis diagnosis and time to first skeletal-related event: a systematic review and study-level correlation analysis	共著	2025年12月	J Oncol Pharm Pract
佐藤 淳也	論文③ 薬剤師、看護師を対象とした医療用麻薬注射剤の調製方法に関する実地調査	共著	2025年9月	日本緩和医療薬学雑誌
佐藤 淳也	論文④ 医療用麻薬注射剤の全量採取調製により過剰投与が疑われた1例	共著	2025年3月	日本緩和医療薬学雑誌
佐藤 淳也	論文⑤ Storage stability of hospital-prepared mianserin suppositories: evaluation of residual active ingredient content and bacteriological contamination under different storage conditions	共著	2026年2月	Journal of Pharmaceutical Biotech Care and Sciences
佐藤 淳也	論文⑥ Reducing the incidence of Clostridioides difficile infection through educational and antimicrobial stewardship interventions	共著	2026年2月	Journal of Infection Prevention
塩田 清二	1 Effects of Essential Oil Inhalation on the Enhancement of Plasma and Liver Lipid Metabolism in Mice.	共著	2025年6月	International Journal of Molecular Sciences
塩田 清二	2 Natural product supplementation and high-performance in athletes: The potential of the dipeptide "valenine".	共著	2025年7月	International Journal of Physical Education, Sports and Health
塩田 清二	3 神経ペプチドP9CAPによる収縮促進とドライアイの予防・改善について	共著	2025年4月	アレルギーとリウマチ性疾患
今島 朝子	1 Principal component analysis of antipsychotic medication-induced hostility/aggression and factor analysis of levamisole using the food and drug administration adverse event reporting system「査読付」	共著	2025年12月	Epilepsy Research, Vol.218, December 2025, Article No.107626, DOI:
古閑 博行	1 Automatic Analysis of Lung Sounds in 3-Year-Old Children.	共著	2025年4月	Pediatric Pulmonol. Wiley.
古閑 博行	2 Evaluation of the effect of inhaled β_2 agonist on lung sounds of children with acute bronchiolitis.	共著	2025年4月	Pediatric Int. Wiley.
古閑 博行	3 Benefits and risks of simultaneous versus staged laparoscopic resection for colorectal cancer with synchronous liver metastases.	共著	2025年11月	Surg Today. Springer Nature
高本 哲郎	1 Exploring work engagement and its associated factors among supervising pharmacists in Japan Yukari Ito, Hiroko Suzuki, Tetsuro Yunoto, Sachiko Ohta, Tomoo Hosoe	共著	2026年3月	Exploratory Research in Clinical and Social Pharmacy 21
高本 哲郎	2 Effects of second generation antihistamines on daily driving with and without obstacles measured in a driving simulator Akhito Nagahama, Atsunobu Sagara, Hayato Aki, Hiroki Yoshimura, Makoto Hiraiwa, Takatomo Ohnishi, Motobiko Sano, Tetsuro Yunoto, Tomoo Hosoe, Kenji Tanaka	共著	2025年12月	Discover Applied Sciences
高本 哲郎	3 Support System for Creating Medical Incident and Accident Reports Utilizing Two Types of Medical Accident Databases Kotchi Bando, Kenjiro Inaba, Sachiko Honda, Tetsuro Yunoto, Atsunobu Sagara, Kenji Tanaka 2025 IEEE 30th Pacific	共著	2025年11月	Rin International Symposium on Dependable Computing (SPDC) 123-129
高本 哲郎	4 Construction and Implementation of a Program Designed to Support Self-Others Understanding Emphasizing Perspectives on Life and Death for Pharmacy Students Yukari Ito, Atsunobu Sagara, Tetsuro Yunoto, Takuya Azechi, Kazuhiro Torigoe, Shunsuke Shirota	共著	2025年4月	Journal of Pharmaceutical Communication Vol.23 No.1
市丸 恭	1 Synthesis and anticancer activity of bis(2-picolyl)amine derivatives with a biaryl moiety as a photosensitizer「査読付」(光増感剤としてのビザール部位を有するビス(2-ピコリル)アミン誘導体の合成と抗がん活性)	共著	令和7年3月	Chemistry, (2025) : 7(2), p. 42.
市丸 恭	2 Bis[3-(anthracen-9-ylmeth-yl)-1,5,9-tri-oxacyclodecan-1-ylm] tetra-chlorobis(vinylate)「査読付」(表題化合物の結晶構造)	共著	令和7年5月	ICrData, (2025) : 10(5), p. e250356.
市丸 恭	3 Isolation of sesquiterpenoids and trypanocidal constituents from Artemisia adamsii「査読付」(表題植物からのセスキテルペノイド及びトリパノシド成分の単離)	共著	令和7年5月	ACS Omega, (2025) : 10(150), p. 19065.
市丸 恭	4 定量的構造活性相関(QSAR)によるTRK酪氨酸キナーゼおよびBTK酪氨酸キナーゼのカンナビノイド受容体(OR1)親和性インシリコ予測「査読付」	共著	令和7年9月	医薬品医療機器イノベーション・サイエンス、(2025) : 36(3), p. 488.

氏名	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
市丸 嘉	5. Indirubin derivatives bearing an oxirane moiety are promising chemosensitizers for combination treatment in pancreatic cancer (査読付) (オキシラン基を有するインディルビン誘導体は、膵臓癌における併用療法のための有望な化学増感剤である)	共著	令和7年11月	Medicinal Chemistry Research, (2025); 35, p. 105.
市丸 嘉	6. Efficient synthesis of 8-membered fused indoles via intramolecular Friedel-Crafts reaction of N-(2,2-dimethoxyethyl)sulfonamides (査読付) (N-(2,2-ジメトキシエチル)スルホンアミドの分子内フリーデル・クラフツ反応による8員環縮環型インドールの効率的合成)	共著	令和7年11月	Chemical and Pharmaceutical Bulletin, (2025); 73(11), p. 1042.
市丸 嘉	7. Possible involvement of hallucinogenic effects in the aversive effects induced by kappa-opioid and 5-HT2A/2C receptor agonists in mice (査読付) (カッパオピオイド受容体および5-HT2A/2C受容体アゴニストがマウスに誘発する嫌悪作用における幻覚作用の関与の可能性)	共著	令和7年11月	Neuropsychopharmacology Reports, (2025); 45(4), p. e70075.
加藤 統一	1816[5-(anthracen-9-ylmethyl)-1,5,9-tri-oxa-cyclododecan-1-yl] tetra-chloride-zincate,	共著	令和7年5月	IUCrData, 10巻, e250356
加藤 統一	2.Molecular Dynamics Simulations of Monomeric and Tetrameric Amyloid β 1-42 Peptides with D-Aspartic Acid Residues.	共著	令和7年6月	Chembiochem, 26巻, e202500171
加藤 統一	3. Investigation of the Effect of C-Terminal Adjacent Phenylalanine Residues on Asparagine Deamidation by Quantum Chemical Calculations	共著	令和7年7月	International Journal of Molecular Sciences, 26巻, 6819-6819
加藤 統一	4.Efficient Synthesis of 8-Membered Fused Indoles via Intramolecular Friedel-Crafts Reaction of N-(2,2-Dimethoxyethyl)sulfonamides	共著	令和7年11月	Chemical & Pharmaceutical Bulletin, 73巻,
加藤 統一	5.Computational Estimation of the Residues Involved in the Emergence of Drug Resistance to the SARS-CoV-2 Main Protease Inhibitor Nirmatrelvir using a Virtual Alanine Scan	共著	令和7年11月	Chem-Bio Informatics Journal, 25巻, 90-106
加藤 統一	6.Indirubin derivatives bearing an oxirane moiety are promising chemosensitizers for combination treatment in pancreatic cancer	共著	令和7年11月	Medicinal Chemistry Research, 35, 105-117
加藤 統一	7.Virtual alanine scan for an entire sequence of SARS-CoV-2 main protease complexed with nirmatrelvir to detect drug resistance	共著	令和8年2月	Bulletin of the Chemical Society of Japan, 99, ucag005
加藤 統一	8. Computational analysis of structural features in tetrameric amyloid β (1-42) peptides containing D-Asp1, 7, and 23 residues	共著	令和8年2月	Chemistry Letters, 55, ugag015
加藤 統一	9. Effect of Cytochrome P450 3A4 Genetic Polymorphisms on Bone Recognition by Using Molecular Dynamics Simulations	共著	令和8年3月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 49(3),
島根 一宏	1) Effect of anamorelin treatment duration on survival of patients with cancer cachexia: A retrospective study. (がん悪液質患者におけるアナモレリンの処方期間が生存期間に及ぼす影響)	共著	2025年8月	Molecular and clinical oncology 23(1) 62-63 2025年6月
細谷 龍一郎	1. Investigation on the effects of the route of administration on nicotine-induced hiccups using FDA adverse events reporting system (FDA有害事象報告システムを用いたニコチン誘発性しゃっくりに対する投与経路の影響の検討) (査読付)	共著	2025年4月	Chem-Bio Informatics, 25, 19-27, 2025, Vol.2
細谷 龍一郎	2. Principal Component Analysis of Antiepileptic Drugs-induced Hostility/Aggression and Factor Analysis of Levetiracetam Using the Food and Drug Administration Adverse Event Reporting System (FDA有害事象報告システムを用いた抗てんかん薬による敵意・攻撃性の主成分分析およびレベチラセタムの因子分析) (査読付)	共著	2025年7月	Epilepsy Research, 2025, 218, 107626
山崎 肇広	Lavender Essential Oil-Induced Enhancement of Exercise-Responsive Myokine Expression and Alteration of Muscle-Related Gene Networks in an In Vitro Muscle Contraction Model	共著	2026年2月	International Journal of Molecular Sciences 2026, 27(4), 1952
池上 大悟	1. Principal component analysis of antiepileptic medication-induced hostility/aggression and factor analysis of levetiracetam using the food and drug administration adverse event reporting system	共著	2025年 12月	Epilepsy Res. 2025;218:107626.
池上 大悟	2. Phospho-CHRF Regulation on NMDA Glutamate Receptor 2B and Mitochondrial Calcium Uniporter in the Ventrolateral Periaqueductal Gray Controls Chronic Morphine Withdrawal in Male Rats	共著	2025年 7月	J Neurosci. 2025;45(29):e1934242025.
浦 裕之	2. Evaluation of inhalation device prescribing trends: A retrospective database study in Japan. (吸入デバイスの処方動向の評価：日本における後ろ向きデータベース研究) (査読有)	共著	令和7年11月	Respiratory Investigation 63(6): 1164-1173
浦 裕之	3. Press-Through Packaging versus Bold and Slim Bottle-Type Containers: A Comparative Evaluation of Drug Packaging Usability in Patients with Rheumatic Diseases. (PTPシートとボールド型・スリム型ボトル容器の比較：リウマチ性疾患患者における薬剤包装のユーザビリティ評価) (査読有)	共著	令和7年11月	Patient Prefer Adherence 19: 3743-3753
浦 裕之	4. Assessment of Potential Exposure to Pregnancy-Contraindicated Medications Among Women of Reproductive Age in Japan: A Retrospective Database Study. (日本における妊娠可能年齢女性の妊娠禁忌医薬品への潜在的曝露の評価：後ろ向きデータベース研究) (査読有)	共著	令和8年3月	Pharmacy 14(2): 51
小田中 啓太	1. Evaluating generic skills through the PBOG test in Japanese pharmacy education: A pilot study	共著	2025年10月	Currents in Pharmacy Teaching and Learning, 25 Oct;17(10): 102414.
小田中 啓太	2. 薬学生における微生物学実習の技能習熟度と座学科目への興味に対する実習の効果	共著	2026年2月	薬学教育, 第10 巻 : e10001. doi: 10.24489/jiphe.e10001.
智川 甲子郎	1. Synthesis and Anticancer Activity of Bis(2-picolyl)amine Derivatives with a Biaryl Moiety as a Photosensitizer	共著	2025年3月	Chemistry 2025, 7(2), 41
智川 甲子郎	2. Principal component analysis of antiepileptic medication-induced hostility/aggression and factor analysis of levetiracetam using the food and drug administration adverse event reporting system.	共著	2025年7月	Epilepsy research 2025, 218
智川 甲子郎	3. Indirubin derivatives bearing an oxirane moiety are promising chemosensitizers for combination treatment in pancreatic cancer	共著	2025年11月	Medicinal chemistry research 2025, 35, 105-117

氏名	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
曾川 甲子郎	4. Possible Involvement of Hallucinogenic Effects in the Aversive Effects Induced by Naloxone and 5-HT _{2A} /2C Receptor Agonists in Mice	共著	2025年12月	Neuropsychopharmacology reports 2025, 45, 4
田中 静	4 Prevention of serious adverse drug reactions and economic effects through community pharmacists' inquiries, home care, and medication follow-up-From The Japanese Nationwide Pharmacy Collaboration Survey in 2023	共著	2025年5月	AIJGAKI ZASSHI 145(8) 767-772
田中 静	2.Splanchnic nerve neurectomy and methadone significantly decrease opioid consumption for severe back pain caused by abdominal para-aortic lymph node swelling: a case report	共著	2025年8月	PAIN RESEARCH 40(1) 88-92
田中 静	3.Methadone for intractable cancer pain associated with pelvic floor lesions: a retrospective analysis of 36 cases	共著	2025年10月	Supportive Care in Cancer 33(11) 928
田中 静	4 Storage Stability of Hospital-Prepared Mianserin Suppositories: Evaluation of Residual Active Ingredient Content and Bacteriological Contamination under Different Storage Conditions	共著	2026年2月	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 12(1) 31
田中 静	5 Safety and Efficacy of Concomitant Administration of Nanoliposomal Irinotecan + 5-Fluorouracil/Lexo-Leucovorin for Pancreatic Cancer	共著	2026年2月	Cancer reports 9(2) e70485
殿山 肇弘	1 Use of Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma Cell Lines in a Novel Proteomic Approach for Clarifying the Function of Human Proteins of Unknown Function	共著	2025年11月	Lymphatics 2025, 3(4), 38
中嶋 健	1 免許生の学修支援改革 ―取組事例・課題の共有と新たなアプローチに向けた提言―	共著	2025年10月	免許教育学会誌
青島 恵美子	1.「産後の疲労感尺度Ver.2」におけるカットオフ値の検討：エジンバラ産後うつ病質問票との関連からみた一次スクリーニングとしての妥当性（表説付）	共著	2025年3月	日本母子看護学会誌, 25(2), 27-34
青島 恵美子	2. 基礎助産学 助産学概論	共著	2025年7月	日本助産師会出版
青島 恵美子	3 「病産型産後ケアを行う助産師のケアの質評価 実態調査	共著	2025年10月	第66回日本母性衛生学会
澤井 美奈子	1 保健師教育課程と3.ポリシー	共著	2025年5月	保健師教育 第9巻第1号 (2025)
澤井 美奈子	3 Simulation-Based Online Education for Proactive Epidemiological Investigation: A Randomized Controlled Trial Among Public Health Nursing Students in Japan	共著	2025年2月	Public Health Nursing, 2026
大島 のぶえ	2 保健師国家試験問題の質向上に向けた取り組み	共著	2026年5月発行予定	保健師教育 第10巻

(3) その他の学術論文

氏名	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
川本 利恵子	1. 2025年度 厚生労働省委託事業：「特定行為研修の組織定着化支援事業推進に係るワークショップ等開催事業」実施報告書	共著	2025年4月	一般社団法人 日本看護協会認定看護師教育課程実行
川本 利恵子	2. 2025年度 厚生労働省委託事業：「特定行為研修の組織定着化支援事業推進に係るワークショップ等開催事業」第1回ワークショップ	共著	2025年9月	一般社団法人 日本看護協会認定看護師教育課程部署
川本 利恵子	3. 2025年度 厚生労働省委託事業：「特定行為研修の組織定着化支援事業推進に係るワークショップ等開催事業」シンポジウム	共著	2026年3月	一般社団法人 日本看護協会認定看護師教育課程部署
川本 利恵子	4. 日本私立看護系大学協会：2025年度事業活動報告書	共著	2026年6月1日発行	一般社団法人 日本私立看護系大学協議会発行
岡 多恵	未来の看護につながる終末期ケアにおける看護	共著	2026 Vol.47 No. 2 February	Clinical Study, 60-61 頁, 2025
山崎 主子	2 マイインドフルネスとファミリースキルトレーニングを用いた妊婦・出産・子育てプログラムの開発	共著	2025年7月	第24回日本母子看護学会学術集会
加藤 英明	1 行方戻理, 曾川甲子郎, 加藤英明: 【契機賞】エトミデート含有 VAPF「ゾンビタバコ」乱用の実態と健康・社会的影響の評価	共著	2026年3・4月	神奈川県薬物乱用対策協議会機関誌「薬毒」3・4号 13-14
加藤 英明	2 加藤英明, 曾川甲子郎, 細谷龍一郎, 清水真史, 浅野哲, 加賀谷卓, 鈴木睦: 医療用麻薬が関わる医療事故およびヒヤリ・ハット事例調査	共著	2025年11月	神奈川県公衆衛生学会誌 71: 49-51
加藤 英明	3 加藤英明: 指定薬物エトミデート（ゾンビタバコ）の解説「質高使用した男性の初公開/経過内容を認める/エトミデート所持は平気な気分」	共著	2025年10月	琉球朝日放送, CATON キャッチー (TV報道番組)
加藤 英明	3 清水真史, 加藤英明: 神奈川県薬物乱用防止教室実施状況と課題	共著	2025年11月	神奈川県公衆衛生学会誌 71: 67-69
加藤 英明	1 鈴木 勉, 加藤英明: 厚労科研報告書「指定薬物の指定に係る試験法の評価検証に資する研究」	共著	2025年3月	令和6年度 分担総研研究報告書 P7-21
加藤 英明	2 鈴木 勉, 加藤英明: 厚労科研報告書「指定薬物の指定に係る試験法の評価検証に資する研究」令和6年度 分担総研研究報告書 P86-94, 2025年3月	共著	2025年3月	令和6年度 分担総研研究報告書 P86-94
高本 哲郎	5 患者アドヒアランス向上のためのコミュニケーション +感情知能 (EQ) の理論と実践-総説	単著	2025年9月	薬局薬学 J-STAGE doi: 10.32160/yakkyoku.ra.2025-1000
細谷 龍一郎	1 医療用麻薬が関わる医療事故およびヒヤリ・ハット事例調査（表説付）	共著	2025年11月	神奈川県公衆衛生学会誌 71: 49-51 (2025)
池上 大信	3 臨床でオピオイド使用量が増加する場合の基礎的理解—オピオイドの依存と耐解	単著	2026年 3月	調剤と情報 2026.3 (Vol.32 No.3)

(4) 学会発表

氏名	著書、学術論文等の名称	著書・ 査読の有無	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称
川本 利恵子	1. COVID-19 の影響に係る新人看護婦のメンタルヘルスに関する2022年度支援プログラムの効果の検討	共著	2025年8月	日本アディクション看護学会第23回学術集会
牛田 真子	1.訪問看護の利用と認知症高齢者家族の介護者定感との関連（査読付）	—	2025年6月	日本ケアマネジメント学会第24回研究大会（千葉）
牛田 真子	2.ハイブリッド型授業でのアクティブ・ラーニング実証による学習動機づけへの影響（査読付）	—	2025年8月	第109回教育学会大会（東京）
牛田 真子	3.介護老人保健施設における転倒を繰り返す入所者へのケア—多職種協働による拘束しないケアの意思の転換—（査読付）	—	2025年9月	第50回（2025年度）日本看護学会学術集会（名古屋）
牛田 真子	4.2人で実施する水平移動・上方移動の介助方法の見直しと新方法の定着（査読付）	—	2025年10月	第44回長野県看護学会（松本）
片山 典子	1.【COVID-19の影響に係る新人看護婦のメンタルヘルスに関する2022年度支援プログラムの効果の検討】	共著	令和7年8月30日～8月31日	第23回日本アディクション看護学会学術集会・総会（新潟）
片山 典子	1.【トラウマインフォームドケアを学び・アディクション看護に活かす】	—	令和7年8月30日～8月31日	第23回日本アディクション看護学会学術集会・総会（新潟）
佐藤 正起	1. 大学の基礎教育における4つの看護提供方式のロールプレイ演習：開発とパイロットの実施[A Role-Play Exercise Comparing Four Nursing Care Delivery Systems in Undergraduate Education(Development and Pilot Implementation)]	共著	令和8年2月	29th EAPONS (East Asian Forum Of Nursing Scholars)
佐藤 正起	2. 看護大学生における入浴回避理由と入浴行動特性の関連	共著	令和8年6月	第91回日本温泉気候物理医学会・学術集会
渡邊 眞理	2. 地域で生活する高齢がん患者の生活上の課題と支援の実態	共著	2026年3月	令和2年度厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
渡邊 眞理	3. がん看護専門看護師に提供する文献の検討と活動の可視化に関する考察。	共著	2026年5月	第1回日本高度実践看護学会学術集会、示談
渡邊 眞理	4. 高齢がん患者への意思決定支援研修会のファシリテーター研修の実態と評価	共著	2026年2月	第40回日本がん看護学会学術集会、示談
渡邊 眞理	5. これからの専門職の減産設計	共著	2026年2月	第40回日本がん看護学会学術集会、教育講演用紙
渡部 節子	「診断後3か月以内の2型糖尿病患者の食行動における性別の特徴」（査読あり）	共著	2025年	第30回日本糖尿病教育・看護学会学術集会
渡部 節子	「外食リハビリテーションを受ける脳血管障害患者の口腔内環境の実態」（査読あり）	共著	2025年7月	第40回日本口腔感染症学会学術集会
渡部 節子	4.「市場で働く女性の肥満とヘルスリテラシーおよび体重認識との関係」（査読あり）	共著	2025年9月	第96回日本国際看護学会学術集会
渡部 節子	4.「スマートフォンを活用した肥満の女性商人向け減量プログラムの評価」：ランダム化比較試験プロトコル（査読あり）	共著	2025/9月	第96回日本国際看護学会学術集会
相澤 恵子	1. 夜勤交代制勤務の改善に向けた8職種における12時間夜勤導入プロジェクト	共著	2025年8月	日本看護管理学会第29回学術大会（札幌）
相澤 恵子	2. 看護婦の賃金水準における勤続効果に関する一考察	共著	2025年12月	第45回日本看護科学学会学術集会（新潟）
相澤 恵子	3.小児医療におけるこどもへの身体拘束：進化的概念分析	共著	2025年12月	第45回日本看護科学学会学術集会（新潟）
相澤 恵子	4.Expected Midwifery Care for ART-Conceived Twin Pregnancies: Exploratory Factor Structure and Practice Implications	共著	2026年2月	29th East Asian Forum of Nursing Scholars (University Cultural Centre)
相澤 恵子	5. A Role-Play Exercise Comparing Four Nursing Care Delivery Systems in Undergraduate Education: Development and Pilot Implementation	共著	2026年2月	29th East Asian Forum of Nursing Scholars (University Cultural Centre)
相澤 恵子	6. 都市における新卒看護職員数の経年変化に関する時系列分析	共著	2026年2月	日本ケアマネジメント学会第26回東京支部学術集会（2026年2月14日）
確井 曜衣	1. スマートフォンを活用した肥満女性商人向け減量プログラムの評価：ランダム化比較試験プロトコル	共著	2025年9月	日本国際看護学会
確井 曜衣	2. 市場で働く女性の肥満とヘルスリテラシーおよび体重認識との関係	共著	2025年9月	日本国際看護学会
確井 曜衣	3.A role-play exercise comparing four nursing care delivery systems in undergraduate education: development and pilot implementation	共著	2026年2月	29th EAPONS 2026
嶋中 ますみ	1寛分野の認定看護師の協働に関する成果についての検討	共同研究者	2025年8月	第29回日本看護管理学会学術集会
嶋中 ますみ	2寛分野の認定看護師の協働に関する困難についての検討	共同研究者	2025年8月	第29回日本看護管理学会学術集会
嶋中 ますみ	3多職種協働活動「りんりの学び場」の成果と課題—対話を中心とした1年間の取り組みから—	共同研究者	2026年3月	日本臨床看護学会第13回年次大会(臨床看護 大会プログラム)
岡 多恵	1.高齢がん患者の意思決定支援研修会のファシリテーター研修の実態と評価—アンケートの自由記載から—	共著	2026年2月	第40回日本がん看護学会
岡 多恵	2. 高齢がん患者への意思決定支援研修会のファシリテーター研修の実態と評価	共著	2026年2月	第40回日本がん看護学会
岡 多恵	3. 地域で生活する高齢がん患者の生活上の課題と支援の実態	共著	2026年2月	第40回日本がん看護学会
野口 京子	1. 外食リハビリテーションを受ける脳血管疾患患者の口腔内環境の実態	共著	2025年7月	第40回日本口腔感染症学会学術集会ポスター発表（横浜）
野口 京子	2. 外食リハビリテーションを受ける脳血管疾患患者の口腔内環境の実態	共著	in press	日本感染症看護学会誌 論文投稿(アタセト済み)
本間 誠彦	1. Families Using Day Care facilities for children with SMID (severe motor and intellectual disabilities) in Japan : A Literature Review	共著	2025年11月	Journal of Family Nursing 31(15)

氏名	著書、学術論文等の名称	著者・共著者の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
本間 誠洋	1. 身体的ケアが必要な重症心身障害児の就学時における父親の子育てプロセスモデルに関する研究	共著	2026年2月	公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 2024年度（前期）一般公募「在宅医療推進のための研究」
本間 誠洋	1. 就学支援 医療的ケア児と家族への支援を考える一写真として見る母親の経験—	協働企画（企画リーダー）	2026年7月（採択済）	日本小児看護学会第36回学術集会
山崎 圭子	3 脳直型産後ケアを行う 助産師のケアの質に関する実態調査（青説あり）	共著	2023年10月	第66回日本母性衛生学会学術集会
大森 圭真	1 Enhancing fine motor skills in older adults using real-time surface electromyography-based visual feedback.	共同発表	令和7年5月	51th Annual Convention, Association for Behavior Analysis International
大森 圭真	2 表面筋電図を用いたReal-time visual feedbackの精密化リハビリテーションへの実装	共同発表	令和7年8月	The 32nd Symposium on Fuzzy, Artificial Intelligence, Neural Networks and Computational Intelligence
大森 圭真	3 ファシリテーションの方法:セッションIV、代表的な80分講義	単独発表	令和7年10月	日本理学療法学会連合 理学療法標準化検討委員会 企画ハンズオンセミナー
大森 圭真	4 Adherence to Daily Practice for Behavioral Fluency of Fine Motor Skills in Older Adults	共同発表	令和7年11月	12th International Conference: Lisbon, Portugal: 2025
大森 圭真	5 Muscle Strength Assessment Using Sub-Maximal Effort as a Foundation for Safe Assistive Robotics	共同発表	令和8年2月	International Symposium on community-centric Systems and Robots 2026
大森 圭真	6 未来を拓くプレジジョン・リハビリテーションの実践	単独発表	令和8年2月	リハビリテーション連携科学学会第27回大会
櫻井 好美	1 Improving activity and social participation in frail older people with lower urinary dysfunction	筆頭	1905年7月	51st Annual Convention Program: The Association for Behavior Analysis International, Washington D.C., USA (2025)
中尾 結光	2 腰部脊柱狭窄症患者に対し、呼吸で腹部を回らせる介入を行った経験	共著	2026年2月	第42回神奈川県理学療法士学会抄録集
大村 優恵	1. 脳卒中後予断空間無視（遠視・近視）の手技に関連する連合痛域求: Lesion Quantification Toolkitを用いて	共著	2025年11月	第23回日本神経理学療法学会学術大会
大村 優恵	2. 脳卒中後予断空間に付するボクサリス出版と支援機器併用リハビリテーションの逸案: スコーピングレビュー	共著	2025年12月	第14回日本支援工理学療法学会学術大会
大村 優恵	3. 脳画像だからこその読めるもの、脳画像でも見えないもの ～事例を通して考える臨床推論のヒント～	単著	2026年2月	第42回神奈川県理学療法士学会
松井 剛	1「質質と言語レポーターが自主トレーニングに与える影響」	共同	令和7年11月	第44回関東甲信越ブロック理学療法士学会、プログラム・抄録集P146
松井 剛	2「高度な認知機能障害を伴う高齢者における多変数記録の意義」	共同	令和7年11月	第44回関東甲信越ブロック理学療法士学会、プログラム・抄録集P165
松井 剛	3「リスク管理チェックリストを用いた高齢脳卒中患者への姿勢・動作安定化介入ーセルフモニタリング向上を目指した行動変容アプローチー」	共同	令和7年11月	第44回関東甲信越ブロック理学療法士学会、プログラム・抄録集P122
松井 剛	4「経背と注目による行動変容の分析ー大動脈解離術後高齢女性に対する理学療法介入の一環としてー」	共同	令和7年11月	第44回関東甲信越ブロック理学療法士学会、プログラム・抄録集P145
松井 剛	5「起居・移動動作における行動変容自立度の推移と関連動作の可視化: 実用的評価指標の試み」	共同	令和7年11月	第44回関東甲信越ブロック理学療法士学会、プログラム・抄録集P185
松井 剛	6「重症左片麻痺患者に対する段階的機能調整と応用行動分析の手法を用いた立ち上がり・移乗動作への介入」	共同	令和7年11月	第44回関東甲信越ブロック理学療法士学会、プログラム・抄録集P68
松井 剛	7「臨床実習における理学療法士学生の行動課題に関する特性要因分析」	共同	令和8年1月	第13回日本理学療法教育学会学術大会、プログラム・抄録集P26
松井 剛	8「アキレス腱断裂後患者に対する自主トレーニング支援-行動分析的視点を取り入れた症例報告-」	共同	令和8年2月	第42回神奈川県理学療法士学会、プログラム・抄録集P97
松井 剛	9「慢性下肢痛患者における下肢筋力・SAR高度と神経症状・疼痛との関連-横断的検討-」	共同	令和8年2月	第42回神奈川県理学療法士学会、プログラム・抄録集P98
松井 剛	10「健康成人における性別から見た姿勢角の特性」	共同	令和8年2月	第42回神奈川県理学療法士学会、プログラム・抄録集P100
松井 剛	11「外実クリニックに勤務する若手理学療法士の困難と成長」	共同	令和8年3月	日本リハビリテーション連携科学学会27回大会、P93
松井 剛	12「臨床実習における実習指導者の負担および困難に関する文献レビュー」	単著	令和8年3月	日本リハビリテーション連携科学学会27回大会、P29
松尾 菊美	5 Shomi Matsuo, Takashi Higuchi Differences in Electroencephalography Power Levels between Poor and Good Performance in Attentional Tasks	共同（筆頭著者）	1905年7月	The 48th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (Nigata, Japan)

氏名	著書、学術論文等の名称	著者・ 共著者の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称
松尾 晴美	6 Hsueh Watson, Taiyo Ichihakase, Hikaru Suyama, Rima Takahara, Takashi Higuchi Effect of Coffee Aroma on Cerebral Activity during Concentration Tasks	共同 (筆頭 著者)	1985年7月	The 48th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (Niigata, Japan)
松尾 晴美	7 松尾晴美 脳波信号を用いた注意課題パフォーマンスの解説	単著	1985年7月	第34回日本神経生理学会 (大阪府摂津市)
松尾 晴美	8 松尾晴美, 阿部虎ノ雄, 石橋卓也, 江地あやの, 樋口隆志 色による視覚的注意機能の強化—脳波計測を用いて—	共同 (筆頭 著者)	1985年7月	第59回日本作業療法学会 (香川県高松市)
岡本 聡史郎	2 NPO法人高次脳機能障害友の会ナ ナ会保証「FRIENDSHIPナナ」から読み解く友の会の歩みと高次脳機能障害者支援の未来。	共著	2025年11月	高次脳機能学会(日本高次脳 機能学会誌)
石田 洋一	1 ハイブリッド型授業でのアクティブ・ラーニング実施による学習動機づけへの影響(資料6)	共著	2025年4月	第10回日本薬学教育学会 大会
石田 洋一	1 ハイブリッド型授業でのアクティブ・ラーニング実施による学習動機づけへの影響	共著	2026年3月	第10回日本薬学教育学会 大会
片川 和明	3 ビベリン/MPFAR-120複合体のX線結晶構造解析による結合様式の解明	共著	令和7年9月	日本生薬学会第71年会
加藤 英明	1 鈴木 勉, 加藤英明: 幻覚覚醒物質のマウスを用いた真偽試験法の確立	共著	2026年2月	厚生科研(鈴木勉) 総合 議(神谷川, 横山)
加藤 英明	2 清水 典史, 加藤 英明: 学校における薬物乱用防止教育の実施状況と課題	共著	2026年3月	日本薬学会146年会(神谷 川, 横山)
加藤 英明	3 行方純理, 曾川甲子郎, 加藤英明: 並行事例に基づくエトミデート含有 XMR「ブシダバコ」の 国際的動向と課題	共著	2026年3月	日本薬学会146年会(大 阪, 大阪)
加藤 英明	4 加藤英明, 曾川甲子郎, 藤谷龍一郎, 清水典史, 浅野 哲, 鈴木 勉: フェンタニルから考えるオピ オイド危機と医療安全—国内外の課題と対策	共著	2026年3月	日本薬学会146年会(大 阪, 大阪)
加藤 英明	5 曾川甲子郎, 藤谷龍一郎, 池上大祐, 加藤英明, 飯田正彦, カンナビジオール4の医療応用と副作用 性評価	共著	2026年3月	日本薬学会146年会(大 阪, 大阪)
加藤 英明	6 加藤英明, 曾川甲子郎: オピオイドライセンス: フェンタニルに関する公衆衛生学的研究	共著	2026年2月	医療教育研究会(熊本医 科大学) (神谷川, 横 山)
加藤 英明	7 加藤英明, 鈴木 勉: 全国における飲酒状況と肝機能の年代推移に関するオープンデータ解析	共著	2026年2月	アルコールと医学生薬学 (筑城, 松竹)
加藤 英明	8 行方純理, 曾川甲子郎, 加藤英明: エトミデート含有 XMR「ブシダバコ」服用の実態と健康・ 社会的影響の評価	共著	2025年11月	神谷川徳義州師範会学 フォーラムin徳義州大 学(神谷川, 横山)
加藤 英明	9 加藤英明, 曾川甲子郎, 鈴木勉: オピオイド製剤が関わる医療事故およびヒヤリ・ハット事例調 査	共著	2025年11月	神谷川徳義州師範会学 フォーラムin徳義州大 学(神谷川, 横山)
加藤 英明	10 鈴木典史, 加藤英明: 神谷川郡の薬物乱用防止教育実施状況と課題	共著	2025年11月	第71回 神谷川徳義州大 学(神谷川, 横山)
加藤 英明	11 加藤英明, 曾川甲子郎, 藤谷龍一郎, 清水典史, 浅野哲, 加藤英明, 鈴木 勉: 医療用麻薬が関 わる医療事故およびヒヤリ・ハット事例調査	共著	2025年11月	第71回 神谷川徳義州大 学(神谷川, 横山)
寺島 頼子	1 FARSを用いたオピオイドおよびナロキシターゼ阻害薬の薬物間相互作用に関する探索的分析	共著	2025年6月	第18回 日本緩和医療学 会(千葉)
寺島 頼子	2 017年度認知症高齢者における消費者意識 〜薬剤師への求めに関する質的研究〜	共著	2025年8月	第11回日本薬学教育学 会(東京)
寺島 頼子	3 Enhancing Pharmacists' Role in Sexual and Reproductive Health: A Canada-Japan Comparison and Educational Initiative 性的・生殖に関する健康における薬剤師の役割強化: 日本とカナダの比較および教育的取り組み	共著	2025年9月	The 30rd FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences 2025
寺島 頼子	4 ニコチン誘発性吃逆に関する研究: FARSを用いた投与経路別解析	共著	2025年11月	第35回日本薬理学会年 会
寺島 頼子	5 オピオイド納管薬の服用におけるセロトニン経路薬のリスク	共著	2026年3月	日本薬学会146年会(大 阪)
寺島 頼子	6 受容体データベースを用いた受容体感受性予測モデルの構築、および副作用データベースとの関 連に関する検討	共著	2026年3月	日本薬学会146年会(大 阪)
寺島 頼子	7 緊急避難薬の使用に関連する性と生殖に関する教育に求められること 〜小学校高学年から高校生を対象とする教師の意識調査〜	共著	2026年3月	日本薬学会146年会(大 阪)
寺島 頼子	8 3Dデータと機械学習を用いた入院患者の転倒転落リスク予測モデルの構築と検証	共著	2026年3月	日本薬学会146年会(大 阪)
品本 哲郎	6 3Dで考える学生支援—多様な学生の成長を引き出す感情ベースの画アプローチ	単著	2025年8月	日本薬学教育学会 講演要 旨集(シンポジスト)
藤谷 龍一郎	4 ニコチン誘発性しゃっくりに関する研究: FARSを用いた投与経路別解析	共著	2025年11月	第35回日本薬理学会年 会(神戸国際展示場)
藤 彰之	1 体の水分を測定する一歩大きな課題にのぞむ小さなデバイス	共著	令和7年3月	日本人工学会第68回大 会(福岡)
藤 彰之	2 在宅薬物管理における水分測定デバイスの可能性と課題	共著	令和7年3月	日本人工学会第68回大 会(福岡)
藤 彰之	3 高齢者の身体機能と脱水耐性: 在宅でのリハビリテーションを想定して	共著	令和7年3月	日本人工学会第68回大 会(福岡)
藤 彰之	4 体の水分を測定する—理論に基づいた機器の開発	共著	令和7年3月	日本人工学会第68回大 会(福岡)
藤 彰之	5 ユニバーサルデザインを配慮した医療デバイス開発	共著	令和7年3月	日本人工学会第68回大 会(福岡)
小田中 啓太	1 新規抗真菌薬の探索〜 Candida属真菌感染症の制御を目指して〜	単著	2025年8月	次世代を担う若者のた めの創薬・医療薬理シン ポジウム2025
坂本 沙緒菜	2 新規抗マラリア薬候補化合物, 1, 2, 6, 7-tetraazaspiro [7, 11] nonadecane (3-98) の作用 機序に関する研究	共著	2025年9月	第69回日本薬学会・関東 支那大会(埼玉)
田中 悠	1 前癌部のがん病変に伴う難治性疼痛に対するメサドリンの使用経験	共著	2025年5月	第10回日本がんサポー ティブケア学会学術集会

氏名	著書、学術論文等の名称	著者・共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称
田中 裕	2 遺伝子多型の違いによるタバコモデルの効果に関する後方視的相関解析	共著	2025年6月	第18回 日本緩和医療学会年会
田中 裕	3 慢性肺臓筋弱症に伴う難治性疼痛に対するメサドン投与症例の検討	共著	2025年6月	第18回 日本緩和医療学会年会
田中 裕	4 ナルデメジンの効果及び副作用等に関する遺伝子多型の後方視的解析	共著	2025年6月	第18回 日本緩和医療学会年会
田中 裕	5 Evaluation of the Academic Detailing Training Program That Aims to Bridge the Gap Between What Pharmacists Actually Do and What They Should Do	共著	2025年6月	MASCC/ISOO 2025 Annual Meeting
田中 裕	6 メサドン内服困難時の対応策～230症例における後方視的検討～	共著	2025年7月	第30回 日本緩和医療学会学術大会
田中 裕	7 病院実習におけるアカデミック・ディテリング教育が薬学生の提案力と自信を育む	共著	2025年8月	第10回 日本薬学教育学会大会
田中 裕	8 ePBOを活用した支援療法アカデミック・ディテリング教育プロジェクトにおける自己評価アンケートの解析	共著	2025年8月	第10回 日本薬学教育学会大会
田中 裕	9 休憩時の要出庫に対する予防的レスキュー策の有効性に関する検討：多施設共同後方視的調査	共著	2025年11月	第35回 日本医療学会年会
田中 裕	10 活性炭吸着シート（BBセーフシートNeo）は、車中炎が火源の再燃化を抑制し、燃焼速度を防止する	共著	2025年11月	第35回 日本医療学会年会
渡山 泰弘	2 ハイブリッド型授業でのアクティブ・ラーニング実施による学習動機づけへの影響	共著	2025年8月	第10回日本薬学教育学会大会
中嶋 梨	1 リープログラムに基づく科目担当者主導の学修支援と学内連携の実践報告：化学系基礎科学における課題と展望	共著	2025年8月	第10回日本薬学教育学会大会
澤井 美奈子	2 新任期の民生委員・児童委員が地域における見守り活動で感じる困難と対応	共著	2025年12月	第14回日本公衆衛生看護学会学術集会
山崎 真帆	2 ラダーⅠ研修終了後の会 ラダーⅠつながらる会の活動報告	共著	2025年5月	全国保健師教育機関協議会「保健師教育」
山崎 真帆	3 高齢者におけるラジオ体操の実施効果に関する追跡調査 ーラジオ体操実施状況ー	共著	2025年5月	第84回日本公衆衛生学会総会
山崎 真帆	4 高齢者におけるラジオ体操の実施効果に関する追跡調査 ー食事状況についてー	共著	2025年5月	第84回日本公衆衛生学会総会
山崎 真帆	5 高齢者におけるラジオ体操の実施効果に関する追跡調査 ー形態・生活活動力についてー	共著	2025年5月	第84回日本公衆衛生学会総会
山崎 真帆	6 新任期の民生委員・児童委員が地域における見守り活動で感じる困難と対応	共著	2025年12月	第14回日本公衆衛生看護学会学術集会
山崎 真帆	7 看護系大学の公衆衛生看護を教授する教員に特徴的な教育上の課題：若手教員を対象としたインタビュー調査	共著	2025年12月	第14回日本公衆衛生看護学会学術集会
山崎 真帆	8 新型コロナウイルス感染症流行下におけるラジオ体操会の活動継続の要因	共著	2025年12月	第14回日本公衆衛生看護学会学術集会
山崎 真帆	9 集まろう、つながろう、話そう、今日から話かせる教育実践のあれこれ	共著	2025年12月	第14回日本公衆衛生看護学会学術集会
大高 のぶえ	1 新任期の民生委員・児童委員が地域における見守り活動で感じる困難と対応	共著	2025年12月13日	第14回日本公衆衛生看護学会学術集会 講演集

（５） 研究補助金等外部資金の新規受入れ状況（科研費・外部資金等）

【看護科学】

代表者名	研究課題	助成元
今野 和徳	閉経移行期症状のセルフアセスメントシートの信頼性の検証	科研費 基礎研究 (C)
野口 京子	訪問看護を利用する高齢在宅療養者と家族を対象とした改訂版口腔ケアプログラムの開発	科研費 若手研究

【リハビリテーション学科理学療法専攻】

櫻井 好美	高齢者のための骨盤底筋トレーニング用アプリケーションの開発と実証研究	科研費 基礎研究 (C)
大村 優希	日常診療CT/MRIから実現する、代償路を含む白質ネットワーク解析による脳卒中予後予測	科研費 若手研究
斎藤 琴子	筋肉の動きを波形化してみよう！～橋と筋電図で体の動きを科学する～	科研費 ひらめき☆ときめきサイエンス

【リハビリテーション学科作業療法専攻】

池田 晋平	子ども食堂を拠点とした学習支援プログラムの開発と社会実装に向けた効果検証	科研費 若手研究
増田 雄亮	視覚前提型アセスメントモデルの再構築：視覚障害のある高齢者の認知評価	科研費 基礎研究 (C)

【薬学部】

木村 聡一郎	自然免疫と獲得免疫を同時誘導する訓練免疫誘導因子搭載ワクチンの開発	科研費 基礎研究 (C)
山崎 泰広	脂質異常症モデルマウスを用いた肝X受容体サブタイプ特異的動態制御機構の解明	科研費 基礎研究 (C)

2) 茅ヶ崎看護専門学校

① 志願者・入学者の確保

定員 40 名の充足を最優先課題として学生募集活動を行ったが、18 歳人口の減少や大学進学志向の影響を受け、オープンキャンパス等のイベント来校者の確保に苦戦した。

その結果、出願率は前年度の 39.2%から 30.6%へ低下した。要因の一つとして、募集活動の開始時期が遅れたことにより、競合校との募集競争において不利な状況となったことが考えられる。次年度は、受験しやすい AO 入試を中心とした募集活動を強化するとともに、特別入試の出願期間延長など柔軟な入試制度を運用する。また、社会人出願者数が増加したことから、社会人層を重点対象とした広報活動を推進し、志願者の確保に努める。

② 休退学防止

入学前教育や授業内で職業理解を促し、科目未修得や原級留置き者を出さないことを目標に取り組み、2025 年度は、退学者 11 名（1 年 6 名、2 年 1 名、3 年 4 名）、と昨年よりも 4 名減少となった。

③ 国家試験結果

国家試験全員合格を目指し取り組んできたが、2025 年度看護師国家試験合格率 87.9%となり、全国平均（90.1%）を下回る結果となった。

④ ふれあいグループへの就職促進

卒業生 66 名中、56 名（86.2%）が就職した。ふれあい奨学金を受給していない 23 名が就職した。今後も、受給者・就職者共に増加するように支援していく。

3) 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校

① 休・退学防止

理学療法学科の休退学が目立ったが、作業療法学科、言語聴覚学科の休退学者は非常に少なく抑えることができた。

② 国家試験合格率

2025 年度の 3 学科新卒者の合格率は理学療法学科 88.0%、作業療法学科 83.3%、言語聴覚学科は 79.2%であり、3 学科とも全国平均に届かなかった。

今年度の反省を踏まえ学力差の拡大・学力低下が著しいことに対応して、早い段階で学内模試にて成績不良者を抽出し特に成績最下層は個々の学生の気質に合わせたサポート体制を強化し丁寧な指導を実施する。

③ 就職指導(グループへの就職希望者の増大、グループとの連携強化)

2025 年度は 43 名(50%)の学生をグループに入職させることができたが、学科によって差が出ているので、次年度は、早期から積極的に働きかけ、希望勤務地への配属を後押しする。

4) 湘南医療大学附属下田看護専門学校

① 入学試験状況

学費を大幅に減額したが、今年度も定員未達となった。主な要因は、他校不合格者の減少と考える。少子化・過疎化に伴う少ない新卒者数の減少と大学進学の流れによる専門学校希望者の減少している。

② 実習施設との連携

臨地実習指導者会議を通じて実習目標や指導方針を共有し、実習施設との連携のもと、統一性・継続性のある実習指導を実施した。また、学習支援や健康管理、個人情報保護に関する指導を行うとともに、課題のある学生には追加指導や学内学習を実施した。

さらに、感染防止と安全管理を徹底し、各実習施設との緊密な連携により、学生及び患者・利用者の安全を確保したうえで実習を完了した。

③ 国家試験の合格率 100%

○看護師国家試験合格率は、85%で目標未達であった。教材の十分な活用と学内模試試験を活用したが、3名不合格となった。昨年度に比べると18ポイント改善した。

国家試験の不合格の原因としては、3名の学習が進まなかったと考える。この学年の1年次は、今まで卒業した学年の1年次に比べて、最も不安の多い学力であったが、クラス内の助け合いと各自の努力によって前年を上回る結果につながった。国家試験前等は、クラス内で一緒に学ぶ姿が見られた。

なお、准看護師試験は、全員合格した。

④ 休退学の防止

令和7年度は、退学者3名が発生し目標達成は未達であった。

⑤ ふれあいグループへの就職の促進

今年度は、4名/20(20%)がふれあいグループへ入職した。

5) 医療ビジネス観光福祉専門学校

① ふれあいグループに有益な人材の供給

介護福祉学科及び医療ビジネス学科では、就職希望者の84%にあたる39名がふれあいグループへ入職した。

2025年度 ふれあいグループへの就職

介護福祉学科	46名中	36名
医療ビジネス学科 医療事務コース	3名中	3名

② 休学者・退学者の撲滅

出席不足の起因から留学生 8 名が学費未納となり除籍となった。

③ 魅力ある学校づくり～国家試験、民間資格取得に向けた取り組み～

医療ビジネス学科 平均して 6.9 種

介護福祉学科 介護福祉士国家試験 46 名中 14 名合格（合格率 30.4%）

介護福祉学科では、国家試験の結果、14 名が合格となり正式に介護福祉士となった。不合格の 32 名は経過措置により条件付きで介護福祉士になった。

④ 実習施設との連携

介護福祉学科の介護実習、医療ビジネス学科の病院実習では、多くの施設と連携を取ることができ、それがグループ施設への入職者数増加にも結び付いたと思料される。

⑤ カリキュラム再編と指導力向上

全員就職を目標に、エンプロイアビリティを学生に身につけるために全教職員が学生指導に関わり、授業～就職活動～卒業まで一貫した指導内容の充実を図った。

6) 幼保連携型認定こども園みどり幼稚園

○健康 （健康で安全な生活を作り出す視点から捉え、いろいろな状況に思い巡らせ心や体を働かせる）の目標は達成した。

○人間関係 （自立心を育て、人と関わる視点から捉え、他の人々と親しみ思いを巡らせ支えあって生活する）年齢に合わせた取り組みを行った。

○環境 （周囲の環境に好奇心や探究心を持って関わり、生活に取り入れていこうとする視点から捉え、考えたり扱ったりする）自然に触れて生活し、その大きさや美しさ、不思議さなどに気付く。

○言葉 （言葉に対する感覚や言葉で表現する視点から捉え、経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現する）保育者やともだちの言葉、話に興味や関心をもち、親しみを持って聞いたり、話したりする。生活の中で必要な言葉が分かり、使うことができる。親しみを持って日常の挨拶をする。絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。

○表現 （豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする視点から捉え、感じたことや考えたことを自分なりに表現する）、作品展などを通して、成果を見ることが出来た。

（教職員）

教職員・保護者と連携・協力をして園児の安全確保に努めた。保育活動や年間行事を計画し、活動や行事を通して園児の成長に繋げた。保育園は毎月、幼稚園は 2 ヶ月に一回、避難訓練を行い（地震・不審者・火災など）非常時に対応できるよう日頃から危機管理を意識し、日々話し合い、研修などで確認した。

湘南医療大学の学生を受け入れ、幼児理解の学習に役立てた。

その他

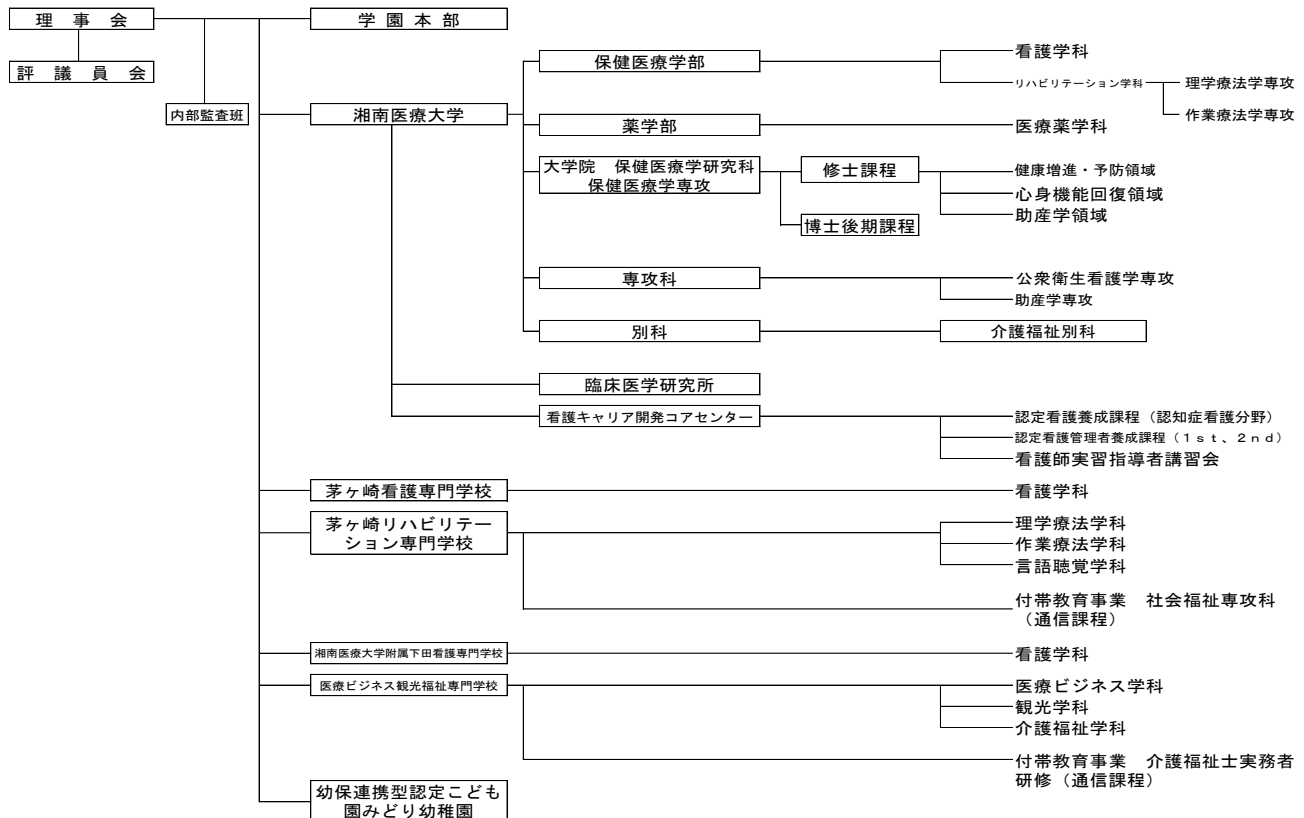
○ 人事計画及び組織

(1) 人事計画

認定こども園みどり幼稚園及び湘南医療大学附属下田看護専門学校では、教員募集サイト等を活用して教員確保に努めた。また、湘南医療大学看護学科の専任教員による附属下田看護専門学校への教育支援を次年度も継続することとした。

(2) 組織

学校法人湘南ふれあい学園 組織図(2025年度)



○ コンプライアンスの徹底 (継続)

- ・理事会、評議員会及び各校園の会議・委員会を適切に運営し、学校運営の充実を図った。
- ・大学及び専門学校において自己点検・評価を実施し、その結果を公表した。
- ・教職員に対して行動指針等の周知を行い、コンプライアンス意識の向上を図った。

V 財務状況

(1) 決算の概要

①貸借対照表の状況と経年比較

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

2025 年度末の資産の部合計は 17,009 百万円で、その内訳は、固定資産 13,751 百万円、流動資産 3,257 百万円となり、前年度に対して 437 百万円の減少だった。

一方、負債の部合計は 5,405 百万円で、その内訳は、固定負債 3,177 百万円、流動負債 2,228 百万円となり、前年度に対して 110 百万円の減少だった。

負債額 110 百万円の減少の主な要因は、長期借入金返済に伴う減少によるものであった。

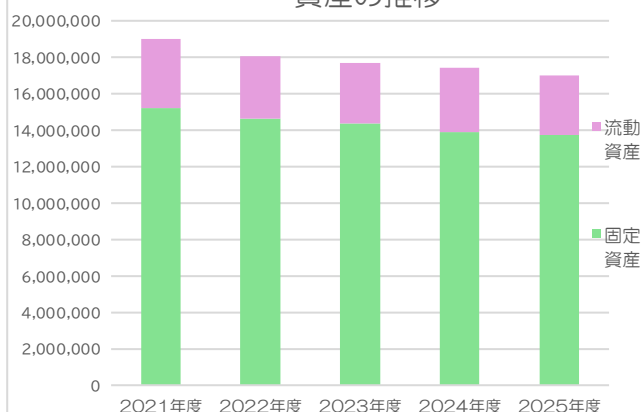
負債額（前受金を除く）の総資産額に占める割合は 23.36%（昨年度 23.22%）だった。

貸借対照表の経年比較

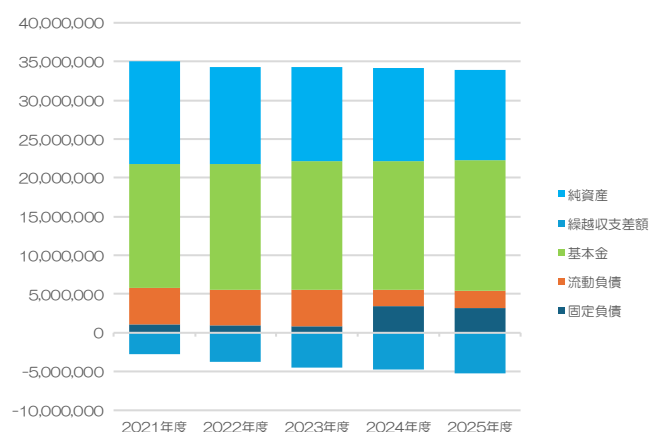
(単位：千円)

科 目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
固定資産	15,182,720	14,606,920	14,339,804	13,888,303	13,751,911
流動資産	3,845,976	3,469,393	3,340,145	3,559,005	3,257,422
資産合計	19,028,697	18,076,313	17,679,950	17,447,309	17,009,333
固定負債	1,037,211	961,887	835,744	3,402,763	3,177,270
流動負債	4,695,303	4,628,069	4,742,365	2,113,565	2,228,126
負債合計	5,732,515	5,589,957	5,578,109	5,516,329	5,405,396
基本金	16,031,469	16,212,351	16,582,127	16,674,687	16,865,780
繰越収支差額	△ 2,735,287	△ 3,725,994	△ 4,480,286	△ 4,743,707	△ 5,261,842
純資産	13,296,181	12,486,356	12,101,840	11,930,979	11,603,937
負債及び純資産の部合計	19,028,697	18,076,313	17,679,949	17,447,309	17,009,333
減価償却累計額	3,021,632	3,541,795	4,065,098	4,582,184	5,080,910

資産の推移



負債及び純資産の推移



イ) 財務比率の経年比較

(単位：％)

区 分			2021年度 (R4.3.31)	2022年度 (R5.3.31)	2023年度 (R6.3.31)	2024年度 (R7.3.31)	2025年度 (R8.3.31)
分 類	比 率	算式 (×100%)					
財 務 状 況	運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産} - \text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	-25.05%	-21.89%	-23.93%	-15.85%	-18.18%
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	81.91%	74.96%	70.43%	168.39%	146.20%
	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	30.13%	30.92%	31.55%	31.62%	31.78%
	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	258.14%	217.75%	201.14%	212.40%	194.91%
	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
	積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	108.47%	82.65%	69.03%	65.41%	52.89%

②事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

当年度収支差額は、327 百万円の支出超過となった。

収入：学生生徒等納付金収入は、前年度 2,764 百万円より約 151 百万円の増収で 2,915 百万円となった。

寄付金収入は、湘南医療大学運転資金の受配者寄付金配布 255 百万円、また学校法人の学術研究活動振興、課外活動教育活動振興を目的とする特定公益増進法人に対する寄附 40 百万円を受け、300 百万円となった。

補助金収入は、大学経常費補助金等、4 専門学校、幼保連携型認定こども園みどり幼稚園への補助があり、総額として 776 百万円（前年度 637 百万円）となった。

基本金組入額合計は 191 百万円となり、基本金組入前当年度収支差額（帰属収入）は、327 百万円の支出超過となった。

支出：人件費は、前年度 2,238 百万円より約 43 百万の減で、2,195 百万円となった。

教育研究経費は、前年度 1,562 百万円より約 200 百万円増で、1,762 百万円となった。

(主な増額 大学 看護学科 69 百万円、薬学部 50 百万円、別科 45 百万円)

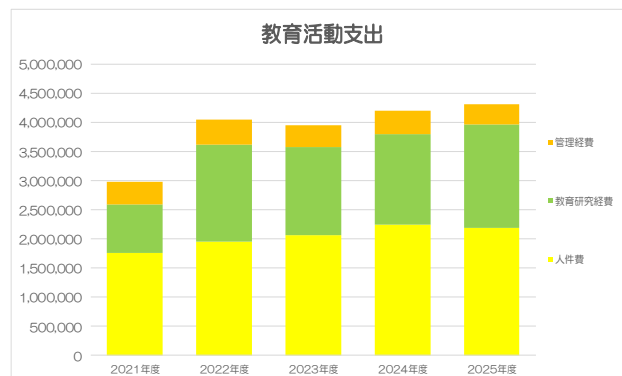
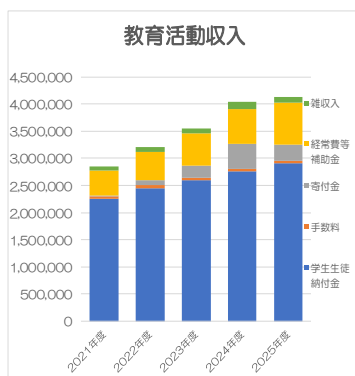
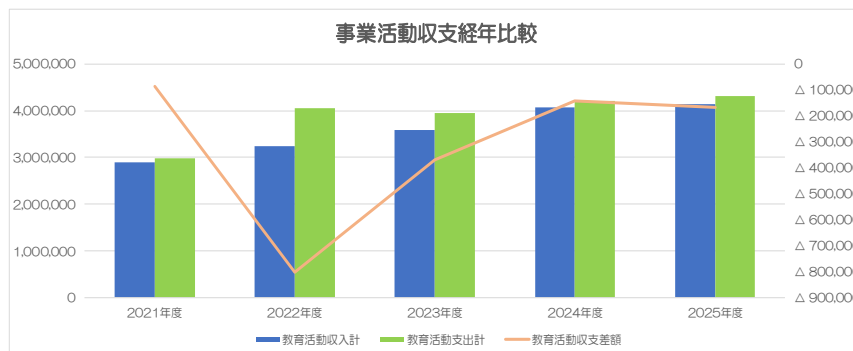
管理経費は、前年度 404 百万円より約 51 百万円減で 353 百万円となった。

経年推移の状況が分かる資料

事業活動収支の経年比較

(単位：千円)

事業活動収支	科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
教育活動収支	収入	学生生徒納付金	2,261,123	2,447,984	2,600,941	2,764,492
		手数料	44,294	52,819	43,364	40,504
		寄付金	3,349	103,730	221,324	461,923
		経常費等補助金	468,599	519,620	590,207	637,376
		付随事業収入	38,422	36,043	32,302	27,760
		雑収入	76,029	84,773	99,451	126,987
		教育活動収入計	2,891,819	3,244,972	3,587,592	4,063,960
	支出	人件費	1,764,677	1,959,789	2,067,716	2,238,636
		教育研究経費	826,365	1,654,564	1,507,403	1,562,450
		管理経費	387,781	431,665	382,419	404,273
		徴収不能額等	0	0	0	0
		教育活動支出計	2,978,824	4,046,020	3,957,539	4,205,360
	教育活動収支差額		△ 87,004	△ 801,048	△ 369,947	△ 141,399
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	32	27	23	1281
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0
		教育活動外収入計	32	27	23	1281
	支出	借入金等利息	20,282	24,526	20,888	33,589
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0
		教育活動外支出計	20,282	24,526	20,888	33,589
	教育活動外収支差額		△ 20,249	△ 24,498	△ 20,865	△ 32,307
経常収支差額		△ 107,254	△ 825,546	△ 390,812	△ 173,707	△ 204,920
特別収支	収入	資産売却差額	0	0	0	0
		その他の特別収入	530,416	15,915	8,839	6,995
		特別収入計	530,416	15,915	8,839	6,995
	支出	資産処分差額	1,490	194	576	1,000
		その他の特別支出	0	0	1,966	3,149
		特別支出計	1,490	194	2,542	4,149
	特別収支差額		528,926	15,721	6,296	2,846
基本金組入前当年度収支差額 ③		421,597	△ 809,825	△ 384,515	△ 170,861	△ 327,042
基本金組入額合計 ④		△ 2,559,498	△ 180,881	△ 369,776	△ 92,559	△ 191,092
当年度収支差額 ⑤		△ 2,137,826	△ 990,707	△ 754,291	△ 263,420	△ 518,135
(参考)						
事業活動収入計 ①		3,422,269	3,260,915	3,596,455	4,072,238	4,159,211
事業活動支出計 ②		3,000,597	4,070,740	3,980,971	4,243,099	4,486,254



イ) 財務比率の経年比較

分 類	区 分		2021年度 (R4.3.31)	2022年度 (R5.3.31)	2023年度 (R6.3.31)	2024年度 (R7.3.31)	2025年度 (R8.3.31)
	比 率	算式 (×100%)					
経 営 状 況	人 件 費 比 率	人 件 費 経 常 収 入	61.02%	60.39%	57.63%	55.07%	52.92%
	教 育 研 究 経 費 比 率	教 育 研 究 経 費 経 常 収 入	28.58%	50.99%	42.02%	38.43%	42.49%
	管 理 経 費 比 率	管 理 経 費 経 常 収 入	13.41%	13.30%	10.66%	9.94%	8.51%
	事 業 活 動 収 支 差 額 比 率	基 本 金 組 入 前 収 支 差 額 事 業 活 動 収 入	12.32%	-24.83%	-10.69%	-4.20%	-7.86%
	学 生 生 徒 等 納 付 金 比 率	学 生 生 徒 等 納 付 金 経 常 収 入	78.19%	75.44%	72.50%	68.00%	70.26%
	経 常 収 支 差 額 比 率	経 常 収 支 差 額 経 常 収 入	-3.71%	-25.44%	-10.89%	-4.27%	-4.94%

③資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(資金収支)

収入：学生生徒等納付金収入は、前年度 2,764 百万円より約 151 百万円の増収で 2,915 百万円となった。

寄付金収入は、湘南医療大学運転資金の受配者寄付金配布 255 百万円、また学校法人の学術研究活動振興、課外活動教育活動振興を目的とする特定公益増進法人に対する寄附 40 百万円を受け、295 百万円となった。

補助金収入は、大学経常費補助金等、4 専門学校、幼保連携型認定こども園みどり幼稚園への補助があり、総額として 776 百万円（前年度 637 百万円）となった。前年度繰越支払資金 3,110 百万円により、資金収入合計は 7,213 百万円となった。

支出：人件費 2,197 百万円、教育研究経費 1,302 百万円、管理経費 308 百万円、施設関係支出 183 百万円などとなった。

上記の結果、法人全体として翌年度繰越支払資金は 2,789 百万円となり、期首に比べて 321 百万円減少した。

資金収支の経年比較

(単位：千円)

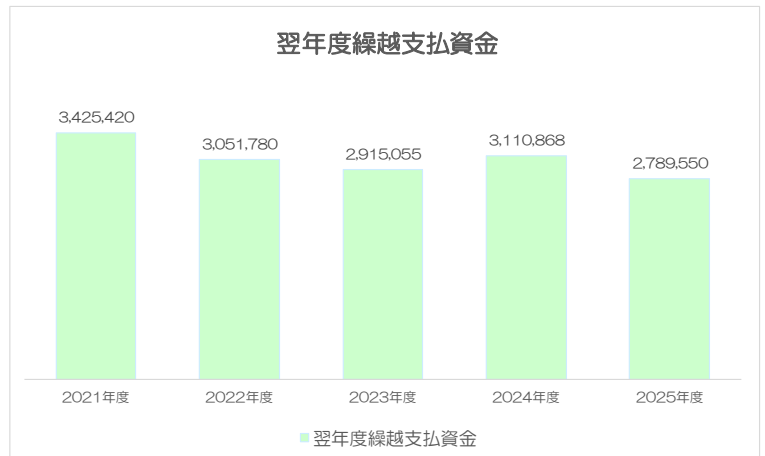
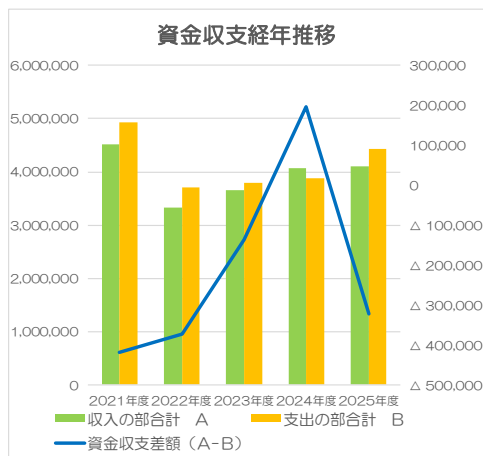
	科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
資金収入の部	学生生徒納付金収入	2,261,123	2,447,984	2,600,941	2,764,492	2,915,228
	手数料	44,294	52,819	43,364	45,420	40,504
	寄付金収入	525,435	100,051	215,008	457,166	295,008
	補助金収入	468,599	519,620	590,207	637,376	776,493
	資産売却収入	1,474	0	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	38,422	36,043	32,302	27,760	21,873
	受取利息・配当金収入	32	27	23	1,281	4,937
	雑収入	75,994	84,586	101,152	127,814	91,369
	小計 ①	3,415,373	3,241,130	3,582,997	4,061,309	4,145,412
	借入金等収入	1,000,004	0	0	0	0
	前受金収入	1,326,957	1,401,488	1,449,276	1,464,637	1,431,074
	その他の収入	50,204	66,171	63,629	42,931	42,786
	資金収入調整勘定	△ 1,273,591	△ 1,373,056	△ 1,443,281	△ 1,492,042	△ 1,516,221
	収入の部合計 A	4,518,947	3,335,733	3,652,621	4,076,835	4,103,051

(単位：千円)

	科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
資金支出の部	人件費支出	1,753,838	1,945,385	2,060,698	2,222,823	2,197,961
	教育研究経費支出	542,775	1,019,365	1,025,490	1,085,200	1,302,466
	管理経費支出	335,597	345,325	334,320	359,098	308,732
	借入金等利息支出	20,282	24,526	20,888	33,589	42,394
	借入金等返済支出	103,968	103,968	81,108	127,002	244,086
	施設関係支出	2,359,282	26,176	210,290	38,576	183,905
	設備関係支出	28,332	100,461	30,941	24,951	25,475
	小計 ②	5,144,074	3,565,206	3,763,735	3,891,239	4,305,019
	資産運用支出	56	4,130	751	1,509	1,270
	その他の支出	193,083	384,853	295,425	324,086	522,657
	資金支出調整勘定	△ 400,609	△ 244,817	△ 270,566	△ 335,814	△ 404,579
	支出の部合計 B	4,936,604	3,709,372	3,789,345	3,881,020	4,424,367

(単位：千円)

	科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
資金収支差額の部	資金収支差額 (①-②)	△ 1,728,701	△ 324,076	△ 180,738	170,070	△ 159,607
	資金収支差額 (A-B)	△ 417,657	△ 373,639	△ 136,724	195,815	△ 321,316
	翌年度繰越支払資金	3,425,420	3,051,780	2,915,055	3,110,868	2,789,550



イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

教育活動による資金収支収入は 4,139 百万円、支出は 3,807 百万円で差引 331 百万円の収入超過となった。 施設整備等活動による収入は、0 円、支出は 209 百万円で差引 209 百万円の支出超過となった。 その他活動による収入は 6 百万円、支出は 438 百万円で差引 432 百万円の支出超過となった。上記の結果、翌年度繰越支払資金は 2,789 百万円となり、昨年度の 3,110 百万円より 321 百万円減少した。

経年推移の状況が分かる資料

活動区分資金収支計算書の経年比較

(単位:円)							
教育活動による資金収支	科 目		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	収入	学生生徒等納付金収入	2,261,123,972	2,447,984,405	2,600,941,057	2,764,492,471	2,915,228,264
		手数料収入	44,294,000	52,819,040	43,364,925	45,420,295	40,504,010
		特別寄付金収入	0	100,000,000	200,000,000	400,000,000	255,000,000
		一般寄付金収入	10,000	51,000	15,008,000	57,166,000	40,008,000
		経常費等補助金収入	468,599,866	519,620,993	590,207,926	637,376,549	776,493,574
		付随事業収入	38,422,462	36,043,864	32,302,529	27,760,424	21,873,046
		雑収入	75,994,214	83,709,170	99,434,050	126,987,111	89,994,730
		教育活動資金収入計	2,888,444,514	3,240,228,472	3,581,258,487	4,059,202,850	4,139,101,624
	支出	人件費支出	1,753,837,941	1,945,385,698	2,060,698,942	2,222,823,793	2,197,961,200
		教育研究経費支出	542,774,833	1,019,365,015	1,025,490,569	1,085,200,419	1,302,466,596
		管理経費支出	335,596,811	345,325,706	332,357,240	355,949,331	307,287,794
		教育活動資金支出計	2,632,209,585	3,310,076,419	3,418,546,751	3,663,973,543	3,807,715,590
	差引	256,234,929	△ 69,847,947	162,711,736	395,229,307	331,386,034	
調整勘定等	130,384,070	126,046,937	44,130,639	29,475,179	1,919,258		
教育活動資金収支差額	386,618,999	56,198,990	206,842,375	424,704,486	333,305,292		
施設整備等活動による資金収支	科 目		金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
	収入	施設設備寄付金収入	525,425,885	0	0	0	0
		施設設備売却収入	1,474,146	0	0	0	0
		施設設備補助金収入	0	0	0	0	0
		施設整備等活動資金収入計	526,900,031	0	0	0	0
	支出	施設関係支出	2,359,282,821	26,176,700	210,290,214	38,576,978	183,905,629
		設備関係支出	28,332,166	100,461,655	30,941,020	24,951,607	25,475,504
		施設整備等活動資金支出計	2,387,614,987	126,638,355	241,231,234	63,528,585	209,381,133
		差引	△ 1,860,714,956	△ 126,638,355	△ 241,231,234	△ 63,528,585	△ 209,381,133
	調整勘定等	178,341,649	△ 181,118,153	△ 13,750,421	678,951	△ 13,093,057	
	施設整備等活動資金収支差額	△ 1,682,373,307	△ 307,756,508	△ 254,981,655	△ 62,849,634	△ 222,474,190	
小計 (教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 1,295,754,308	△ 251,557,518	△ 48,139,280	361,854,852	110,831,102		
その他の活動による資金収支	科 目		金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
	収入	借入金収入	1,000,004,000	0	0	0	0
		貸付金回収収入	0	0	120,000	0	0
		預り金受入収入	2,358,006	11,090,132	15,992,157	0	0
		仮払金回収収入	0	0	0	636,305	20,000
		その他の固定資産回収収入	0	0	0	0	0
		預託金回収収入	0	0	10,210	0	0
		敷金回収収入	0	0	0	0	0
		立替金回収収入	34,423	0	489,920	281,328	0
		小計	1,002,396,429	11,090,132	16,612,287	917,633	20,000
		受取利息・配当金収入	32,571	27,673	23,697	1,281,740	4,937,039
		過年度修正収入	0	877,500	1,717,976	827,417	1,374,733
		収益事業元入金回収収入	0	0	0	0	0
		その他の活動資金収入計	1,002,429,000	11,995,305	18,353,960	3,026,790	6,331,772
		支出	借入金等返済支出	103,968,536	103,968,536	81,108,505	127,002,840
	貸付金支払支出		0	600,000	1,800,000	0	0
	その他の固定資産支払支出		0	0	0	0	0
	仮払金支払支出		0	0	418,805	0	0
	預託金支出		23,220	47,080	8,190	40	5,160
	預り金支出		0	0	0	3,817,823	3,223,464
	立替金支出		0	804,373	0	0	256,144
	出資金支出		56,445	0	0	0	0
	収益事業元入金支出		0	4,130,978	751,753	1,509,369	1,270,195
	差入保証金支払支出		0	0	0	0	145,800,000
	小計		104,048,201	109,550,967	84,087,253	132,330,072	394,641,235
	過年度修正支出		0	0	1,963,700	3,149,366	1,445,094
	借入金等利息支出		20,282,265	24,526,342	20,888,734	33,589,206	42,394,445
	その他の活動資金支出計		124,330,466	134,077,309	106,939,687	169,068,644	438,480,774
	差引		878,098,534	△ 122,082,004	△ 88,585,727	△ 166,041,854	△ 432,149,002
	調整勘定等		0	0	0	0	0
	その他の活動資金収支差額		878,098,534	△ 122,082,004	△ 88,585,727	△ 166,041,854	△ 432,149,002
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	△ 417,655,774		△ 373,639,522	△ 136,725,007	195,812,998	△ 321,317,900	
前年度繰越支払資金	3,843,075,899		3,425,420,125	3,051,780,603	2,915,055,596	3,110,868,594	
翌年度繰越支払資金	3,425,420,125		3,051,780,603	2,915,055,596	3,110,868,594	2,789,550,694	

ウ) 財務比率の経年比較

区 分			2021年度 (R4.3.31)	2022年度 (R5.3.31)	2023年度 (R6.3.31)	2024年度 (R7.3.31)	2025年度 (R8.3.31)
分 類	比 率	算式 (×100%)					
	教育活動収支差額比率	教育活動収支差額 教育活動収入計	-3.01%	-24.69%	-10.31%	-3.48%	-4.04%

(2) その他

①有価証券の状況

本学校法人では、有価証券は所有していない。

②借入金の状況

(長期)

借 入 先	金 額 円	使 途	返済期限	利 率 %
みずほ銀行	341,929,169 円	校地・校舎購入資金	2031年3月31日	2.060 %
みずほ銀行	122,450,000 円	校舎改修資金	2033年10月31日	1.190 %
みずほ銀行	2,519,992,000 円	校地購入・校舎改修資金	2045年3月31日	1.490 %
計	2,984,371,169 円			

(短期)

借 入 先	金 額	使 途	利 率 %
みずほ銀行	85,482,272	校地・校舎購入資金	2.060 %
みずほ銀行	18,600,000	校舎改修資金	1.190 %
みずほ銀行	140,004,000	校地購入・校舎改修資金	1.490 %
計	244,086,272		

③学校債の状況

本学校法人では、学校債は発行していない。

④寄付金の状況

【特定公益増進法人】

(単位：円)

特別寄附 (一般の方より)	8,000
特別寄附 (グループ企業より寄付)	40,000,000

【受配者指定寄付金】

2025 年度中に配布を受けた寄付金

受配者指定寄付金	255,000,000
----------	-------------

⑤補助金の状況

湘南医療大学、専門学校には、経常費補助金及び授業料等減免費交付金として、国・県より補助金が交付された。その他、茅ヶ崎看護専門学校、湘南医療大学附属下田看護専門学校には、看護師養成校として養成所補助事業に対する補助金が交付された。認定こども園には、横浜市より、子ども・子育て支援教育・保育給付費等認定こども園運営に関する補助金が交付された。

2025年度 補助金(消費税計算資料)

	本部	茅ヶ崎看護	小校	医療ビネス校	みどり幼稚園	下田看護	湘南医療大学	合計	
国庫補助金									
経常費補助金収入							207,108,000	207,108,000	国庫補助金
国庫補助金									
授業料等減免費交付金							197,073,000	197,073,000	国庫補助金
神奈川県									
経常費補助金		10,463,000	16,639,000	11,708,000				38,810,000	神奈川県
*申請書別紙									
神奈川県・静岡県									
看護師等養成所補助事業		28,297,000				18,321,000		46,618,000	神奈川県・静岡県
*申請書別紙									
神奈川県									
介護福祉士養成施設日本語学習等支援事業費				90,000				90,000	神奈川県
神奈川県									
地域開放推進費								0	神奈川県
補助対象経費(課税)									
神奈川県・静岡県									
結核健康診断及び予防接種		13,922	23,002			9,562		46,486	神奈川県・静岡県
補助対象経費(課税)									
神奈川県・静岡県									
授業料等減免費交付金		19,452,100	25,463,000	3,255,100		4,724,700		52,894,900	神奈川県・静岡県
神奈川県・静岡県									
物価高騰対応支援金		90,000	90,000	90,000		330,000		600,000	神奈川県・静岡県
補助対象経費(課税)									
横浜市									
私立幼稚園等補助金					481,000			481,000	横浜市
補助対象経費(課税)									
横浜市									
はまっこ広場事業補助金					500,000			500,000	横浜市
補助対象経費(課税)									
横浜市									
子ども・子育て支援教育・保育給付費					194,858,874			194,858,874	横浜市
横浜市									
私立幼稚園等一時預かり保育事業補助金					1,341,300			1,341,300	横浜市
補助対象経費(課税)									
横浜市・相模原市									
結核健康診断及び予防接種				32,721				32,721	横浜市・相模原市
補助対象経費(課税)									
横浜市									
人事院勧告に伴う公定価格差額分					13,970,980			13,970,980	横浜市
横浜市									
横浜市特定教育・保育施設預かり保育事業					20,147,485			20,147,485	横浜市
補助対象経費(課税)									
小金井市									
小金井市子ども・子育て支援教育・保育給付費等					645,650			645,650	小金井市
補助対象経費(課税)									
横浜市									
横浜市保育士宿舍借り上げ支援事業補助金					456,000			456,000	横浜市
下田市									
下田市児童・介護・社会福祉施設等物価高騰対策支援金						1,050,000		1,050,000	下田市
横浜市									
運営継続支援臨時加算					98,860			98,860	横浜市
国庫補助金合計	0	0	0	0	0	0	404,181,000	404,181,000	国
神奈川県・静岡県補助金合計	0	58,316,022	42,215,002	15,143,100	0	23,385,262	0	139,059,386	神奈川県・静岡県
市補助金 合計	0	0	0	32,721	232,500,149	1,050,000	0	233,582,870	横浜市他

⑥関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者について下表のとおり イ) 出資会社は該当なし

12. 関連当事者との取引

関連当事者との取引の内容は、次のとおりである。

(単位:円)

属 性	役員、法人等の名称	住 所	資本金又は出資金	事業内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
理事長	大屋敷美志枝	-	-	-	-	-	-	当法人の銀行借入に対する被保証 *1	430,500,000 *1 *2	-	-
関係法人	医療法人社団 康心会	神奈川県茅ヶ崎市	170百万円	病院・老人保健施設・診療所の経営	-	4名	職員出向他	職員出向他	50,494,684	未収入金	3,387,595
							健康診断、実習謝礼他	健康診断、実習謝礼他	73,101,121 *4	未払金	10,885,230
関係法人	医療法人回生会	神奈川県横浜市	10百万円	病院の経営	-	5名	健康診断、実習謝礼他	健康診断、実習謝礼他	11,535,575 *4	未払金	719,570
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱フォーライフ企画 *3	神奈川県茅ヶ崎市	10百万円	一般物品商社	-	-	リース・医療材料・事務用品購入	リース・医療材料・事務用品購入	589,677,412 *4	未払金	82,061,388
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱エフアントリア *3	神奈川県茅ヶ崎市	5百万円	内装工事、建物保守、建築・企画設計	-	-	施設修理他	施設修理他	168,993,060 *4	未払金	65,522,220
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱メディカルヘルスクラブ *3	神奈川県茅ヶ崎市	3百万円	不動産管理会社	-	1名	不動産賃貸	不動産賃貸	22,488,154 *4	未払金	211,000
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱エフエムシー *3	神奈川県茅ヶ崎市	5百万円	人事管理・給与計算・経理業務の請負	-	1名	人事管理・給与計算・経理業務委託	人事管理・給与計算・経理業務委託	43,315,630 *4	未払金	10,430
							当法人の銀行借入に対する被保証	当法人の銀行借入に対する被保証	2,800,000,000		
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱メディカルフーズ *3	神奈川県茅ヶ崎市	3百万円	給食業務の受託及び管理	-	1名	食堂食材・食堂委託管理他	食堂食材・食堂委託管理他	36,318,817 *4	未払金	2,556,862
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱湘南ふれあいの園 *3	神奈川県茅ヶ崎市	5百万円	有料老人ホーム経営	-	1名	シニアホテル東戸塚サウスイング電気料他	シニアホテル東戸塚サウスイング電気料他	20,643,389 *4	未払金	1,154,331
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱リート商会 *3	神奈川県茅ヶ崎市	3百万円	清掃業務、自動車修理業務	-	-	清掃管理、自動車修理他	清掃管理、自動車修理他	78,556,108 *4	未払金	6,495,123

注*1 当法人は銀行借入に対して理事長大屋敷美志枝より債務保証を受けている。

なお、保証料の支払は行っていない。

注*2 収益事業に係る取引も含んでいる。

注*3 理事長大屋敷美志枝及びその近親者が議決権の100%を直接所有している。

注*4 市場価格を勘案して一般取引条件と同様に決定している。

⑦学校間財務取引

該当なし

Ⅵ 施設・設備報告

2026 年 3 月現在 学校法人所有財産の状況は次のとおりである。

校地	所 在 地	計 m ²
湘南医療大学	神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番49	7,921.62 m ²
	神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番5 他	18,872.36 m ²
	神奈川県横浜市中区山手町27番1 他 ※	10,973.00 m ²
	(グラウンド隣接地) 神奈川県横浜市戸塚区汲沢6丁目1869-2	169.00 m ²
	計	37,935.98 m ²
みどり幼稚園	神奈川県横浜市戸塚区汲沢二丁目1682番 他	2,929.00 m ²
茅ヶ崎看護専門学校	神奈川県茅ヶ崎市今宿字生神場383-4 他	1,477.64 m ²
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	神奈川県茅ヶ崎市南湖一丁目3690-4 他	3,752.04 m ²
医療ビジネス観光福祉専門学校	神奈川県相模原市南区上鶴間本町三丁目2850-1 他	1,106.50 m ²
湘南医療大学附属下田看護専門学校	静岡県下田市柿崎字腰越288-1 他	3,498.57 m ²
	静岡県下田市柿崎腰越289	717.35 m ²
	計	4,215.92 m ²
湘南医療大学附属下田看護専門学校学生寮	静岡県下田市柿崎字孫ノ段736-4 他	1,322.86 m ²
合計		52,739.94 m ²

校舎	所 在 地	構 造	計 m ²
湘南医療大学	神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16番地48 16番地15	鉄筋コンクリート造 陸屋根・合金メッキ鋼板ぶ き9階建他	13,588.09 m ²
	神奈川県横浜市中区山手町 27番地1 27番地16 47番地2 47番地1 神奈川県横浜市中区元町五丁目 220番地4	鉄筋コンクリート造陸屋根 地下1階付5階建	9,296.80 m ²
	グラウンド隣接休憩所	神奈川県横浜市戸塚区汲沢六丁目1869-2	157.33 m ²
	小計		23,042.22 m ²
幼保連携型認定こども園 みどり幼稚園	神奈川県横浜市戸塚区汲沢二丁目 1670-2	鉄骨造合金メッキ 鋼板ぶき2階建	443.46 m ²
	神奈川県横浜市戸塚区汲沢二丁目 1702-1 1682 1682-3 1670-6	鉄筋コンクリート造陸屋根地下 1階付2階建	733.23 m ²
	小計		1,176.69 m ²
茅ヶ崎看護専門学校	神奈川県茅ヶ崎市今宿字生神場 385番地1 384番地1 386番地1 387番地3 390番地	鉄骨造陸屋根4 階建	2,893.32 m ²
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	神奈川県茅ヶ崎市南湖一丁目 3690番地5	鉄骨造垂鉛メッキ 鋼板葺3階建	4,490.96 m ²
	神奈川県茅ヶ崎市南湖一丁目 4617番地1	鉄骨造陸屋根・垂 鉛メッキ鋼板葺3階 建	1,234.58 m ²
	小計		5,725.54 m ²
医療ビジネス観光福祉専門学校	神奈川県相模原市南区上鶴間本町 三丁目2850番地1 2856番地3	鉄骨鉄筋コンクリート 造陸屋根地下1 階付14階建	4,360.56 m ²
湘南医療大学附属 下田看護専門学校	静岡県下田市柿崎字腰越289番地 静岡県下田市柿崎字吉ノ上1188番地1 静岡県下田市柿崎字寺ノ上1192番地 1193番地12 1～3階部分	鉄筋コンクリート造 瓦葺3階建	2,846.76 m ²
	静岡県下田市柿崎289番地 講堂	鉄筋コンクリート造 コンクリート屋根 平屋建	361.37 m ²
	小計		
湘南医療大学附属 下田看護専門学校 学生寮	静岡県下田市柿崎字孫ノ段 736番4 737番6	鉄筋コンクリート造 陸屋根5階建	
	静岡県下田市柿崎字矢合1084番地11		1,773.99 m ²
	小計		42,180.45 m ²

Ⅶ 生涯学習事業報告

湘南医療大学看護キャリア開発コアセンターでは、看護師実習指導者講習会、認定看護管理者（ファーストレベル、セカンドレベル）を開講した。

また、地域医療、福祉系への協力事業としては、介護系では、介護職員初任者研修、福祉系では、社会福祉士国家試験対策講座、社会福祉士実習指導者講習会を開講した。

Ⅷ 収益事業の状況

(収益事業会計)

貸 借 対 照 表

2026年 3月 31日 現在

(単位:円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
[流 動 資 産]	4,156	[流 動 負 債]	780,488
前払費用	4,156	一年内返済長期借入金	617,728
		前受金	137,000
		未払金	25,760
[固 定 資 産]	59,686,405	[固 定 負 債]	2,470,831
(有形固定資産)	59,686,405	長期借入金	2,470,831
建物	26,915,384		
土地	32,771,021	負債の部合計	3,251,319
		純 資 産 の 部	
		[元 入 金]	345,344,837
		[利 益 剰 余 金]	△ 288,905,595
		繰越利益剰余金	△ 288,905,595
		純資産の部合計	56,439,242
資産の部合計	59,690,561	負債・純資産の部合計	59,690,561

IX 監査報告

2025 年度は、下記の監査対象校の内部監査及び監事監査を以下の通り実施した。

【業務監査】

監査対象校	内部監査	監事監査	結果
湘南医療大学	2025 年 9 月 24 日	2026 年 3 月 25 日	適性な運営であることが確認された。
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	2025 年 9 月 1 日	2026 年 3 月 25 日	適性な運営であることが確認された。

※監事監査はオンラインにて実施。

【会計監査】

2026 年 5 月 20 日 公認会計士より監事 2 名が 2025 年度の予算執行状況等の説明を受け、適切な運営であることが説明された。

監 査 報 告 書

2026 年 6 月 2 日

学校法人 湘南ふれあい学園
理 事 会 御中

学校法人 湘南ふれあい学園

監 事 金 井 清 吉

監 事 竹 俣 耕 一



私たちは、学校法人湘南ふれあい学園の監事として、私立学校法第 52 条第 1 項第 1 号及び学校法人湘南ふれあい学園寄附行為第 29 条に基づき、学校法人湘南ふれあい学園の 2025 年度（2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで）における財産目録及び計算書類等（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び附属明細書、事業報告書及び附属明細書並びに所轄庁に提出する各種内訳表）を含め、学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会、評議員会及びその他重要な会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するとともに、会計監査人と連携し、必要と思われる監査手続きを実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は、会計帳簿の記載と合致し、学校法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、理事の業務執行は適切であり、学校法人の業務及び財産並びに理事の業務執行に関し、不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上

監 査 報 告 書

2026 年 6 月 2 日

学校法人 湘南ふれあい学園
評議員会 御中

学校法人 湘南ふれあい学園

監 事 金 井 清 吉

監 事 竹 俣 耕 一



私たちは、学校法人湘南ふれあい学園の監事として、私立学校法第 52 条第 1 項第 1 号及び学校法人湘南ふれあい学園寄附行為第 29 条に基づき、学校法人湘南ふれあい学園の 2025 年度（2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで）における財産目録及び計算書類等（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び附属明細書、事業報告書及び附属明細書並びに所轄庁に提出する各種内訳表）を含め、学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会、評議員会及びその他重要な会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するとともに、会計監査人と連携し、必要と思われる監査手続きを実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は、会計帳簿の記載と合致し、学校法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、理事の業務執行は適切であり、学校法人の業務及び財産並びに理事の業務執行に関し、不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上

(3)経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策
学校法人湘南ふれあい学園の経営状況の分析(過去5年間)、経営上の成果と課題
下記の財務比率は、経営状況、負債の状況、及び将来の備えに対する資産の保有状況の実施結果の分析を示している。

資料1

比率名	計算式	R03	R04	R05	R06	R07	R06-R07対比	経営上の成果と課題(自己点検・評価)
① 経営状況								
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入	12.3%	-24.8%	-10.7%	-4.2%	-7.9%	悪化	教育・研究などの事業活動における収支のバランスを示す。赤字幅が悪化し、収支の改善が必要な状況が続いている。
② 負債に備える資産の蓄積状況								
内部留保資産比率	(運用資産-(総負債))/総資産	-4.4%	-5.5%	-15.1%	-13.8%	-15.4%	悪化	法人が自己資金として保有する「純資産(=資産-負債)」の割合を示す。R06でやや改善したが、現金預金が減少したことで、悪化した。今後も、寄付金、補助金等の獲得を強化して資産の増強を図る。
運用資産余裕比率(年)	(運用資産-外部負債)/経常支出	71.0%	-22.2%	-24.1%	-15.9%	-18.2%	減少	何年分の経常支出に相当する資産的余裕があるかを示す。薬学部設置後、マイナスが続く。経常支出を圧縮し、安定的収入源の確保を行う必要がある。
流動比率	流動資産/流動負債	81.9%	75.0%	70.4%	168.4%	146.2%	減少	短期的な支払い能力を示す。流動負債が減少(借入返済等)したが、固定負債の返済により現金預金が減少したため、昨年より悪化した。今後も安定的な流動性管理を維持する。
前受金保有率	現金預金/前受金	258%	218%	201%	212%	195%	減少	当該年度に収受している翌年度分の授業料や入学金等が、翌年度繰越支払資金たる現金預金の形で当該年度末の保有比率が100%を超えており、問題は無い。
③ 負債水準の状況								
固定負債構成比率	固定負債/(総負債+純資産)	5.9%	5.8%	4.7%	19.5%	18.7%	微減	施設整備計画や手元資金の状況に比してこの比率が高い場合、経営上の留意が必要となる。
流動負債構成比率	流動負債/(総負債+純資産)	26.7%	28.0%	26.8%	12.1%	13.1%	増加	当該比率は、低い方が好ましい。
総負債比率	総負債/総資産	22.4%	22.3%	31.6%	31.6%	31.8%	変化なし	当該比率50%以下は、負債総額が純資産を下回っていることを示す。本学園の財務安全性は確保されている。
負債比率	総負債/純資産	32.1%	32.3%	46.1%	46.2%	46.6%	微増(悪化)	当該比率が100%以下であるため、他人資金である総負債が自己資金である純資産を下回っている。
④ 将来支出に備える保有資産の状況								
積立率	運用資産(現金預金+特定資産+有価証券)/要積立額(減価償却累計額+退職給与引当金+第2号基金+第3号基金)	108.5%	82.6%	69.0%	65.4%	52.9%	減少	令和5年度の当該率の大学平均は、71.9%であり、本学園は、平均を下回っている。減価償却累計額はR3年からR7年度末で約20億59百万円増加している。

※総負債には、内部負債である「退職給与引当金」及び「前受金」を算入しないことを原則とした。

資料2 運用資産及び外部負債の金額

下記の表より、運用資産は減少かつ外部負債も増加している。ただし、積立額も大幅に増加しているため、運営が安定していることを示している。

(千円)								
項目	計算式	R03	R04	R05	R06	R07	R03-R07間傾向	
運用資産	現金預金+特定資産+有価証券	3,425,420	3,051,780	2,915,055	3,110,868	2,789,551	-635,869	減少
外部負債	総負債-(退職給与引当金+前受金)	4,269,328	4,037,835	3,971,181	3,878,227	3,781,319	-488,009	減少
積立額	減価償却累計額+退職給与引当金+第2号基金+第3号基金	3,157,862	3,692,429	4,222,750	4,755,649	5,273,809	2,115,947	増加

資料3 総資産基本金組入前当年度収支差額比率関連指標 (百万円)

総資産	17,009
事業活動収入	4,159
基本金組入前当年度収支差額	-327
総資産基本金組入前当年度収支差額比	-1.9%
基本金組入前当年度収支差額比	24.5%
総資産回転率	0.2 回転

湘南医療大学 2025 年度卒業時アンケート

アンケートの概要

○実施日：2026 年 2 月中旬～3 月上旬

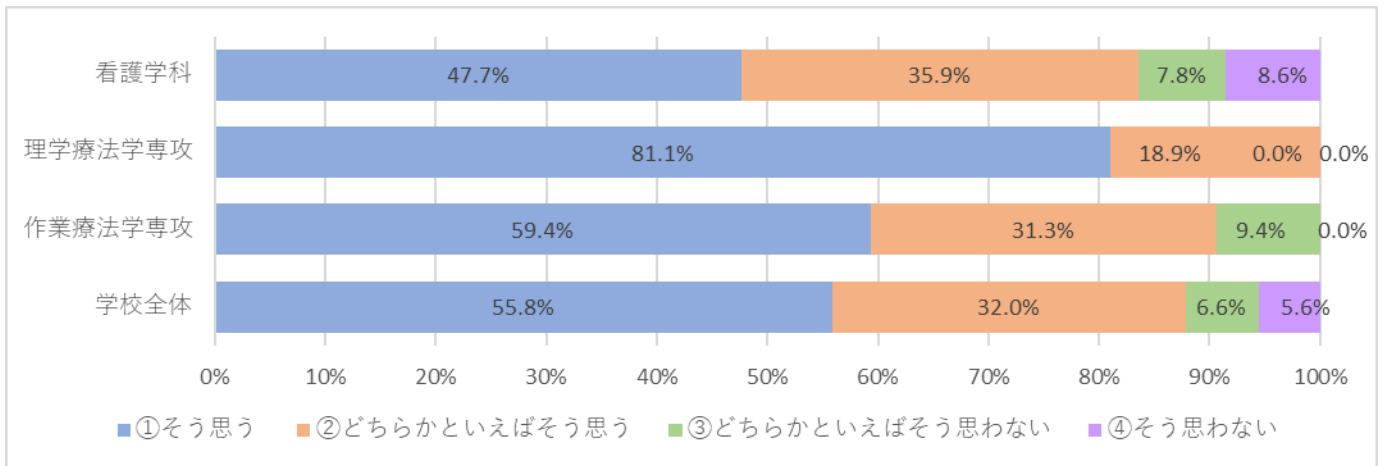
○回答者の属性について

1) 学科専攻

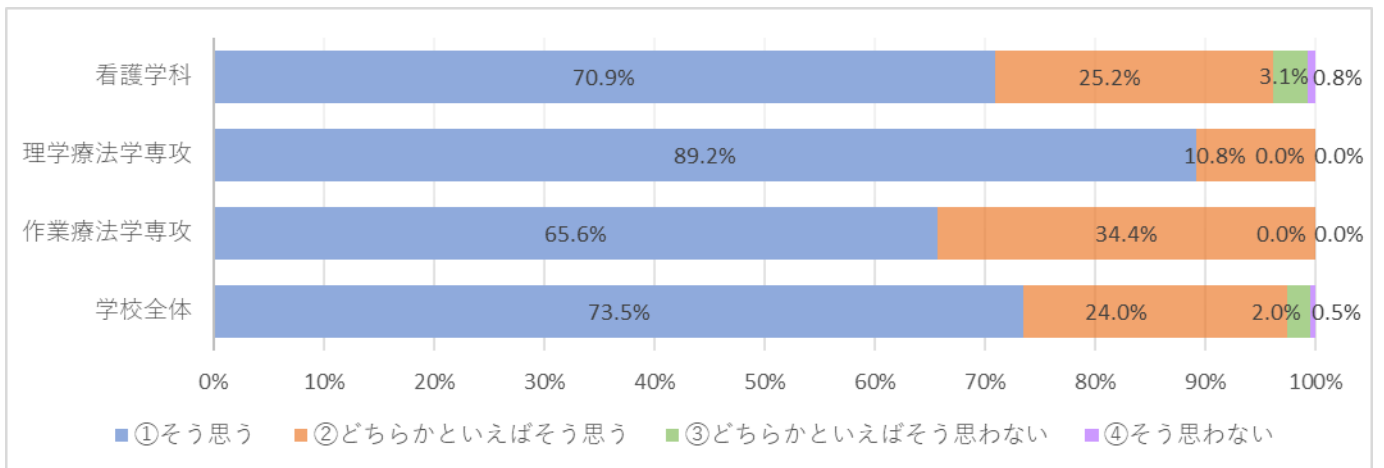
学科専攻名	回答数	卒業生数
看護学科	128	130
理学療法学専攻	37	38
作業療法学専攻	32	33
学校全体	197	201

I 入学時の期待

2) 本学は入学を希望していた大学でしたか。

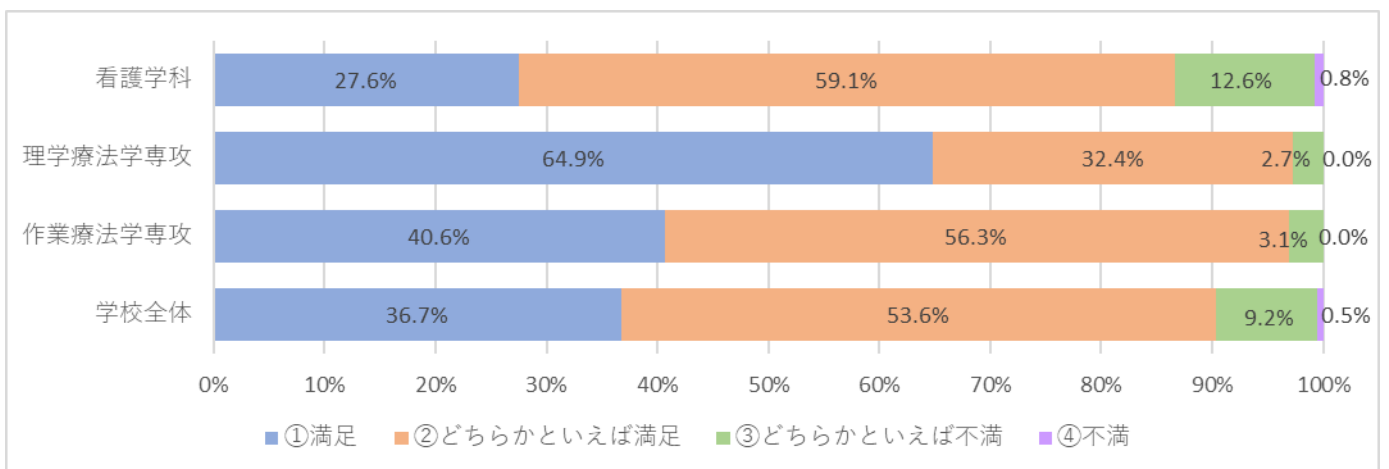


3) 学部学科専攻は希望通りでしたか。

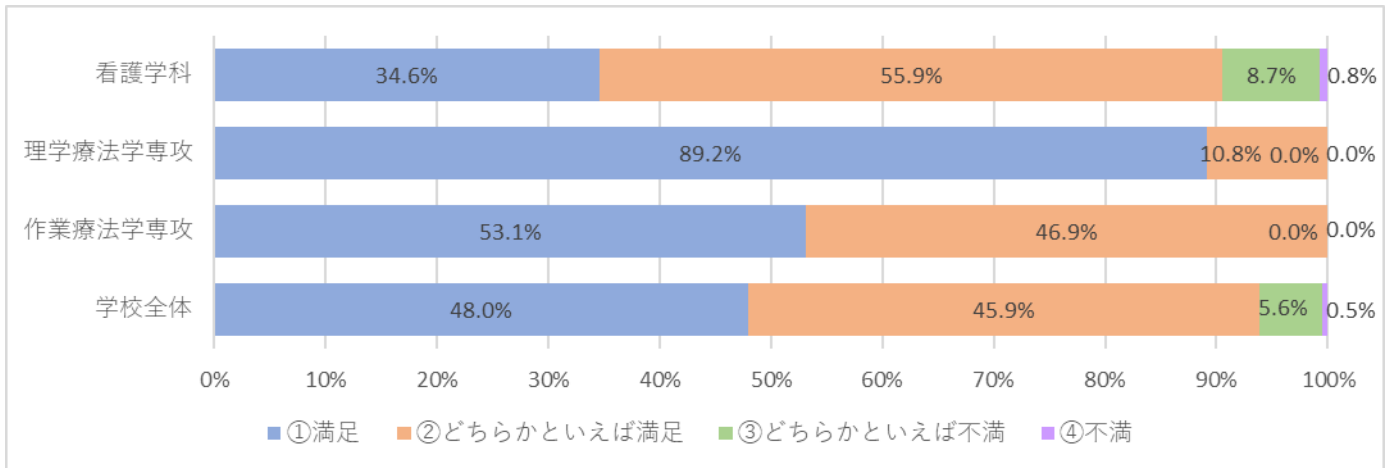


II 本学における教育内容について

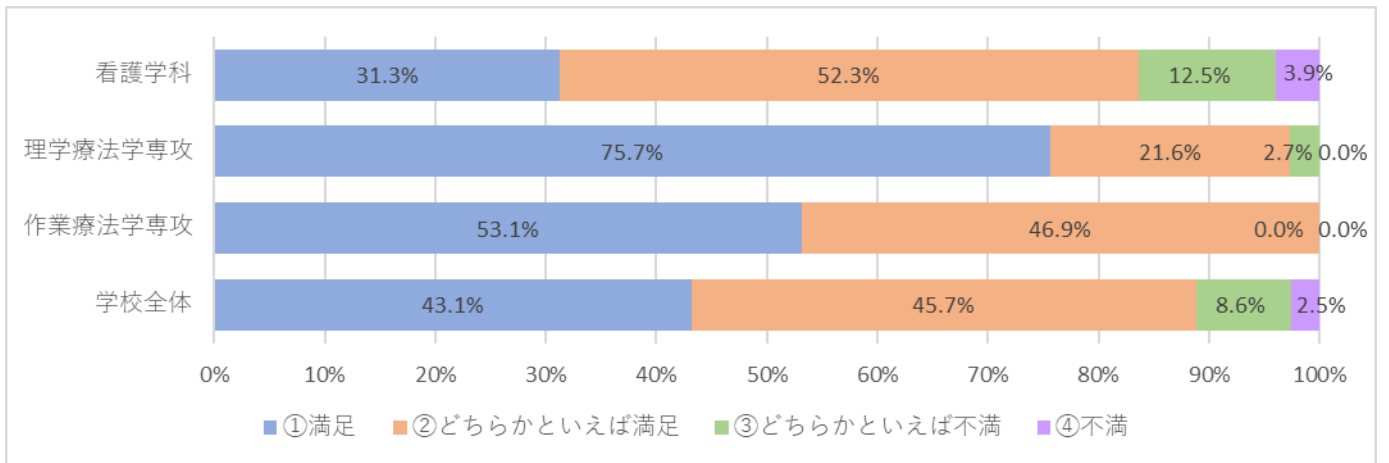
4) 共通科目である語学や人文科学系について



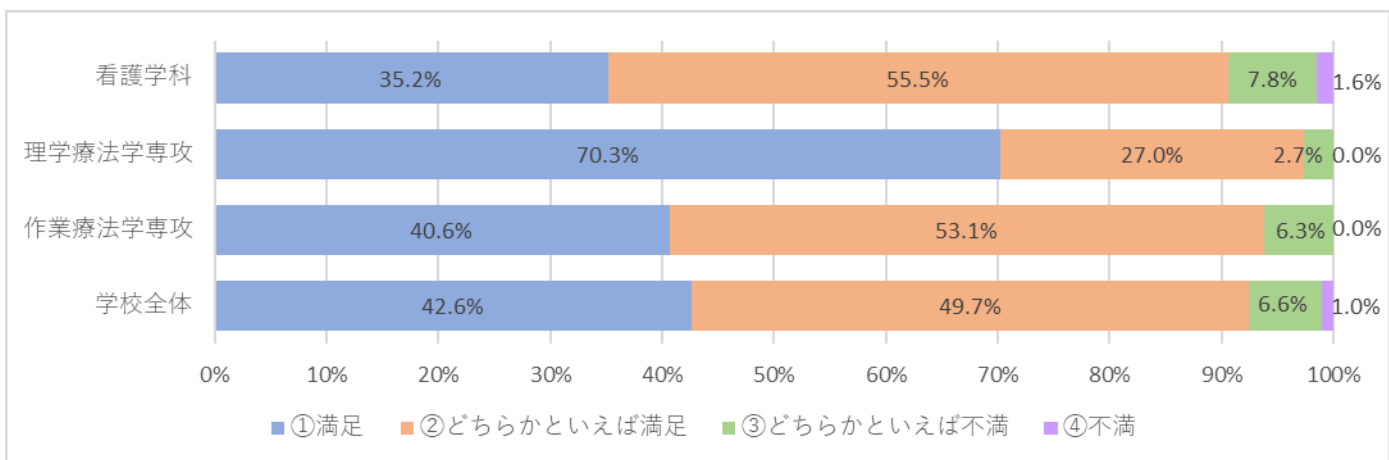
5) 学科専攻の専門科目について



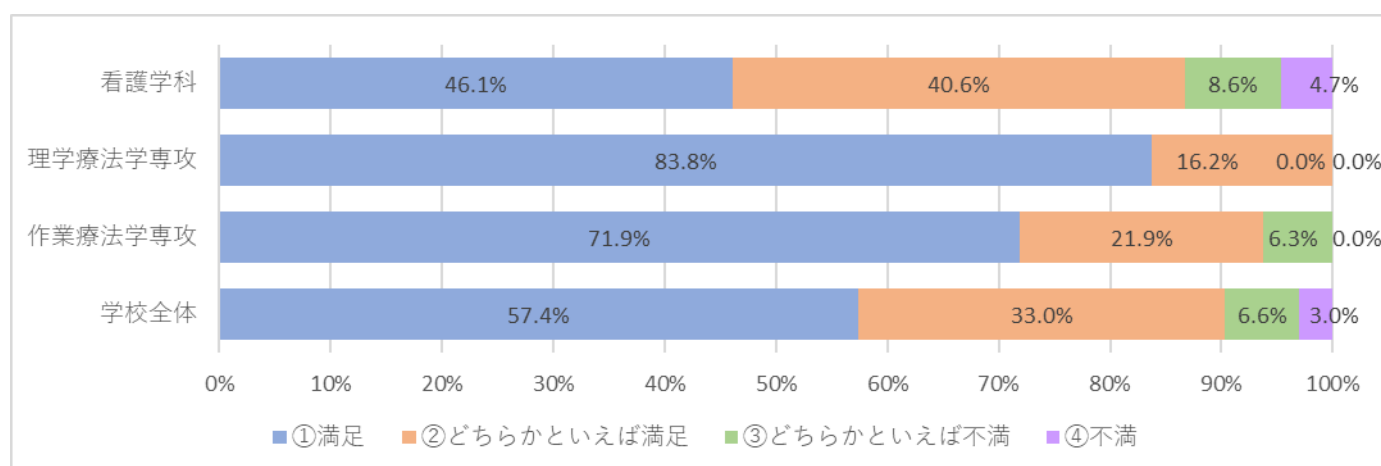
6) 臨地・臨床実習について



7) 看護研究・統合実習（看護研究も含む）、理学療法卒業研究、作業療法研究法・作業療法研究法演習について

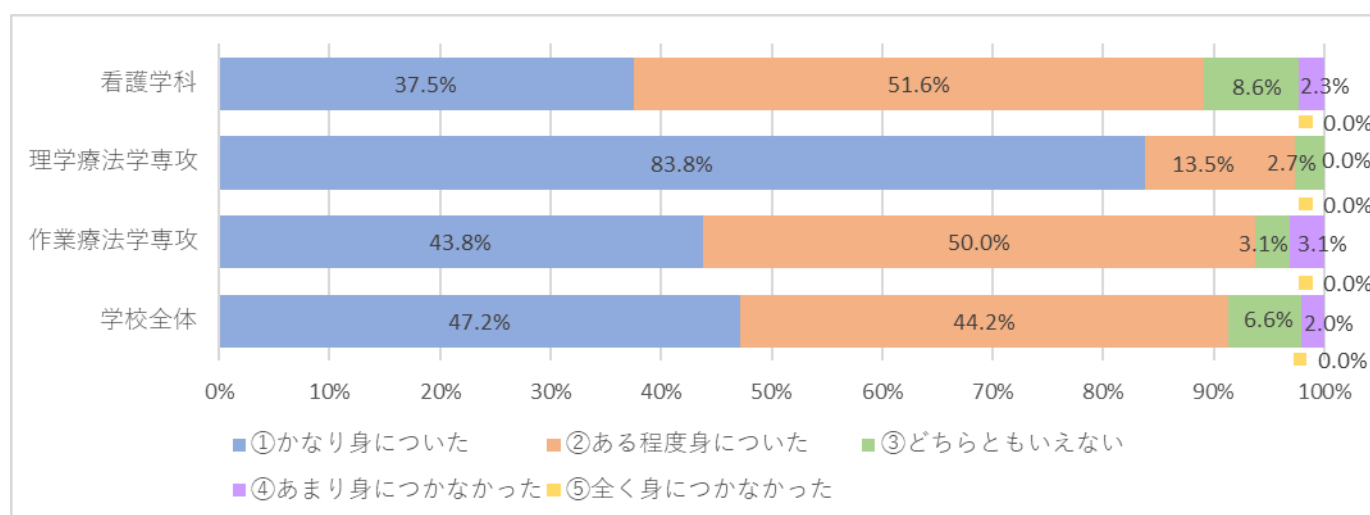


8) 国家試験対策について

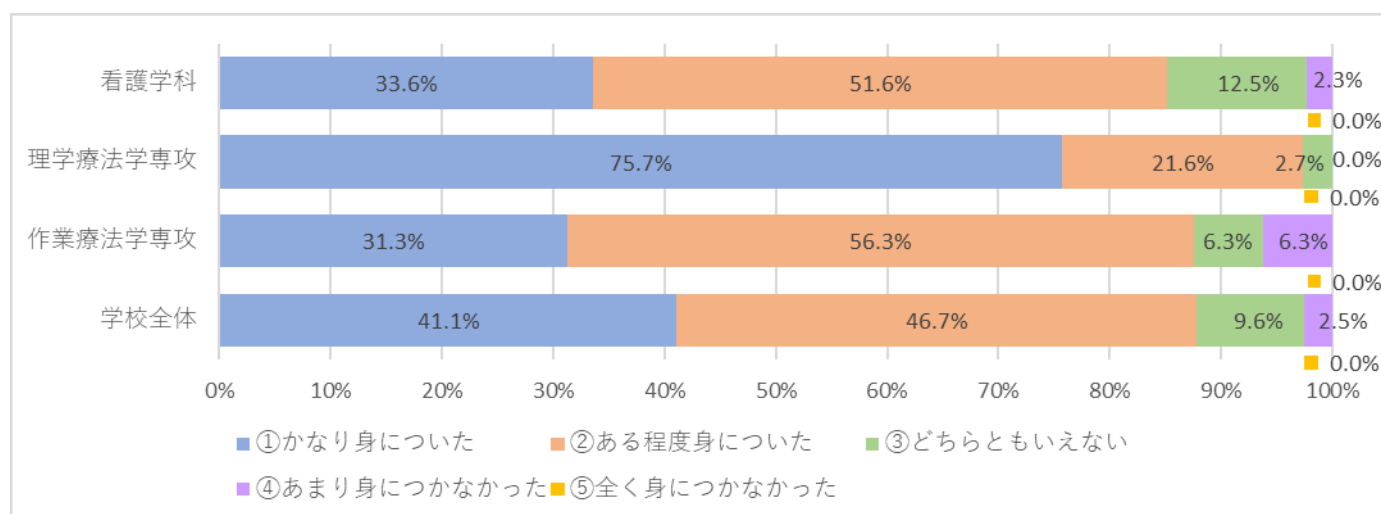


Ⅲ 在学中の成長

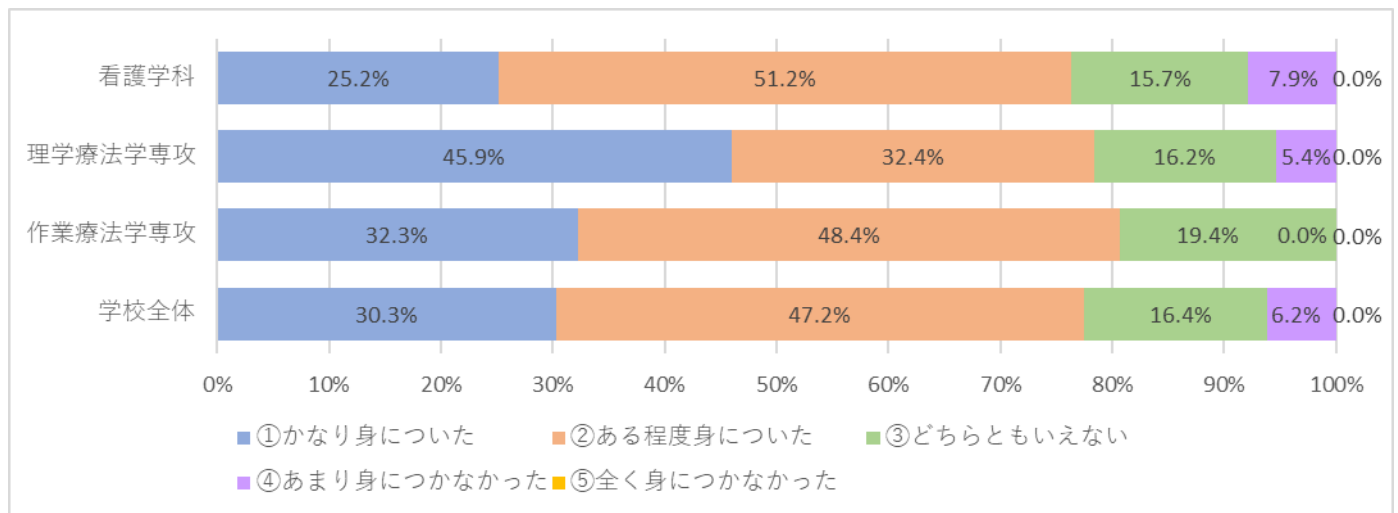
9) 大学で学んだ専門職としての知識や技術を活かすこと



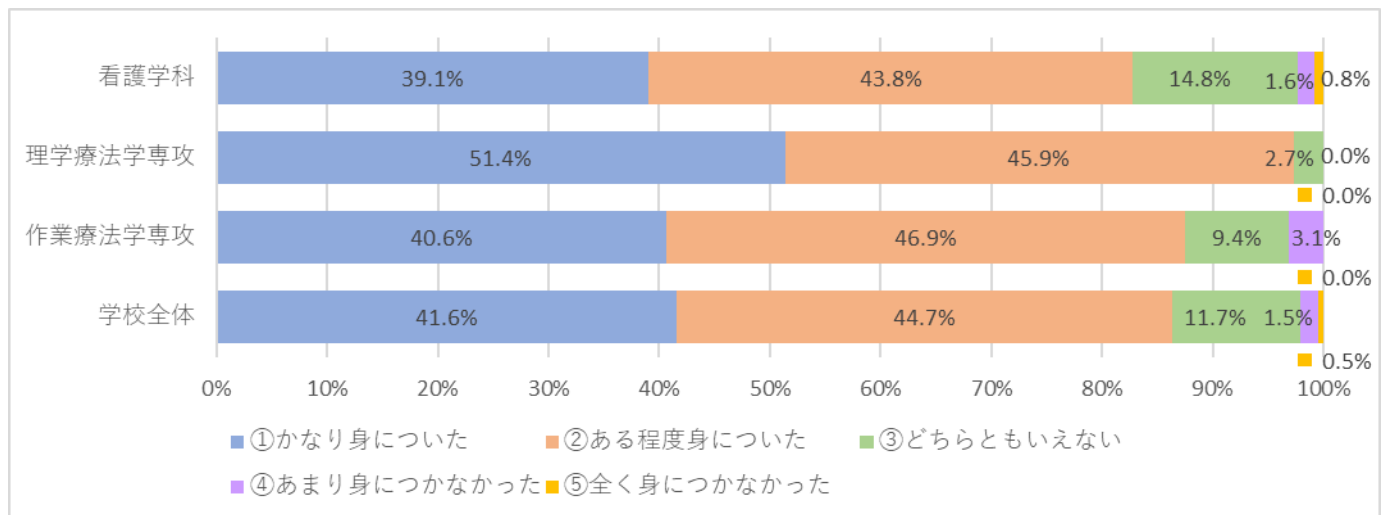
10) 問題・課題に対して自ら行動すること



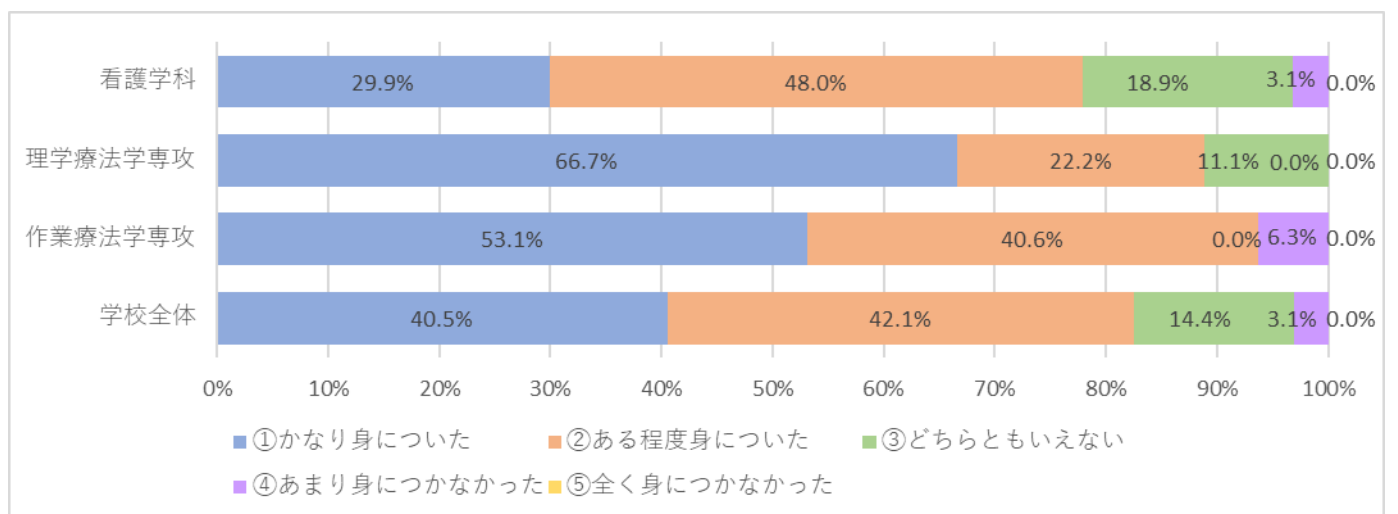
11) 他の職種と連携すること



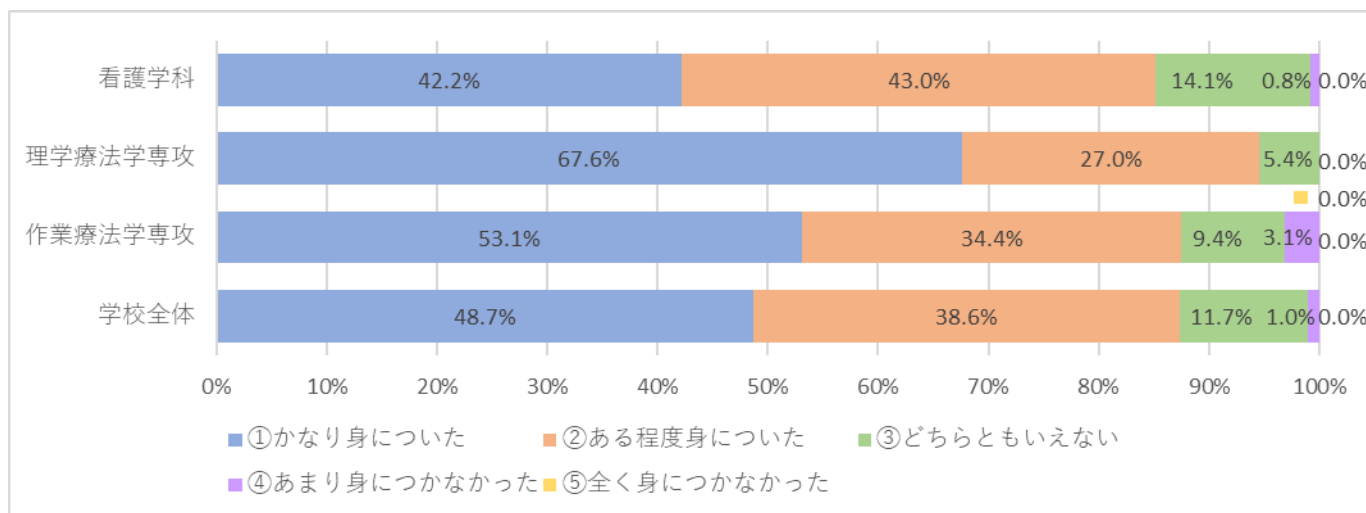
12) 他者とのコミュニケーションを通じ良好な関係を築くこと



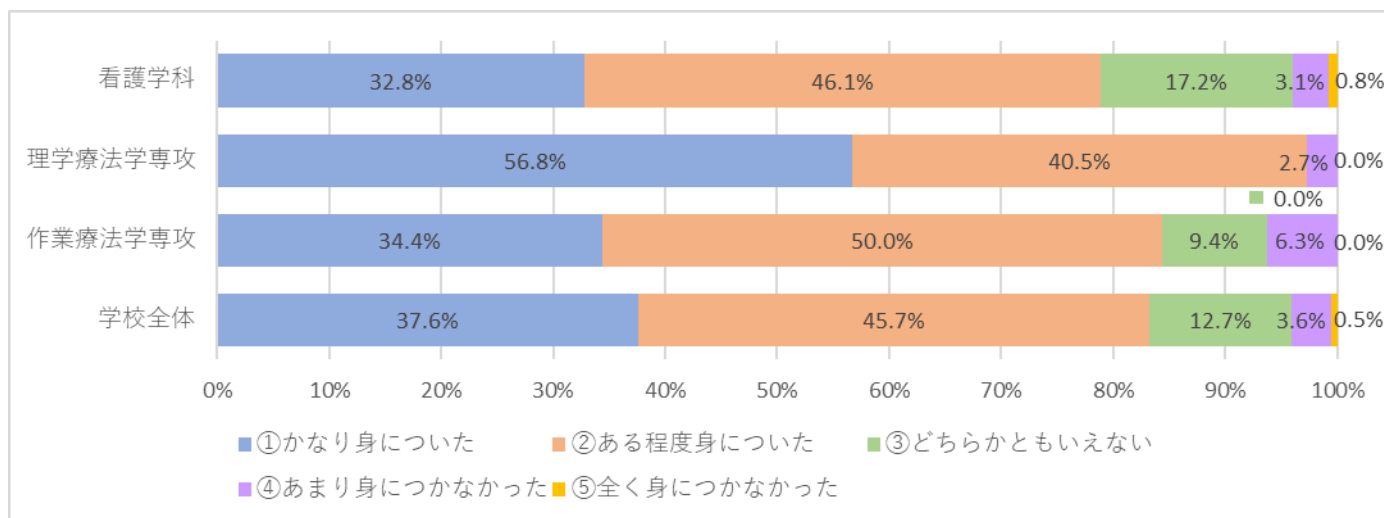
13) 大学で身につけたマナーや一般常識



14) 高い倫理観（社会生活を送る上でのきまりごとや守るべき道理）を持つこと

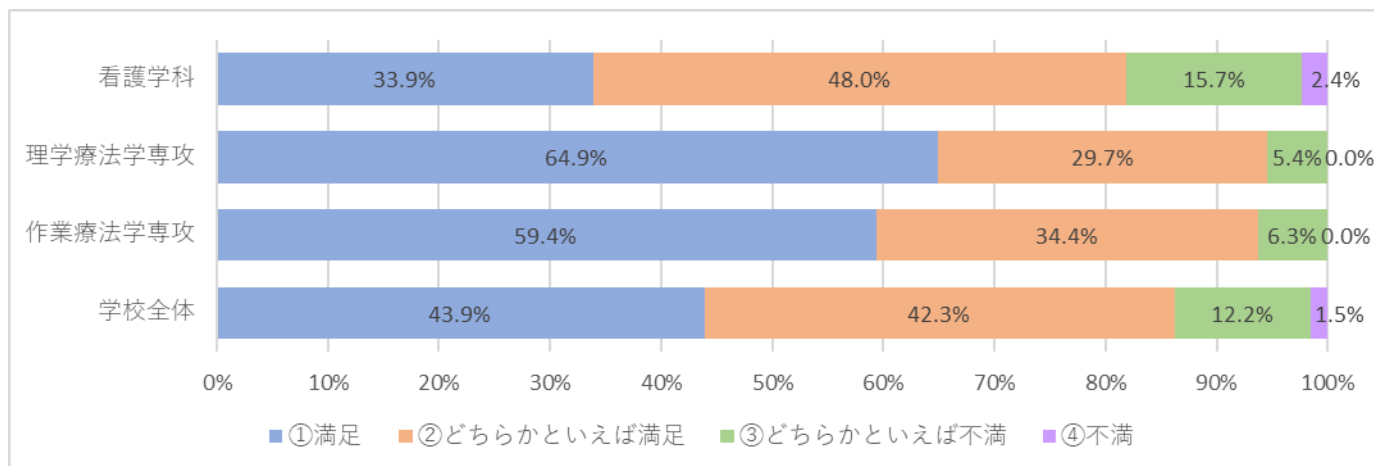


15) 自己研鑽に努めること

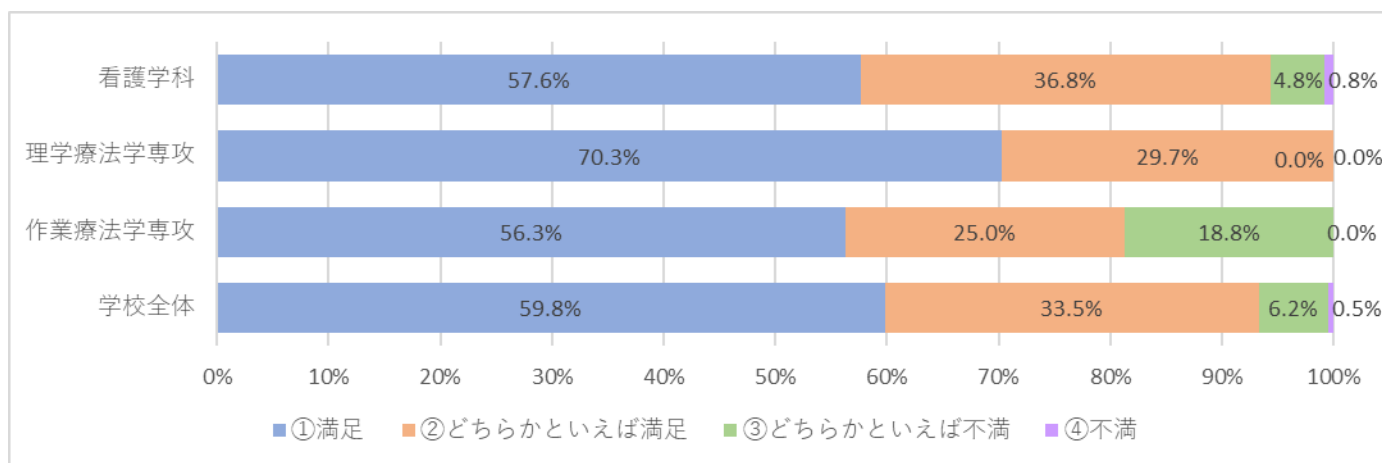


Ⅳ 本学における就職支援について

16) 就職支援に満足していますか。

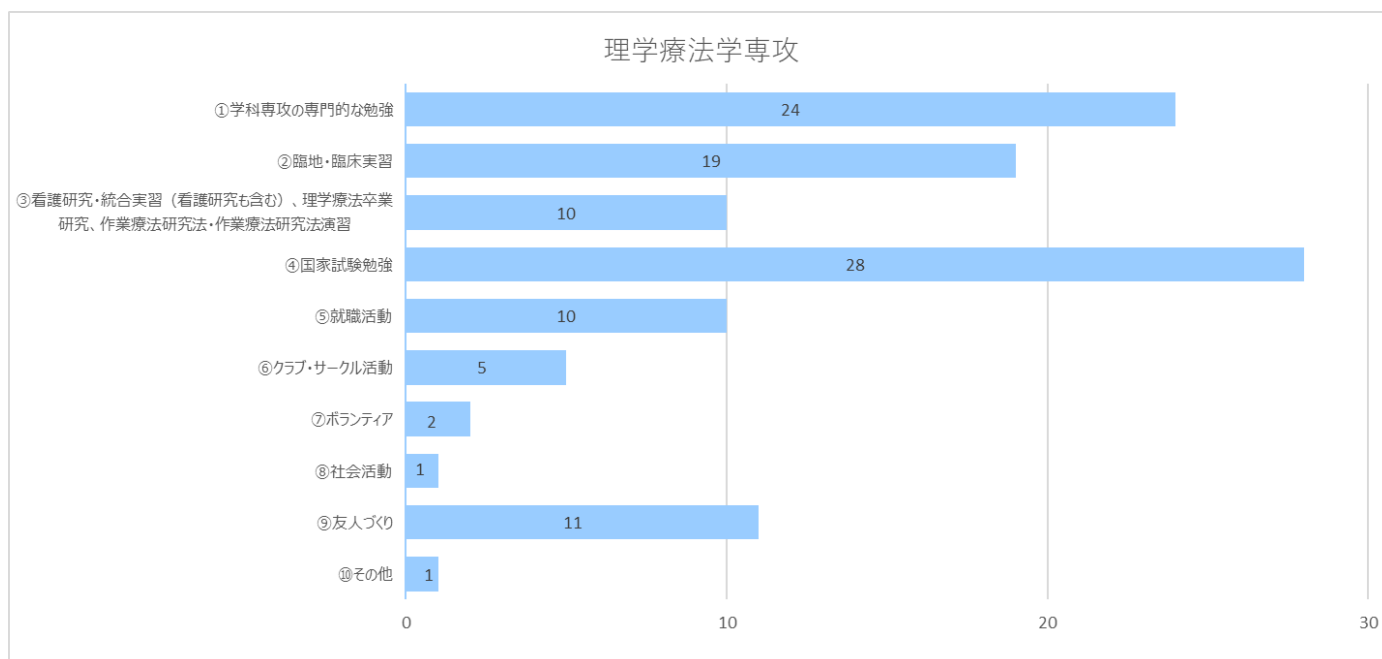
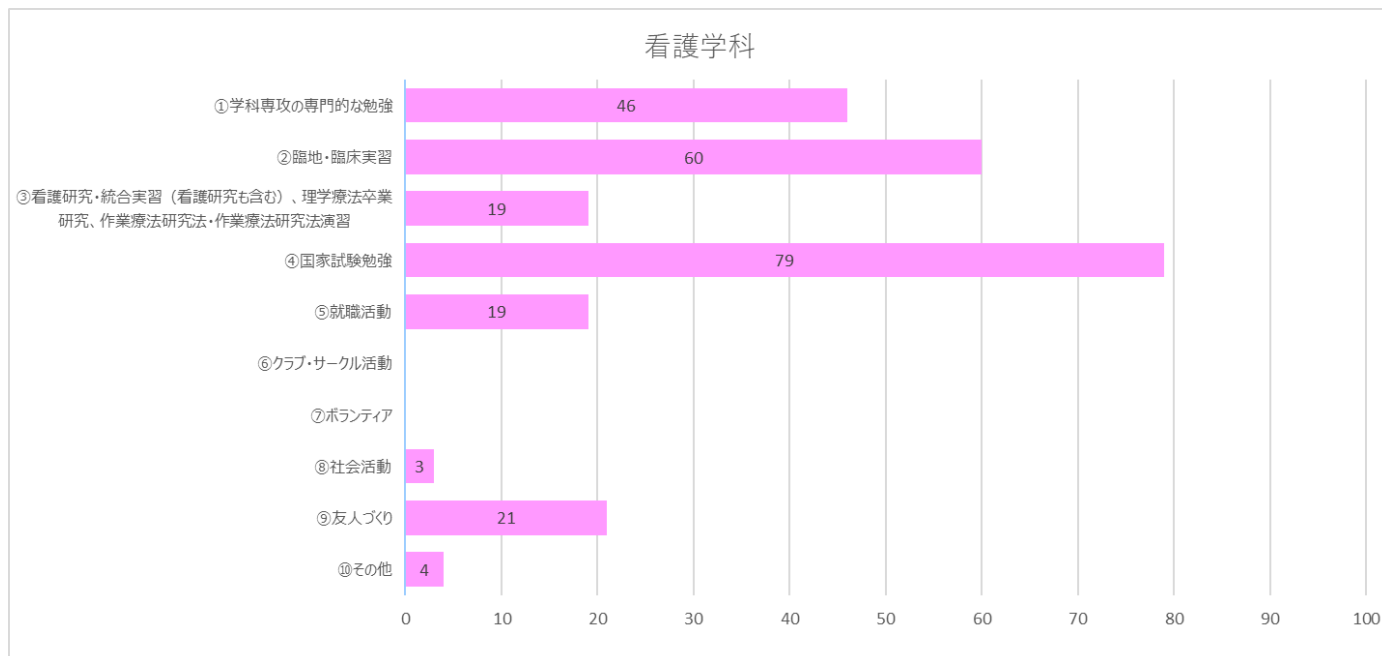


17) 最終的な卒業後の進路（就職・進学等）に満足していますか。

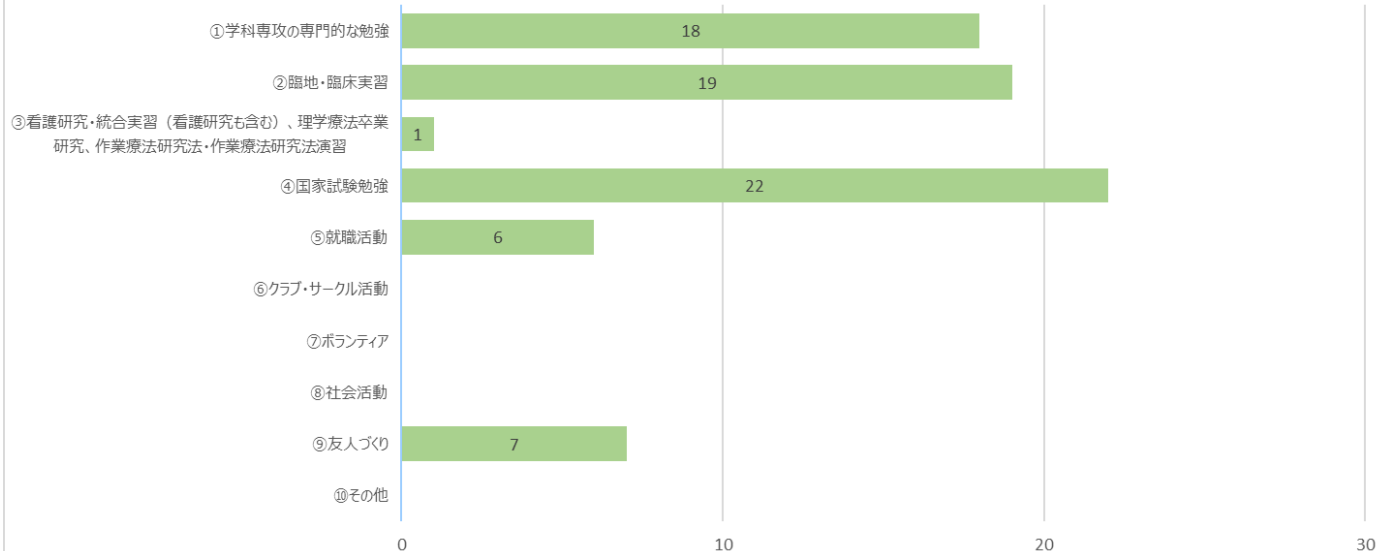


V キャンパスライフについて

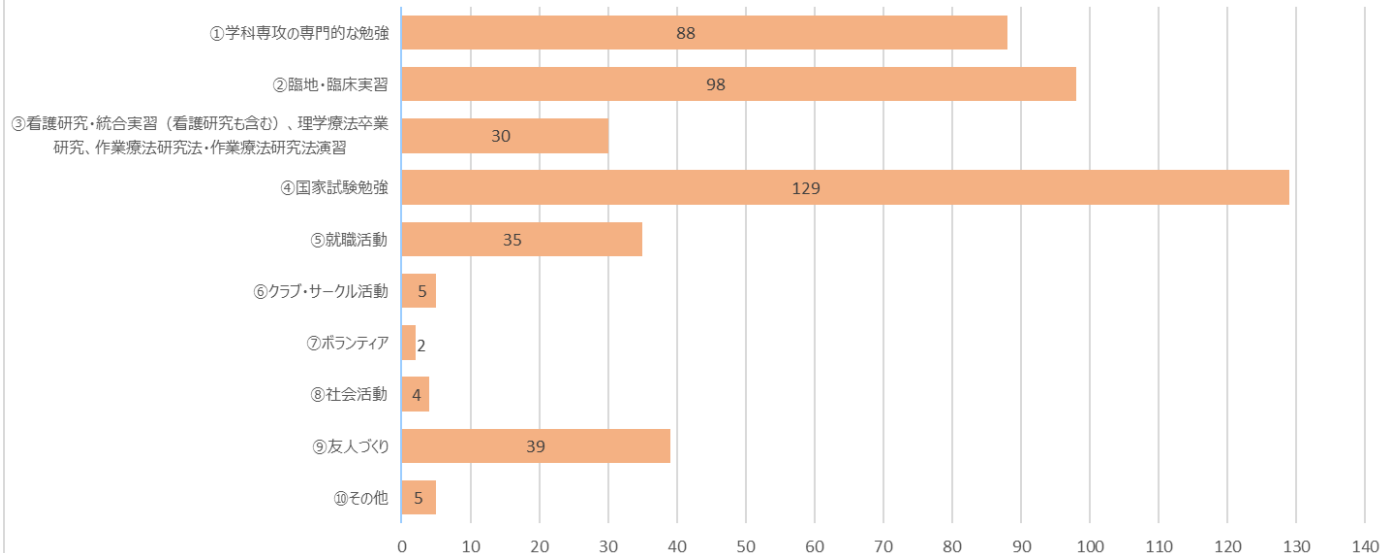
18) 本学在学中、力を入れた活動を選んでください。（複数回答可）



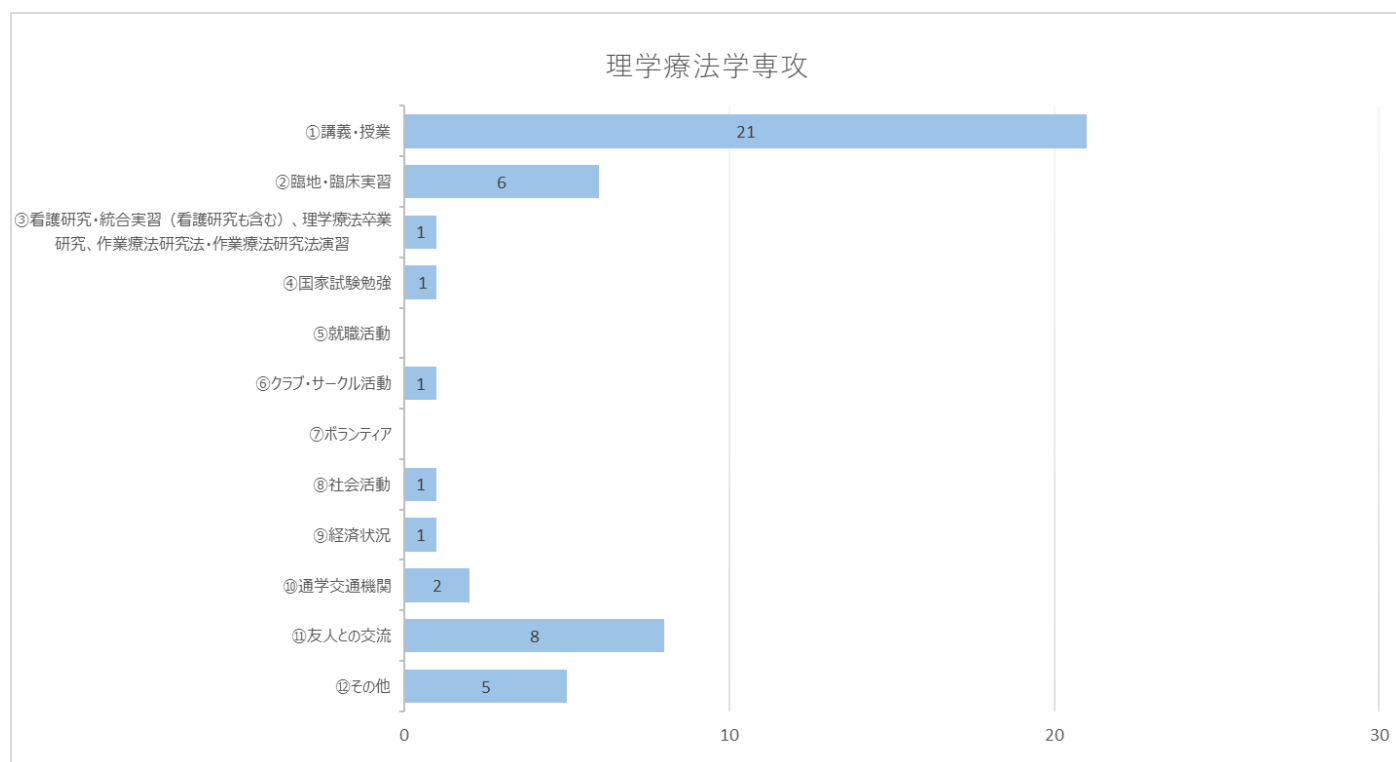
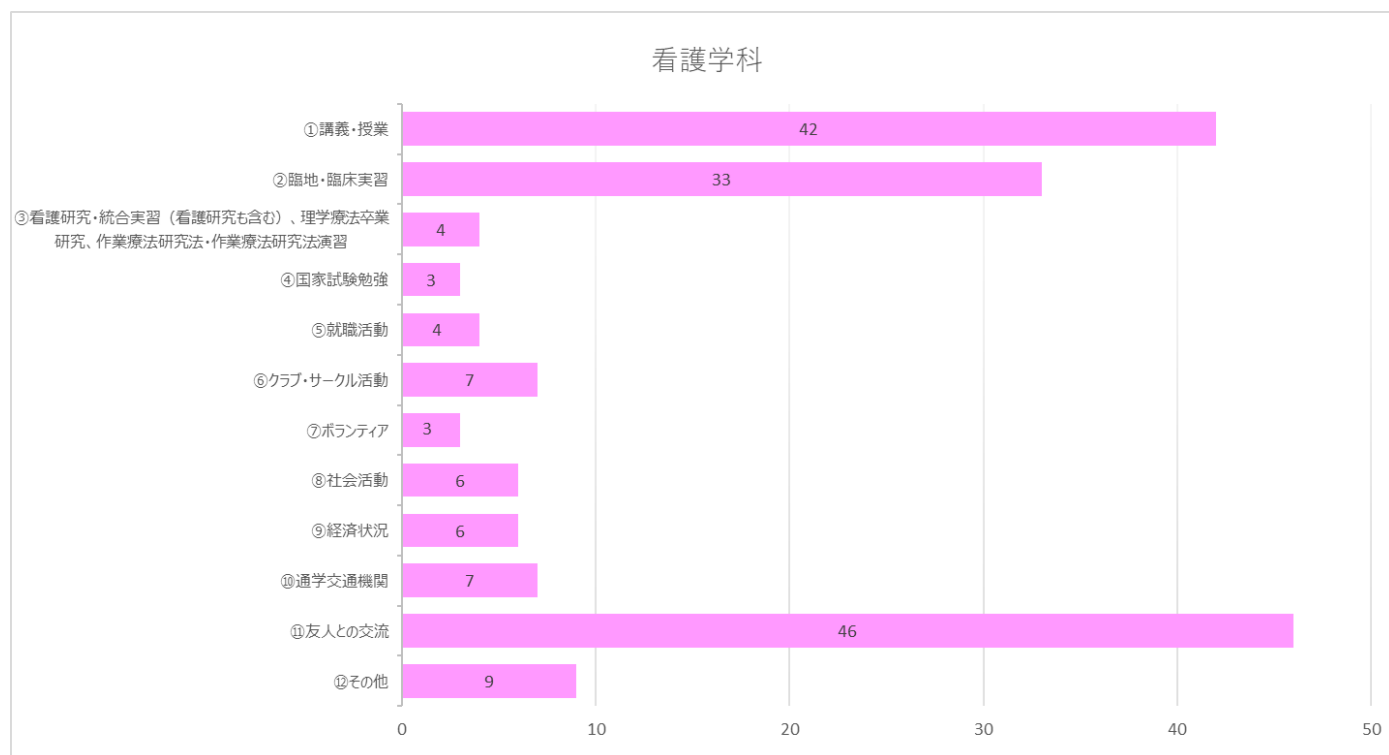
作業療法学専攻



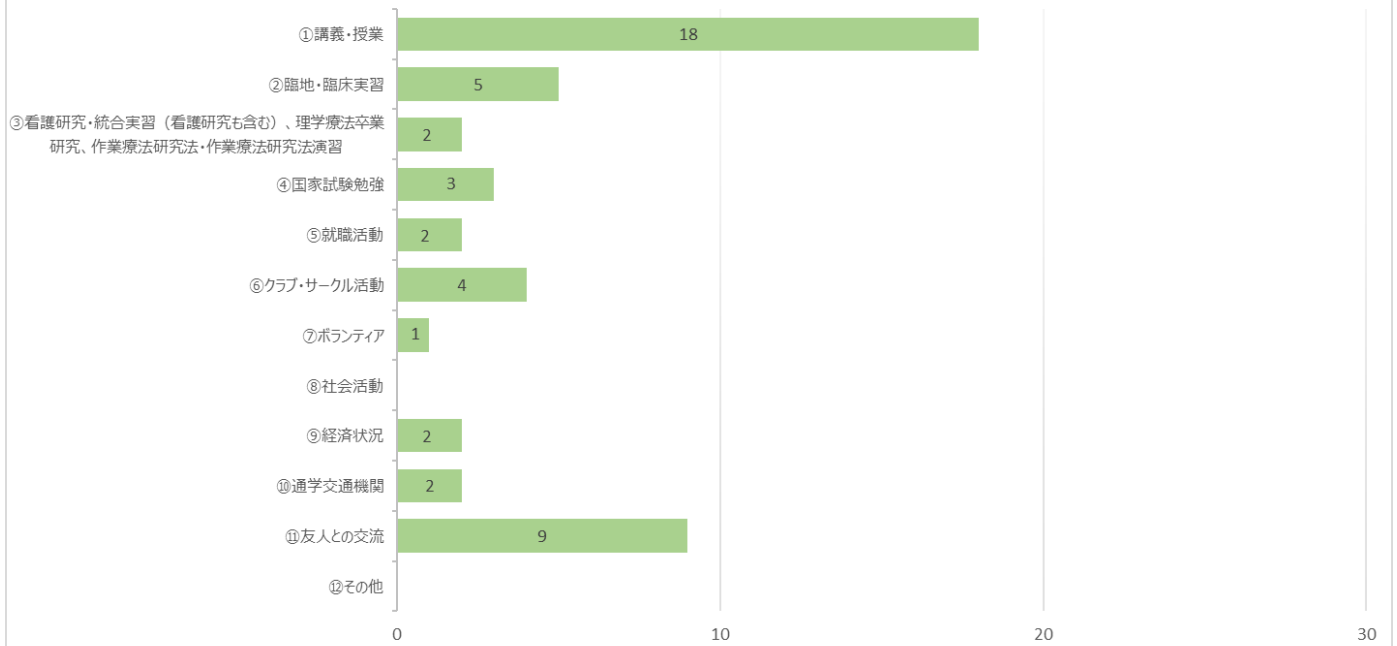
学校全体



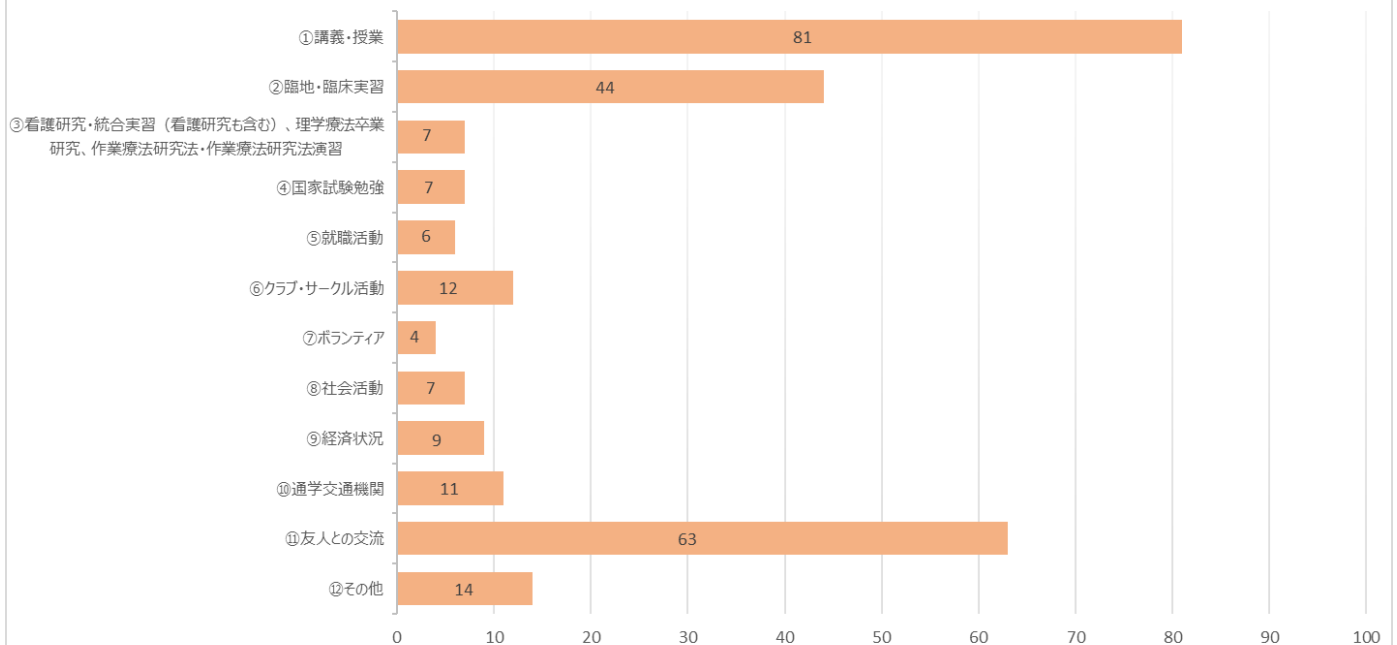
19) コロナ禍の中、あなたにとって大きな影響を受けたものを選んでください。（複数回答可）



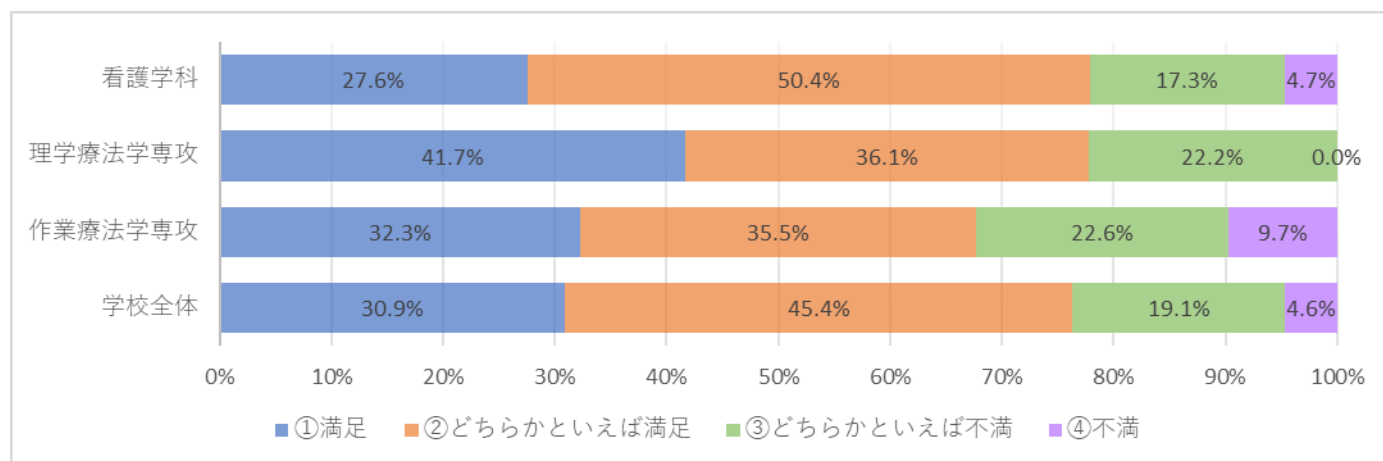
作業療法学専攻



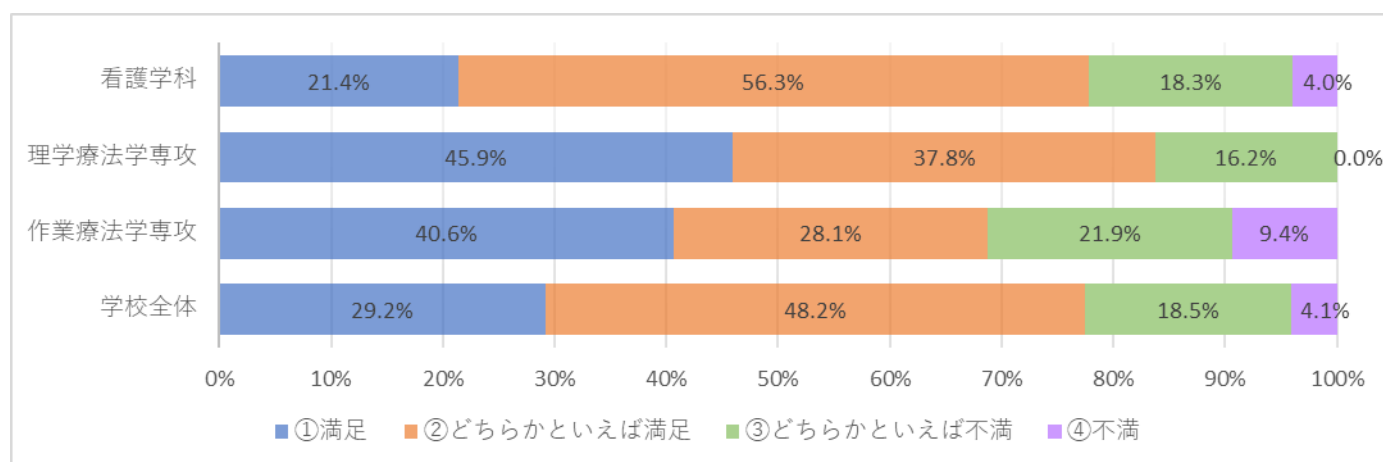
学校全体



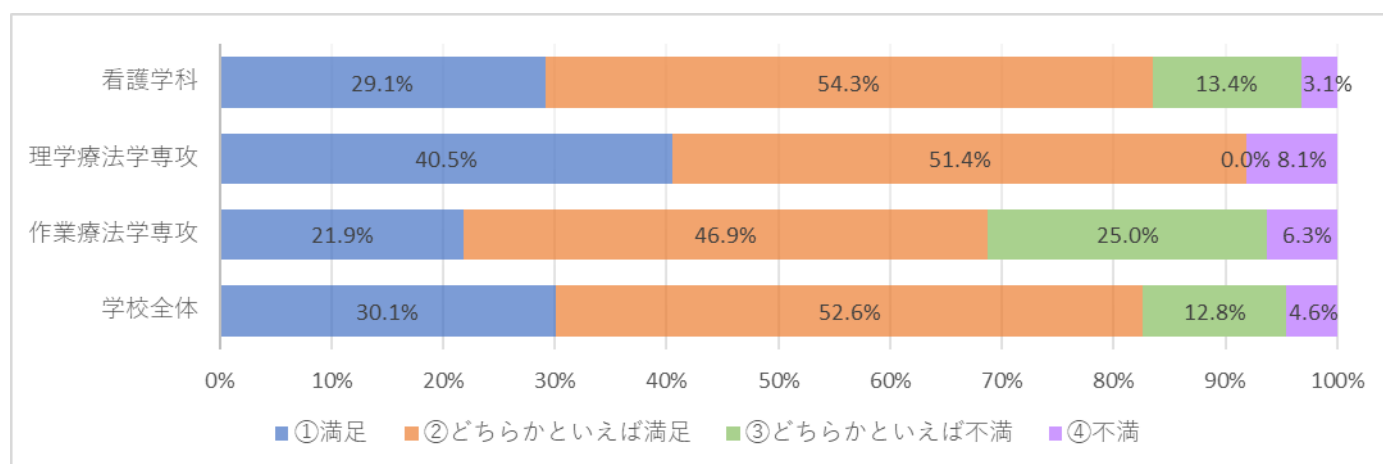
20) 食堂について



21) 売店について

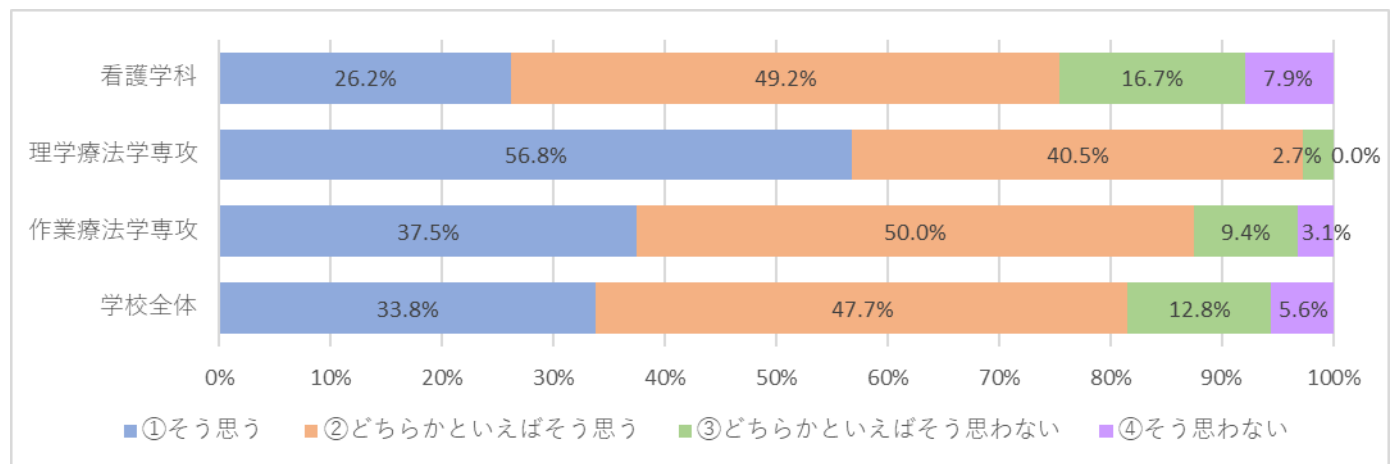


22) 自動販売機について



VI 総合的な評価について

23) 入学前と比較して『湘南医療大学は良い大学だ』という思いは強まりましたか。



24) あなたが4年間で『専門職に就く覚悟やモチベーション』が最も高まった科目は何ですか。

看護学科		理学療法学専攻		作業療法学専攻	
科目名	件数	科目名	件数	科目名	件数
統合実習	12	総合臨床実習	15	解剖学	5
臨地実習	10	解剖学	4	特になし	2
急性期看護実習	6	評価学実習	2	評価実習	2
プロフェッショナル論	5	実習	2	総合臨床実習	2
人体の構造・機能	4	チーム医療論	1	OT専門の科目全部	1
慢性期看護実習	3	国家試験対策	1	基礎作業学	1
看護倫理	2	基礎理学療法学	1	運動学	1
ナースングプロセス	2	リハビリテーション工学	1	総合臨床実習I	1
生命倫理学	2	理学療法評価学	1	作業療法管理・運営II	1
精神	2	文化人類学	1	実習	1
災害看護学	2	理学療法概論	1	倫理学	1
国家試験対策	2	義肢装具学	1	日常生活支援論	1
看護基盤実習	1			精神障害作業療法学	1
文学	1				
公衆衛生看護学系	1				
チーム医療論	1				
小児看護	1				
特になし	1				
チーム医療論II	1				
看護基盤実習II	1				
小児看護学	1				
成人看護学	1				

25) あなたが4年間で『湘南医療大学でこの科目を受講できて良かった』と思う科目は何ですか。

看護学科		理学療法学専攻		作業療法学専攻	
科目名	件数	科目名	件数	科目名	件数
人体の構造・機能	11	解剖学	11	解剖学	5
チーム医療論	8	解剖学実習	3	チーム医療論	2
統合実習	5	総合臨床実習	3	司法精神科作業療法	2
プロフェッショナル論	2	義肢装具学	3	特になし	1
チーム医療論II	2	倫理学	2	倫理学	1
看護倫理	2	リハビリテーション工学	2	作業療法評価学	1
精神	2	障害者スポーツ	1	田邊先生の授業全般	1
ナーシングプロセス	2	運動学	1	総合臨床実習	1
特になし	2	理学療法卒業研究	1	心理学	1
レクリエーションスポーツ	2	リハビリテーション概論	1	地域リハビリテーション実習	1
災害看護学	1	神経系理学療法	1	精神科についての授業	1
専門科目全般	1	実習	1		
臨地実習	1				
専門分野全て	1				
慢性期看護実習	1				
ない	1				
チーム医療論II	1				
急性期看護実習	1				
看護基盤実習I	1				
公衆衛生看護学系	1				
ヘルスプロモーション実習	1				
生命倫理学	1				
精神看護学	1				
ナーシングプロセスII	1				
保健医療看護の最前線	1				
国試対策	1				
人体の構造・機能I	1				
人体の構造・機能II	1				

26) 本学に対するご意見や改善点があれば具体的にご記入ください。(自由書式)

意見	件数
各キャンパスの講義室や図書館の Wi-Fi 環境を整えてほしい。	4
学内全体の連絡事項が遅いことが気になりました。(試験時間割、授業時間割、成績表発送等) もう少し早めに教えていただけると有難いかなと思いました。4 年間ありがとうございました。	4
駅から大学まで遠いのでバスなどを出して欲しい。日陰もない道を夏に歩くのはしんどい。夏の間は、バスが利用できるようにして欲しい。	2
学生が相談したことに対して親身に寄り添ってくれる先生もいれば、そうでない先生もいた。	1
担任制とチューター制度の併用が、とても手厚くサポートしていただけて、本当に有難かったです。たくさんご迷惑をおかけして、本当にお世話になりました。	1
国家試験対策の部屋で、成績低迷者に対するサポート授業をしていたため、その部屋を利用して自習することができなかった。授業がある時は他の講義室も開けて欲しい	1
一年のうちに数回模試が欲しい。国試に受かるために何を行うべきかがわからず、なぜ勉強してるかがわかれば積極的に勉強するようになって感じたため。	1
山手キャンパスに食堂がないことや男子トイレが少なすぎる。	1
食堂も小さいので広げて欲しい	1
学食の値段を安くしてほしい	1
事務の人一部の対応がとても嫌な思いをしたので改善すべき	1
事務との連絡がもう少しスムーズにできると良いと思う。	1
重要連絡の呼び出しなどは 4 階の掲示板などでも行っていただけるとありがたいと思う。	1
大学の運営や授業について、できない人に基準を合わせすぎていると感じることがあります。その結果、意欲的に取り組んでいる学生にとって物足りなさや不公平さを感じる場面があります。また、アンケートや意見箱で意見を提出しても、改善や反映が見られず、学生の声を真摯に受け止めてもらえていない印象があります。さらに、授業内容が分かりにくいと感じる科目もあり、説明の工夫や改善を検討していただきたいです。	1
学費が高い	1
大学に 21 時までいたかったです。	1